紫波町施策評価（行政評価）シート

次期総合計画策定のための基礎資料

2026年10月版

紫波町企画総務部企画課

本書について

本書は町の次期総合計画策定のための基礎資料として作成しました。

現行の第三次紫波町総合計画の計画期間における取組内容や成果・課題等について、行政視点から成果や課題等を整理・検証するとともに、各施策に係る施策評価（行政評価）を実施していますので、基礎資料としてご活用ください。

施策評価（行政評価）シート

第1章	【健康・安心】	1
1−1	健康	3
1−2	医療	9
1−3	福祉	13
1−4	食	19
第2章	【自然・産業】	23
2−1	環境	25
2−2	農業	29
2−3	森林・林業	35
2−4	商工業	37
2−5	観光交流・定住	43
2−6	雇用・就労	47
第3章	【安全・快適】	49
3−1	都市計画	51
3−2	道路・河川	55
3−3	上下水道	59
3−4	住宅・公園・公共交通	63
3−5	交通安全	67
3−6	防犯	71
3−7	消防	73
3−8	防災	75
第4章	【子ども・教育・文化】	77
4−1	保育・教育	79
4−2	子育て支援	87
4−3	生涯学習	89
第5章	【自治・参加】	95
5−1	協働	97
5−2	コミュニティ	101
5−3	共生社会	105
5−4	情報	109
【行財政経営】		113
行−1	行政サービス	115
行−2	行財政	119

第1章 【健康・安心】

<1−1> 健康

<1−2> 医療

<1−3> 福祉

<1−4> 食

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【健康・安心】分野 健康

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		健康・安心	第1章　誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
基本計画	基本施策		健康	第1節　一人ひとりが心身ともに健康な生活を送っている
		施策項目	母子保健	第1項　妊娠期から子育て期まで安心して過ごすことができ、子どもが健やかに成長する
			成人保健	第2項　病気の予防に取り組む人が増えている
			健康づくり	第3項　健康に関心を持ち、行動する人が増えている
			感染症予防	第4項　感染症予防に取り組む人が増えている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
母子保健	第1項　妊娠期から子育て期まで安心して過ごすことができ、子どもが健やかに成長する	3	0	0	2	1	0.0%
成人保健	第2項　病気の予防に取り組む人が増えている	2	0	0	2	0	0.0%
健康づくり	第3項　健康に関心を持ち、行動する人が増えている	1	0	0	0	1	0.0%
感染症予防	第4項　感染症予防に取り組む人が増えている	2	0	0	1	1	0.0%
施策内計		8	0	0	5	3	0.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
母子保健	安心して妊娠・出産・育児ができる環境が整っていると感じますか	56.7%	B+	94.2%	AAA+
成人保健	町が実施する健康診断や予防接種を適切に受けられていますか	76.7%	AA+	92.7%	AAA+
健康づくり					
感染症予防					

施策項目別評価シート ＜母子保健＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第1節	一人ひとりが心身ともに健康な生活を送っている
	実現したい具体的な状態 第1項	妊娠期から子育て期まで安心して過ごすことができ、子どもが健やかに成長する

分野別政策	健康・安心
基本施策	健康
施策項目	母子保健

担当課	健康福祉課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
妊娠早期（妊娠11週以下）に妊娠届出を行う者の割合	%	95.9 (H30) 拡大	92.5	92.5	94.9	97.9	95.8	94.2			98.5	×
産後に助産師や保健師等からの助言を十分受けられたと感じた割合	%	90.5 (H30) 拡大	92.5	95.5	90.9	89.6	93.3	90.6			95.0	△
乳児等訪問の満足度	%	92.8 (H30) 拡大	94.8	96.8	90.9	89.6	94.2	92.5			98.0	△

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
安心して妊娠・出産・育児ができる環境が整っていると感じますか	56.7%	B＋	94.2%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和4年度から高校生に対してプレコンセプションケア、令和6年度から産後ケア事業、令和8年度から5歳児健診を実施し母子保健事業の充実を図っている。
・妊娠届出時には出産予定日を確認し、届出の週数によって母子健康手帳交付設定日以外の対応を調整して対応している。
・妊娠中から機会を捉えて伴走型の相談支援を実施している。
・特定妊婦については、対象者とともに支援プランを作成し対象者が適切な支援を受けながら、子育てを継続していくようにしている。
・乳児全戸訪問を実施し、全産婦の相談支援を行っている。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・プレコンセプションケアについては、高校から毎年依頼を受け実施が定着している。R6.R7実施後のアンケート結果では、「ライフプランを考えるきっかけになったか」の質問に全員が「はい」と回答。
・産後ケア利用者の満足度は高く、母親の心身の回復を促し、育児不安やストレスの軽減につながっている。
・特定妊婦については共通の認識を持つことや把握の漏れをなくす手段としてリスクアセスメントシートを活用して特定妊婦の把握につとめた。支援プランの作成により、対象者の課題や、支援者の役割が明確になった。
・母子健康手帳交付、乳児全戸訪問等各機会を捉え、対象と関係を築きながら不安の解消を図ったり、必要な医療や支援に結びつけよりよい状況へ改善している。
・令和7年度からこども家庭センターが設置され、母子保健と児童家庭との連携がよりスムーズになった。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

・町としてプレコンセプションケアに関わる機会は限られているため、妊娠届出の週数への影響がどの程度なのかの把握は難しい。
・産後ケア事業は、医療機関の受け入れ枠の制限や予算的な影響から、利用者のニーズに応じた体制の整備が難しい。
・相談支援を行うためには対象者との関係性を築く必要があり、対応に時間を要したり、拒否的な場合は支援者の心理的な負担が生じる。
・ケースによっては緊急的に動く必要があったり、対象の状況によって支援プランの作成がタイムリーに行えない場合がある。
・限られた人員、予算で母子保健のDX整備を行うことが難しく、DXの整備は不十分である。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・感染症の拡大を機に、事業の実施のあり方を検討し感染症対策を行いながらの事業実施を行うことになった。
・核家族やひとり親の増加、共働き世帯の一般化により、子育ての孤立感や負担感が進んでいる。
・求められる母子保健施策のメニューが増加し、財政面・人員面での課題が顕著になっている。
・ケースの状態に併せて保健、医療、療育、福祉、教育等各専門機関との連携がより一層、求められている。
・子育て世帯の利便性の向上のため、デジタル化が推進されている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・妊娠・出産・育児を通じて、すべての子育て家庭の様々な困難・悩みに応えられる伴走型相談支援を継続していく。
・相談支援を対応する職員が研修を受講し、資質・対応能力向上を図る。
・国の動向に併せて町としての優先順位を検討し、母子保健施策の充実を図っていく。
・ケースについては、児童家庭係及び各関係機関と連携し対応していく。
・母子保健に関わるDX関連の進捗状況のアンテナを高くし、できるところから確実に行っていく。

施策項目別評価シート ＜成人保健＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第1節	一人ひとりが心身ともに健康な生活を送っている
	実現したい具体的な状態 第2項	病気の予防に取り組む人が増えている

分野別政策	健康・安心
基本施策	健康
施策項目	成人保健

担当課	健康福祉課、町民課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
脳血管疾患死亡率	人/10万人	136.5 （H29） 抑制	133.8	115.2	124.8	109.7	123.1				115.0	△
特定保健指導該当者率	%	14.2 （H30） 抑制	13.8	13.6	13.1	13.6	13.2	13.5			13.0	△

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町が実施する健康診断や予防接種を適切に受けられていますか	76.7%	AA＋	92.7%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・「見やすさ」と「分かりやすさ」を」重視したナッジ理論を応用した検診ガイド作成への取組
・通知案内を「世帯通知配付」➡「個別通知郵送」への切替え
・過去の健康診査受診状況やレセプト情報の分析による案内通知の工夫と受診勧奨
・健康診査（検診）について、受診しやすい体制整備（一部検診の同時実施・各地区公民館の巡回・料金設定等）を実施。
・特定保健指導実施率向上にむけた当日の検診会場での初回面接の実施や生活習慣病重症化予防事業（健診結果に合わせた事後フォロー）の取組

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・特定健康診査受診率は、過去6年間　県や国よりも高い水準で推移している。
・特定保健指導該当者率は、目標値に到達していないが、過去6年間13%代をキープしている。
・特定保健指導にLINEを取り入れたことにより、対象者も取り組みやすく、途中脱落せず終了することができている。
・当日の検診会場での特定保健指導（初回面接）を導入したことにより、特定保健指導実施率が微増している。
・生活習慣病重症化リスクの高い対象者には、家庭訪問により保健指導や受診勧奨を実施することができている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・特定保健指導実施率は令和5年度から微増しているが、第3期データヘルス計画の目標値と比較すると差が大きい。
　また、県や国の実施率と比較しても、低い状況が続いている。
・メタボリックシンドローム該当者は、国・県と比較しても割合が高く、近年　増加傾向である。
・国の第4期がん対策推進基本計画において、がん検診受診率60%、精密検査受診率90%を目標としているが、町の現状と比較すると非常に高い目標値である。
　また、県と比較しても受診率は全般的に低い傾向にある。精密検査においては、近年は、大腸がん検診精密検査受診率が他のがん検診と比較し低い。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和2年1月から新型コロナウイルス感染症が大流行したことにより、令和2年度の各種検診受診率が大幅に低下したが、翌年以降から回復している。
（特定保健指導実施率については令和4年度からの回復）
特定健康診査（率）：（R1：59.5　R2:28.9　R3：50.1　R4：51.1　R5：51.1　R6:51.2）
特定保健指導（率）：（R1:24.1　R2：1　R3：2.4　R4:12.9　R5:11　R6:12.9）

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・関係課（町民課）と連携し、引き続き特定健康診査未受診者対策として過去の健診受診状況の分析を行い、受診状況に応じた通知勧奨を行う。
・特定保健指導対象者が、参加しやすく、最終面接まで取り組むことができるような指導方法や内容について関係機関と協議し、検討していく。
・生活習慣病やがん対策について、定期検診の重要性や知識の普及啓発について様々な機会を捉え、情報発信する。
・「次年度にも検診を受けたい」と思ってもらえるような検診環境整備に引き続き取り組んでいく。
・がん検診未受診者の中には、職域等において受診している者がいるが、その受診状況について把握できていない。しかし、国における第4期がん対策推進基本計画等に基づき、令和7年12月に改正された「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」では、職域等がん検診を含めた一体的把握が市町村に求められることになった。よって、職域検診等の受診状況の把握方法については、今後の要検討課題である。

施策項目別評価シート ＜健康づくり＞

基本計画	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第1節	一人ひとりが心身ともに健康な生活を送っている
	実現したい具体的な状態 第3項	健康に関心を持ち、行動する人が増えている

分野別政策	健康・安心
基本施策	健康
施策項目	健康づくり

担当課	健康福祉課、長寿介護課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
日常生活において歩行または同等の身体活動を1時間以上毎日行っている人の割合	%	42.2 （H30） 拡大	41.2	—	—	—	—	36.6			90.0	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町が実施する健康診断や予防接種を適切に受けられていますか	76.7%	AA＋	92.7%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・参加者の傾向や社会情勢に合わせ健康づくり事業の内容や実施方法を変更した。（R2：3事業（延べ6講座）→R8：5事業（延べ20講座））
・健康づくり事業において運動に併せて、栄養やこころの健康について講義する時間を設け、総合的な取り組みとなるように事業を計画している。
・町広報誌やホームページ、LINE等の様々な媒体を使用し、健康に関する情報を周知した。
・ホームページにウォーキングマップを掲載している。加えて、お散歩アプリ「よりみちしわ」を関係課と連携しホームページにて案内している。
・健康づくりに関する民間主催のイベントへ協賛として参加している。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大がきっかけとなり、町民の感染対策への意識が向上した。
・R7度元気はつらつアンケートの結果「運動、スポーツにある程度関心のある人、少しは興味関心がある」と答えた人は、全体の8割を超えている。
・R7度元気はつらつアンケートの結果「運動、スポーツを月1回以上する人」の割合は、令和2年度調査時よりも増加した。20～50歳代では13ptの増加、60歳代では13.6ptの増加となった。
・高齢者の介護予防事業は、フレイル予防の観点から感染予防に配慮しながらも事業継続・再開を早期に行い、社会的孤立の防止・筋力低下の予防に努めた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、健康づくり事業等教室の開催が制限され事業の見合わせがあった。
・コロナ禍は、町民の外出・行動制限等により、他者とのコミュニケーションの減少や外出頻度の減少による身体活動の低下（フレイル）が生じたと考えられる。
・R7度元気はつらつアンケートの結果『ロコモティブシンドロームを知らない』と答えた人は3割弱で推移しており横ばいである。中でも若年層に知らない人が多くいる。
・健康づくり事業に継続して参加している理由として「参加費がかからないこと」を挙げている人もおり、継続した運動習慣の獲得に繋がらない事例がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施・縮小・中止等の判断をする必要があった。
・コロナ禍を経て、事業の見直しが必要となり、予算確保に努めながら健康づくり事業を再開。少しずつ参加者は増えているが、以前の状況に戻すことは容易ではない。
・コロナ禍の影響は大きく、地域が主体となり実施してるいこいの家や健康相談等の機会が減少した。
・参加者や企画運営側の高齢化・固定化等がみられている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・運動習慣のない人を少しでも減らすことを目標に、体を動かすきっかけとなるような事業・教室等の取組をしていく。
・上記を行うためにも、健康づくり事業の開催方法や対象者の絞り込み・選定などを工夫し、発信していく。
・運動に限らず、「自分の健康は自分で守る」というセルフケア能力（健康意識）を高め、個々が取り組むことの重要性について周知していく。
・つどいの場（健康相談）等でライフステージに応じた健康教育・情報提供を継続していく。
・後期高齢者においては、健診未受診等健康状態不明者への家庭訪問を継続実施し、生活状況の確認や必要に応じて医療や介護サービスへ繋いでいく。

施策項目別評価シート ＜感染症予防＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第1節	一人ひとりが心身ともに健康な生活を送っている
	実現したい具体的な状態 第4項	感染症予防に取り組む人が増えている

分野別政策	健康・安心
基本施策	健康
施策項目	感染症予防

担当課	健康福祉課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
麻しん風しん混合第2期接種率	%	94.1 (H30) 拡大	92.2	100.4	98.0	95.2	88.2	94.9			98.5	△
予防接種事故報告件数	件	2 (H30) 抑制	7	4	8	5	18	3			0	×

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
町が実施する健康診断や予防接種を適切に受けられていますか	76.7%	AA＋	92.7%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・麻しん風しん混合第2期の対象者へ年度初めに個別に通知を行い、接種勧奨を行っている。加えて、町広報誌で対象者や接種期間を案内している。
・10～12月頃に未接種者に対して、個別通知や保育施設等を通じて接種勧奨を行っている。
・国の方針に則り、接種期間中に予防接種を受けられなかった者に対して助成を行っている。
（R4～R7:HPVキャッチアップ接種　R7～R8:麻しん風しん混合接種期間延長措置　長期療養を必要とする疾病に罹患した子等への特例措置）
・紫波郡医師会を通じて予防接種についての情報提供を医療機関に行っている。また、接種事故が起きた医療機関へ状況を確認し再発防止に向け指導を行っている。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・個別に接種勧奨を行うことで、通知後の接種者数が増加した。
・未接種者に対して個別に接種勧奨を行うことで、小中学校の長期休暇に併せて接種者数が増加した。
・接種期間中に予防接種を受けられなかった者に対して公費負担期間の延長を行ったことで、正規対象期間中に予防接種を受けることができなかった者が接種できた。
・広報誌等で広く周知を行うことで自身の予防接種歴を振り返ることにつながり、接種勧奨対象者以外の未接種者も予防接種を受けることができた。
・医療機関への予防接種の情報提供や、事故発生時の状況確認、指導を行うことで同一内容の接種事故の抑制につながっている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・個別通知等を行い、接種勧奨を行っているが、予防接種の接種率に上昇がみられない。
一方、麻しん風しん混合第2期の接種率は県と比較し同程度で経過しており、実績と比較し、高い目標となっている。(岩手県(R7):93.4%)
・予防接種実施医療機関における人的エラー(スタッフの確認不足等)が原因で予防接種事故が発生している。
加えて、接種者本人が予防接種履歴を把握できず複数の医療機関で同じ予防接種を行う事例も見られている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の流行をはじめ、百日ぜきや麻しんなどの全国的な流行があった。
・新型コロナウイルス感染症予防接種の臨時接種(R3～R5)及び高齢者の定期接種化(R6～)。高齢者の帯状疱疹予防接種の定期接種化(R7～)。
小児インフルエンザ経鼻予防接種の薬事承認(R6)。妊婦のRSウイルス感染症予防接種(母子免疫ワクチン)の定期接種化(R8～)。
・先進諸外国とのワクチンギャップの解消に向け、定期予防接種の対象ワクチンが増加する傾向にある。
・インターネットやSNS等による予防接種の副反応に注目した情報を基に予防接種を受けることに抵抗感を持つ人が増えた。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・予防接種の正しい知識や感染予防の周知方法を検討し、よりわかりやすく伝わりやすい情報提供を行う。
・予防接種に関わるDXを取り入れ、接種の効率化や接種勧奨を適切に行っていく。また、DXを取り入れることについて住民や医療機関へ丁寧な説明や周知を行っていく。
・住民が主体的に予防接種履歴を確認できる環境を検討し整備を進めていく。
・医師会と連携し感染症対策を検討し、有事の際の行動を随時、検討していく。
・予防接種の機会が平等に得られるよう情報提供を行い、必要に応じて個人の病気等の状況に合わせた対応を引き続き行っていく。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【健康・安心】分野 医療

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		健康・安心	第1章　誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
基本計画	基本施策		医療	第2節　誰でも必要な医療サービスを受けられる環境が整っている
		施策項目	福祉・高齢者医療	第1項　誰でも安心して医療が受けられる
			国保	第2項　国民健康保険が安定して運営されている
			医療体制	第3項　いつでも安心して医療を受けられる体制が整っている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
福祉・高齢者医療	第1項　誰でも安心して医療が受けられる	1	1	0	0	0	100.0%
国保	第2項　国民健康保険が安定して運営されている	2	1	0	1	0	50.0%
医療体制	第3項　いつでも安心して医療を受けられる体制が整っている	1	1	0	0	0	100.0%
施策内計		4	3	0	1	0	75.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
福祉・高齢者医療	医療を安心して受けられていると感じますか	62.7%	A－	94.6%	AAA＋
国保					
感染症予防					

施策項目別評価シート ＜福祉・高齢者医療＞

基本計画	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第2節	誰もが必要な医療サービスを受けられる環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	誰でも安心して医療が受けられる

分野別政策	健康・安心
基本施策	医療
施策項目	福祉・高齢者医療

担当課	町民課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
福祉医療給付対象者申請勧奨	回	ー （ー） 拡大	2	2	4	3	2	3			2	◎
後期高齢者医療制度説明会参加率	%	72.0 （H30） 拡大	ー	0	0	71.0	67.4	制度改正に伴う指標廃止			75.0	ー
限度額適用（標準負担額減額）認定証交付率	%	96.0 （H30） 拡大	79.6	53.7	53.4	34.9	63.6	制度改正に伴う指標廃止			98.0	ー

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
医療を安心して受けられていると感じますか	62.7%	A－	94.6%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和4年8月から町単独事業として、子ども医療費助成対象を18歳到達年度まで拡大し、令和5年8月からは現物給付を開始した。
・令和7年8月から県補助事業に精神障害者保健福祉手帳1級該当者が追加されたことについて町広報誌で周知を図った。
・新たに医療費助成対象となる、または事業切替となる方を抽出し、申請勧奨を実施した。
・申請漏れがないよう関係課と連携し、対象者の把握に努めている。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新たに対象となった高校生等や精神障害者保健福祉手帳1級該当者への申請勧奨により、申請につなげることができた。
・事業切替となる方にも速やかに申請勧奨し、申請につなげることができた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・申請勧奨しても未申請の方が若干存在している。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・近年は、季節を問わない感染症の拡大等により、医療費の支給額が増加傾向にある。
・県内では受給者の公費負担番号の統一化に向け、県及び県内市町村、関連団体と連携し令和9年8月実施に向けた対応の検討をしている。
・団塊の世代が75歳を超え、後期高齢者医療被保険者の増加している。
・医療機関でのオンライン資格確認が開始され、限度額適用（標準負担額減額）認定証の交付を受けなくても、医療機関で個々の認定区分の確認が可能となった。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・子育て世帯や妊産婦、障害者等の経済的負担の軽減を図るため、関係課と連携し、対象者の把握に努め申請勧奨を継続していく。
・医療費助成制度における令和9年の公費負担番号の統一化が円滑に実施できるよう、近隣市町村との情報交換、県、関連団体からの情報収集に努める。

施策項目別評価シート ＜国保＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第2節	誰もが必要な医療サービスを受けられる環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第2項	国民健康保険が安定して運営されている

分野別政策	健康・安心
基本施策	医療
施策項目	国保

担当課	町民課、健康福祉課、税務課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
国民健康保険税収納率	%	94.4 (H30) 拡大	96.2	96.4	96.0	96.2	95.6	94.8			96.0	△
1人当たりの医療費	円	406,500 (H30) 抑制	317,413	329,062	323,816	376,555	406,714	380,941			535,000	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
医療を安心して受けられていると感じますか	62.7%	A－	94.6%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・税の公正かつ公平な賦課徴収及び自主納付の推進(納付方法の電子化や、口座振り込みの推奨)
・広報、ホームページで納期限を周知し期限内納付を周知
・被保険者に医療機関で治療を受けた時の医療費を通知し、医療費や健康に関する啓発を行った。
・服用中の先発医薬品を後発医薬品に切り替えた場合の自己負担軽減額を記載した差額通知により、後発医薬品の利用勧奨を行った。
・過去の特定健診の受診状況を分析し、受診状況に応じた受診勧奨通知を発送し、若年層から高齢者まで様々な年代への受診を呼び掛けた。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・税の収納率(基準値)を維持した。
・医療費の適正化及び健康に対する意識が向上した。
・患者負担が軽減し、医療費が削減された。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新規国民健康保険加入者の口座振替利用が少ない
・マイナ保険証の普及に伴い、国民健康保険証及び限度額認定証の更新手続きがオンライン化され、未納者との接触機会が減少(納税相談)

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・国民健康保険加入者の低所得(軽減世帯)の割合が高い
・マイナ保険証の普及に伴い、国民健康保険証及び限度額認定証の更新手続きがオンライン化され、未納者との接触機会が減少(納税相談)
・令和2年1月から新型コロナウイルス感染症が大流行した。
・都道府県単位での安定的な財政運営の確保、被保険者間の不公平感の解消のため、保険税水準の統一に向けた取組が進んでいる。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・口座振替利用者の向上を図る
・初期未納者の対策の強化を実施(催告書の通知回数の増)
・未納者の納付状況を把握し納税相談、納税指導を行い未納を早期に解消する
・社会保険と国民健康保険の重複加入者の解消
・健康福祉課と連携し、医療費を分析して実態を把握し、医療費が高額になっている原因を究明し、保健指導等を行っていく。

施策項目別評価シート ＜医療体制＞

基本計画	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第2節	誰もが必要な医療サービスを受けられる環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第3項	いつでも安心して医療を受けられる体制が整っている

分野別政策	健康・安心
基本施策	医療
施策項目	医療体制

担当課	健康福祉課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績								目標値(R9)	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
「町民医療」について満足と感じる町民の割合	%	57.3 (H29) 拡大	ー	ー	ー	66.9	ー	ー			60.0	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
医療を安心して受けられていると感じますか	62.7%	A−	94.6%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・休日等における地域住民の救急医療を確保し、住民の生命、健康を守るため、紫波郡医師会に委託し、紫波郡休日救急当番医制事業を実施した。
・盛岡保健医療圏域8市町(盛岡市、八幡平市、滝沢市、岩手郡、紫波郡)により、夜間、休日の入院治療が必要と思われる救急患者を受け入れる医療機関を確保し、圏域内の住民に対する医療サービスの確保するため、盛岡保健医療圏域8市町を代表して各種事務手続きを行う盛岡市と委託契約をし、公的病院等事業費補助事業を実施した。
・同様に事務処理等に必要な経費及び医療機器の導入や更新のために必要な経費の一部を補助するため、盛岡保健医療圏域8市町を代表して各種契約事務手続きを行う盛岡市と委託契約し、盛岡地区二次救急医療補助事業を実施した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・紫波郡医師会との委託・連携により、休日当番医の体制が確保されている。
・盛岡保健医療圏の市町合同事業により、二次救急の体制が確保され、町民がいつでも安心して医療を受けられる体制が維持できている。
・矢巾町に高度医療を担う岩手医科大学附属病院が移転したことや紫波郡内に小児科や整形外科等が開業したことで、安心して医療を受けられる体制が整備されている。
・休日や救急体制のみならず、医療機関の受け入れにより、日頃の通院・予防接種等が滞りなく実施されている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・診療科目によっては紫波郡や町内に少ない物もあり、受診が不便な場合がある。
・地域によっては交通の便が悪く、速やかな受診が困難な地域がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・一部高齢者の通院の問題(同居家族なし、自家用車の運転が困難、公共交通機関がない場合など)。
・高齢化等による多受診・重複受診、または未受診・放置など適正な受診がなされていないこと。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町民へに対し、かかりつけ医を持ち、適正受診の必要性を周知していくこと。
・盛岡広域医療圏の市町と連携し、救急医療体制及び小児救急医療体制をこれまで同様確保していくこと。
・県医師会や紫波郡医師会、紫波町歯科医師団との連携により、町民が安心して受診できるよう医療確保に取り組むこと。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【健康・安心】分野 福祉

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		健康・安心	第1章　誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
基本計画	基本施策		福祉	第3節　一人ひとりが支え合って暮らせる福祉環境が整っている
		施策項目	地域福祉	第1項　地域で福祉が支えられている
			障がい福祉	第2項　障がい者の社会参加と自立への支援が行われている
			高齢者福祉	第3項　高齢者が生きいきと暮らし、地域での活躍や社会参加ができている
			介護保険	第4項　支援や介護が必要になっても、望む場所で望む生活を継続できる高齢者が増える
			生活支援	第5項　経済的に安定した生活のための支援がある

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
地域福祉	第1項　地域で福祉が支えられている	2	0	0	0	2	0.0%
障がい福祉	第2項　障がい者の社会参加と自立への支援が行われている	2	1	1	0	0	100.0%
高齢者福祉	第3項　高齢者が生きいきと暮らし、地域での活躍や社会参加ができている	3	1	2	0	0	100.0%
介護保険	第4項　支援や介護が必要になっても、望む場所で望む生活を継続できる高齢者が増える	3	1	1	0	1	66.7%
生活支援	第5項　経済的に安定した生活のための支援がある	3	2	0	0	1	66.7%
施策内計		13	5	4	0	4	69.2%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
地域福祉	困りごとを抱えた人に対して、町や地域が連携して支援していると感じますか	39.4%	D	89.8%	AAA＋
障がい福祉	障がいのある人が地域で自立した生活を送ることができていると感じますか	38.7%	D	86.0%	AAA＋
高齢者福祉	高齢者が地域で安心して暮らし、必要な支援や介護サービスを受けることができていると感じますか	62.3%	A－	92.0%	AAA＋
介護保険					
生活支援	生活に困ったときに支援を受けられる体制が整っていると感じますか	38.0%	D	86.2%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜地域福祉＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第3節	一人ひとりが支え合って暮らせる福祉環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	地域で福祉が支えられている

分野別政策	健康・安心
基本施策	福祉
施策項目	地域福祉

担当課	健康福祉課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
民生児童委員の地域活動回数	件	3,300 (H30) 維持	2,482	2,985	3,052	3,187	3,227	2,821			3,300	×
自立相談支援件数 ※新規件数	件	77 (H30) 拡大	73	69	52	63	54	57			80	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
困りごとを抱えた人に対して、町や地域が連携して支援していると感じますか	39.4%	D	89.8%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・毎月実施する民生児童委員協議会定例会において情報共有を行った。また、対応困難案件等について支援を行った。
・民生児童委員研修会等に参加した。
・民生児童委員と連携し、地域での要支援者災害時避難行動対策の取組を行った。
・ケース会議等により関係機関と連携することで本人の希望に沿うよう対応、支援に繋げた。
・自殺対策協議会や支援調整会議を開催し、推進体制の強化を図った。
・心の健康フォーラム、ゲートキーパー養成講座を実施し、普及啓発を行った。
・小中学校において、SOS出し方教育を実施し、子どもや若者に対する自殺対策を行った。
・福祉関係部署・関係団体等との連携を密にし、既存の事業・資源を活用しながら重層的支援体制の構築に取り組んだ。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・民生児童委員の研修に参加し各委員の知識を深められたことにより、適切な助言、各機関へのつなぎ役の一助となった。
・各部署の横断的な連携によるケース会議の開催により、個別の円滑な支援につなげることができた。
・災害時避難支援対策の取組を通じ、支え合いの仕組みづくりに寄与した。
・関係機関との連携体制が強化され、地域全体で自殺対策を推進する基盤が整備された。
・普及啓発活動やゲートキーパー養成、SOS教育などの取組により、自殺予防に対する住民の理解や意識向上につながった。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・コロナ禍においては、民生児童委員の活動及び自立相談支援対応に制約が生じ、相談件数が減少した。
・孤立防止のための居場所づくりの充実が課題である。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢化や高齢世帯の増加により、民生児童委員による活動の需要が高まっている一方で、民生児童委員の担い手不足が全国的に深刻となっている。
・住民の個人情報保護への意識が強まり、戸別訪問や相談対応などを受け入れてもらいにくくなってきている。
・70～80代の親がひきこもりの40～50代の子を支える「8050問題」が深刻化している。これに伴い、生活困窮や社会的孤立が社会的な課題となっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・民生児童委員の人材を確保する。
・住民の価値観に対応した相談対応の手法や体制を検討する。

施策項目別評価シート ＜障がい福祉＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第3節	一人ひとりが支え合って暮らせる福祉環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第2項	障がい者の社会参加と自立への支援が行われている

分野別政策	健康・安心
基本施策	福祉
施策項目	障がい福祉

担当課	健康福祉課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
理解促進・啓発活動への参加者数	人	70 (H30) 拡大	0	19	0	226	166	431			100	◎
福祉施設からの一般就労への移行者数	人	2 (H30) 拡大	3	7	2	4	3	3			4	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成(目標値を超えている)　○：概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△：停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×：後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
障がいのある人が地域で自立した生活を送ることができていると感じますか	38.7%	D	86.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・講演会や展示パネルを通じて、障害者やその家族、地域住民の相互理解を図った。
・福祉施設及び相談支援事業所と連携し、対象者の希望を組みながら、一般就労への支援を行った。
・障害者自立支援協議会を開催し、関係機関との連携、研修等を行った。
・基幹相談支援センターによる、関係機関の情報連携、相談体制の強化を図った。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・理解促進・啓発事業におけるアンケート結果では多くの方から高評価を得た。
・就労移行についてはコロナ禍においても、移行者数が減少せずに一定の推移で移行できた。
・基幹相談支援センター企画の研修等の実施により、人材育成が図られた。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・イベントの参加者が限定的になる傾向があることから、広く参加できるような周知等の工夫が必要である。
・町内に就労移行支援事業所がないことから、利用者は近隣市町の事業所を利用している状況である。
・障害者サービス利用者が増加傾向にあるとともに、度重なる制度改正により、手続きが煩雑となり、対応が遅れがちとなっている。また、係るサービス給付も年々増加している。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・AIによる音声認識や自動字幕、視覚アシスト、テレワーク環境の普及など、ICTの力で「身体的・環境的な障壁」を乗り越えやすくなった。
・車椅子や白杖など目に見える障がいへのバリアフリー意識は高まったが、発達障がい、精神障がい、知的障がい、難病など目に見えにくい障がいへの啓発は十分とは言えない。
・就労に関して、精神障がいや発達障がいを持つ方の利用ニーズが急増している。
・障害者サービス利用者が増加傾向にあるとともに、度重なる報酬改正などにより、係るサービス給付費も年々増加している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・これまでの取組を継続しつつ、さらなる参加者や周知の拡大を図っていく。
・近隣市町、事業所と情報共有を図りながら、対象者の希望どおりの就労ができるよう支援していく。

施策項目別評価シート ＜高齢者福祉＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第3節	一人ひとりが支え合って暮らせる福祉環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第3項	高齢者が生きいきと暮らし、地域での活躍や社会参加ができている

分野別政策	健康・安心
基本施策	福祉
施策項目	高齢者福祉

担当課	長寿介護課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
町民主体の集いの場の設置数(町民主体の集いの場、認知症カフェ、いこいの家設置数)	箇所	95 (H30) 拡大	104	136	130	133	138	148			135	◎
介護予防事業(高齢者サロン、いこいの家、元気アップ教室、シルバーリハビリ体操)の延参加者数	人	20,707 (H30) 維持	10,211	10,711	11,418	14,050	14,790	16,110			15,000	○
要介護認定率	%	17.5 (H30) 拡大	17.8	17.7	18.1	18.4	18.4	18.8			19.0	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
高齢者が地域で安心して暮らし、必要な支援や介護サービスを受けることができていると感じますか	62.3%	A−	92.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域住民が主体となって運営する通いの場や交流拠点の立ち上げ支援を行い、活動開始に必要な調整、周知、運営助言を実施した。
・介護予防事業を継続的に開催し、高齢者の参加や運動の機会確保に努めた。
・地域で把握した町民主体活動について、「お宝事例発表会」を開催し、地域と情報共有を図った。
・住民主体で活動している集いの場の把握を継続して行い、その都度周知に努めた。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町民主体の場の設置数が基準値を上回り、地域住民が主体的に集い支え合う仕組みづくりが進んだ。
・介護予防事業の延参加者数が基準値を超え、高齢者の外出機会や健康づくりへの意識向上につながった。
・シルバーリハビリ体操指導者による自主活動が地域に定着し、活動の幅が広がった。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域によって取組状況に差があり、町内全域で均等に町民主体の場が確保されているとは言い難い。
・介護予防事業への参加者が比較的固定化する傾向があり、新規参加者や若い高齢者層の参加拡大が課題である。
・介護予防事業において、会場や運営上の制限から、希望者全員を受け入れられるための十分な枠を確保できていない。
・介護予防事業を展開し、元気な高齢者が増えることを目標としているが、高齢者人口の増加とともに認定率も微増している。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢化の進行により、介護予防の重要性が一層高まり、地域で支え合う仕組みの必要性が増している。
・単身高齢者や高齢者のみ世帯の増加により、孤立防止や見守りを兼ねた通いの場の役割が大きくなっている
・地域のつながりの希薄化や担い手不足が進む中で、行政だけでなく住民、関係団体、専門職が連携する体制の強化が求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・関係機関や地域団体との連携をさらに深め、住民が主体となって支え合う地域包括ケアの基盤強化につなげていく。
・介護予防事業については、参加者数の増加に加え、継続参加や効果の実感につながる内容の充実を進める。
・町民主体の場の新規設置だけでなく、既存の場の継続支援や運営体制の強化に重点を置き、地域に根差した活動の定着を図る。
・新たな集いの場の創出につながるよう、情報発信を継続していく。

施策項目別評価シート ＜介護保険＞

基本計画	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第3節	一人ひとりが支え合って暮らせる福祉環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第4項	支援や介護が必要になっても、望む場所で望む生活を継続できる高齢者が増える

分野別政策	健康・安心
基本施策	福祉
施策項目	介護保険

担当課	長寿介護課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
認知症サポーター養成講座受講者数	人	375 (H30) 維持	207	148	510	319	356	353			375	×
在宅での介護施設待機者数	人	28 (H30) 抑制	27	22	34	26	25	12			15	◎
「高齢者に質の高い介護サービスが行われている」の満足度	%	57.6 (H30) 拡大	―	―	―	59.6	―	―			60.0	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
高齢者が地域で安心して暮らし、必要な支援や介護サービスを受けることができていると感じますか	62.3%	A－	92.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・介護認定審査期間を30日以内とするよう、介護認定審査会のDXに取り組んだ。
・高齢者に適正なサービス提供が行われるよう、岩手県と協同で介護保険施設の指導等を実施した。
・休止している介護サービスについて、適切な運営事業者により新たに介護サービスが提供されるよう調整、交渉を行った。
・地域住民や職域等を対象とした認知症サポーター養成講座を継続的に開催し、認知症への理解普及に努めた。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・介護認定審査期間を30日以内とするよう、介護認定審査会のDXに取り組み、紙ベースで事前提供していた介護認定審査資料を電子化したことで、緊急的な検討案件の追加に対応でき、審査期間の短縮につながった。
・休止しているサービスが新たな事業者により事業運営されることで、介護と医療の複合的なニーズが高まっている中、質の高い介護サービス提供が期待でき、機満足度の向上と施設待者の減少に寄与できる。
・サポーター養成講座を継続的に開催した結果、地域住民や職域における認知症への理解が深まり、地域全体で認知症高齢者を見守り、支え合う意識の醸成につながった。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・若年人口の減少と逆行し高齢者人口の増加による介護給付費の増が見込まれる。
・高齢者人口の増加により介護・医療の複合的なニーズが高まっているが、介護人材の確保や職場への定着が課題になっている。
・認知症サポーター養成講座受講者数が、単年度での変動が大きく、目標値に対して安定的な実績確保ができていない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ 高齢者人口の増加により、医療と介護の複合的なニーズが拡大している。
・ 町内でも地域によって介護事業所の数に差が生じている。
・ 認知症高齢者の増加が見込まれる中、地域全体で支えるための理解者(サポーター)の重要性がさらに高まっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢者に質の高い介護サービスが提供されるよう、事業所の運営が基準通り行われているか、定期的に検査し指導する。
・認知症サポーター養成講座については、これまでの対象に加え、地元企業等への働きかけを継続し、認知症に対する知識の普及・啓発を広げる。
・在宅生活をサポートするため訪問介護サービスは欠かせないものだが、全国的に介護人材の減少とそのことによる事業所の減少が課題となっている。町で展開しているサービス事業所に対する保険給付以外での支援施策を検討する必要性が出てくるものと考えている。

施策項目別評価シート ＜生活支援＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第3節	一人ひとりが支え合って暮らせる福祉環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第5項	経済的に安定した生活のための支援がある

分野別政策	健康・安心
基本施策	福祉
施策項目	生活支援

担当課	町民課、商工観光課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
国民年金制度の周知回数	回	12 (H30) 維持	12	12	12	12	12	12			12	◎
消費者保護制度の周知件数	件	13 (H30) ―	14	15	15	11	指標廃止				18	―
消費者相談件数	件	13 (H30) 拡大	未設定				12	7			18	×
消費者救済資金貸付件数	件	7 (H30) 抑制	13	13	11	10	10	10			6	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
生活に困ったときに支援を受けられる体制が整っていると感じますか	38.0%	D	86.2%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・財務事務局が実施する多重債務相談会の受け入れや、県が実施する研修などを積極的に紫波町で受け入れ、会場手配や広報紙での周知など当日までの準備を行った。
・消費者相談やセミナーのチラシを窓口、情報交流館、公民館等に配下し、周知に努めた。
・年金事務所と連携し、国民年金に関する情報を町広報誌に掲載し制度周知に努めた。
・年金事務所による年金相談会を役場会議室で定期的に開催し、利便性の向上を図っている。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・消費者行政を共同実施している盛岡市消費生活センターの紫波町相談件数は、年々増加しており、困った際に相談できる窓口の認知が進んでいる。
・国民年金に関する記事掲載や年金相談会の実施により、年金制度への理解が深まっている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・相談会は、実施する時期と相談者が相談したいと思うタイミングが合わない場合参加者が少ない。周知したとしても希望者がおらず、中止になることもある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・コロナ禍の外出自粛で、通信販売やインターネット取引の利用に伴うトラブルが増加した。
・デジタル社会への対応、高齢者・若者双方への消費者教育が課題となっている。
・物価高騰による食料品や光熱費など生活必需品の値上がりにより、家計負担が増加した。
・消費者物価指数の上昇により、年金保険料、年金受給額ともに引き上げられている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・紫波町の消費者相談件数、相談内容を盛岡市消費生活センターから定期的に伺い、町内の現状を把握する。
・上記を踏まえ、外部からの相談会やセミナーの案内について、現状に適したものを積極的に周知する。
・広報誌やホームページ、窓口における制度周知の更なる強化を図り、保険料納付率の向上、年金受給権の確保に努める。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【健康・安心】分野 食

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		健康・安心	第1章　誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
基本計画	基本施策		食	第4節　健康で規則正しい食生活を実践している
		施策項目	食生活	第1項　生涯を通じた望ましい食習慣を理解する人が増える
			食文化	第2項　地産地消・食文化の継承がなされている
			食育	第3項　学校給食を通じて、児童・生徒の食生活に対する理解が深まる

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
食生活	第1項　生涯を通じた望ましい食習慣を理解する人が増える	3	1	2	0	0	100.0%
食文化	第2項　地産地消・食文化の継承がなされている	3	2	0	0	1	66.7%
食育	第3項　学校給食を通じて、児童・生徒の食生活に対する理解が深まる	1	1	0	0	0	100.0%
施策内計		7	4	2	0	1	85.7%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
食生活	地元の食材を使った食事や、地域の食文化に触れる機会がありますか	54.1%	B－	76.1%	AA＋
食文化					
食育					

施策項目別評価シート ＜食生活＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第4節	健康で規則正しい食生活を実践している
	実現したい具体的な状態 第1項	生涯を通じた望ましい食習慣を理解する人が増える

分野別政策	健康・安心
基本施策	食
施策項目	食生活

担当課	健康福祉課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
3食食べている3歳児の割合	%	91.3 (H30) 拡大	96.9	99.2	99.2	98.7	99.1	98.4			100	○
朝食を取る人の割合	%	89.0 (H30) 拡大	88.3	－	－	－	－	92			90.0	◎
食育に関心がある人の割合	%	91.0 (H30) 拡大	－	－	83.5	89.0	93.0	93.0			100	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
地元の食材を使った食事や、地域の食文化に触れる機会がありますか	54.1%	B－	76.1%	AA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・母子保健事業において、3食食べることの重要性について、個別指導を行った。
・広報しわねっとで朝食を食べることの大切さについて普及啓発を行っている。
・紫波町食生活改善推進員協議会の活動として、減塩・適塩の普及や郷土料理などの普及などを行った。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・3食食べている人の割合は、R2年度以降、95%を超え高い値で推移している。
・朝食を取る人の割合は、R2年度調査時よりも増加し、R7年度調査時には、目標値を超えている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・3食食べることや朝食を食べることが習慣となっていない家庭が一定数いますが、改善につながっていない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・物価高騰に伴い、食材の購入を控えている家庭も見られる。
・感染症の拡大を機に、食事を伴う地域の集まりや食に関する講座等が減少した。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・3食食べることや朝食を食べることが習慣となっていない家庭に対して、関係機関と連携し、必要時に個別指導をする。
・ライフステージにおける望ましい食習慣についての啓発を継続していく。

施策項目別評価シート ＜食文化＞

基本計画		
	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第4節	健康で規則正しい食生活を実践している
	実現したい具体的な状態 第2項	地産地消・食文化の継承がなされている

分野別政策	健康・安心
基本施策	食
施策項目	食文化

担当課	農政課、学校給食センター

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
児童施設等での野菜づくり体験実施施設数	施設	11 (H29) 維持	11	11	11	11	14	14			11	◎
学校での農業体験実施校数	校	8 (H30) 維持	9(64%)	10(83%)	6(75%)	8(100%)	5(63%)	5(63%)			8	×
食と農の情報発信サイト閲覧数	回	34,728 (H30) 拡大	29,192	41,915	46,262	55,524	74,161	71,365			50,000	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
地元の食材を使った食事や、地域の食文化に触れる機会がありますか	54.1%	B−	76.1%	AA+

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・「学校給食一口メモ」「給食センターだより」による食に関する情報発信を行った。「紫波の食ナビ」のサイトでも、給食を写真付きで紹介した。
・保育所、学校、地域等において、農作業体験、調理体験、郷土料理学習など、食に関する体験活動を実施した。
・学校給食や保育所給食を通じて、栄養バランスや食習慣の形成、地域食材への理解を深める取組を行った。
・庁内関係課による食育推進体制を組織し、子ども、高齢者、健康づくり、教育など各分野で食育を推進した。
・地域団体等と連携し、食文化の継承や共食、世代間交流につながる取組を実施した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・SNSや各種媒体を活用した情報発信により、食育に関する情報を広く届ける環境づくりが進んだ。
・生産者や食育パートナーとの連携により、地域の農畜産物や食文化について学ぶ機会が継続して提供された。
・食の匠や地域団体による郷土食・伝統食の継承活動が継続され、幅広い世代への食文化の伝承につながった。
・学校給食への地元農畜産物の供給が図られ、地域の食材を身近に感じながら学ぶ環境が維持された。
・学校や保育施設等において農業体験や食文化体験が継続的に実施され、子どもたちが食や農への理解を深める機会が確保された。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・農業体験や郷土食継承活動を支える担い手の高齢化が進んでおり、次世代への継承が課題となっている。
・SNS等による情報発信は進んでいるものの、食育の取組や成果が町民全体へ十分に浸透しているとは言い難い。
・農業体験や食文化体験は実施されているものの、一過性の体験にとどまる場合もあり、継続的な学びや行動変容につなげる仕組みづくりが課題である。
・食育事業は学校や保育施設を中心に展開されている一方で、働く世代や子育て世代へのアプローチが十分とは言えず、ライフステージに応じた食育の充実が必要である。
・農業体験や給食を通じた取組は行われているものの、食と農業、地域経済、環境とのつながりまで理解を深める機会は十分とは言えない

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、体験活動や交流事業の実施が制限され、食育活動の手法にも変化が求められた。
・少子高齢化や人口減少の進行により、地域活動や食文化継承を担う人材の確保が課題となっている。
・共働き世帯の増加やライフスタイルの多様化により、家庭で食について学ぶ機会や共食の機会が減少している
・デジタル化の進展により、SNSや動画等を活用した新たな情報発信や学習機会が広がっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・「学校給食一口メモ」「給食センターだより」による食に関する情報発信を持続的に実施する。給食情報は「紫波の食ナビ」サイトから町ホームページに移行し、継続する。
・農業体験や調理体験など、実際に体験しながら学ぶ食育を継続・充実し、食や農への理解を深める。
・食育を健康づくりだけでなく、地産地消、環境、地域づくりなど幅広い分野と関連付けながら推進する。
・SNS等を活用した情報発信を強化し、食育活動への参加や実践につなげる。
・子育て世代や働く世代を対象とした食育の充実を図るとともに、健康づくり、地産地消、環境への配慮など、多様な視点から食について考える機会を創出する。

施策項目別評価シート ＜食育＞

基本計画	分野別将来像 第1章	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
	実現したい状態 第4節	健康で規則正しい食生活を実践している
	実現したい具体的な状態 第3項	学校給食を通じて、児童・生徒の食生活に対する理解が深まる

分野別政策	健康・安心
基本施策	食
施策項目	食育

担当課	学校給食センター

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
食と農の情報発信サイト閲覧数 ※再掲	回	34,728 (H30) 拡大	29,192	41,915	46,262	55,524	74,161	71,365			50,000	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
地元の食材を使った食事や、地域の食文化に触れる機会がありますか	54.1%	B－	76.1%	AA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・献立表に設けている「学校給食一口メモ」や「給食センターだより」に食材や栄養、食文化などの記事を掲載し児童生徒への興味を促した。
・「紫波の食ナビ」ホームページに、毎日給食献立を写真付きでアップし、家庭等に対し給食の情報発信を行った。
・栄養教諭が各校をまわり、食指導や授業を行った。
・学習振り返り給食を実施し、授業での学習を食体験に結び付けた。
・郷土食、よくかむ給食、減塩適塩の日給食、こどもの日や七夕等のイベント給食等を実施した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ホームページで献立、給食一口メモが閲覧されており、児童生徒と保護者に情報を提供できている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・保護者等は、献立表やホームページの閲覧や事業へ協力する義務がないため、児童生徒が理解を深めていても、各家庭で実践できる保証がない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・生産者都合等で、町内産のものが購入できなくなっている食材がある。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・目標を達成していることから、引き続き同内容で取り組みを実施する。

第2章 【自然・産業】

＜2－1＞ 環境
＜2－2＞ 農業
＜2－3＞ 森林・林業
＜2－4＞ 商工業
＜2－5＞ 観光交流・定住
＜2－6＞ 雇用・就労

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自然・産業】分野 環境

1　施策の分類

基本構想	分野別政策	自然・産業	第2章　豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
基本計画	基本施策	環境	第1節　豊かな自然環境が保たれている
	施策項目	環境	第1項　環境に配慮した生活を行い、生命と物を大切にしている
		脱炭素	第2項　町民一人ひとりが地球温暖化防止について考え生活を送っている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
環境	第1項　環境に配慮した生活を行い、生命と物を大切にしている	6	1	2	1	2	50.0%
脱炭素	第2項　町民一人ひとりが地球温暖化防止について考え生活を送っている	2	0	1	1	0	50.0%
施策内計		8	1	3	2	2	50.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
環境	環境や資源循環に配慮した生活をしていますか	92.7%	AAA＋	90.3%	AAA＋
脱炭素	町は、地球温暖化対策やCO2削減の取組を進めていると感じますか	51.6%	B－	85.7%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜環境＞

基本計画		
	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第1節	豊かな自然環境が保たれている
	実現したい具体的な状態 第1項	環境に配慮した生活を行い、生命と物を大切にしている

分野別政策	自然・産業
基本施策	環境
施策項目	環境

担当課	環境課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
環境・循環に関わる活動人数	人	5,036 (H30) 拡大	4,184	3,623	3,886	5,019	4,927	7,016			6,000	◎
一般廃棄物(家庭系)資源化率	%	23.0 (H30) 拡大	19.1	19.9	19.3	18.9	18.0	17.2			28.0	×
クリーン紫波運動参加人数	人	12,414 (H30) 拡大	11,758	12,517	11,537	12,281	12,372	11,942			13,400	×
まちピカ応援隊登録団体数	団体	6 (H30) 拡大	6	6	7	7	7	8			10	○
年間1人当たりごみの排出量	kg	199 (H30) 抑制	212	203	196	194	193	192			170	○
不法投棄苦情件数	件	21 (H30) 抑制	18	40	17	30	29	22			15	△

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
環境や資源循環に配慮した生活をしていますか	92.7%	AAA＋	90.3%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・環境・循環基本計画に基づき、「資源循環」「環境創造」「環境学習」「交流と協働」の4つの方針により循環型まちづくりを推進した。
・クリーン紫波運動やまちピカ応援隊制度を通じて、地域主体の環境美化活動を支援した。
・環境マイスター養成講座やごみ分別説明会出前講座等を実施し、環境学習及び人材育成を推進した。
・資源回収活動への支援や家庭系廃食用油回収等により、ごみ減量及び資源循環を推進した。
・ごみポイ捨て監視員による不法投棄防止パトロールや啓発看板設置などにより、不法投棄防止対策を実施した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・年間1人当たりごみ排出量は減少傾向にあり、ごみ減量意識の定着が進んだ
・まちピカ応援隊制度が定着し、住民や事業者による自主的な環境美化活動が継続されている。
・環境マイスター養成講座等を通じて、環境・循環活動への参加機会の創出や地域で環境活動を担う人材育成が進んだ。
・家庭系廃食用油回収など、住民参加型の資源循環の取組が定着した。
・ごみポイ捨て監視員による巡回や啓発活動を継続し、不法投棄の未然防止に取り組んだ。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・資源化率が低下傾向にあり、燃やせるごみへの雑紙や資源物の混入が課題となっている。
・高齢化、地域コミュニティの変化、子ども活動の縮小等の変化により、クリーン紫波運動や資源回収活動の担い手不足が進行している。
・環境活動や環境団体の活動内容が町民から見えにくく、活動の「見える化」や情報発信の強化が求められている。
・ごみ減量や資源循環に関する取組が町民に十分浸透しておらず、行動変容につなげる取組が必要となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・盛岡広域8市町によるごみ処理広域化の検討が進められており、本町は県内でも1人1日当たりのごみ排出量が比較的高い水準にあることから、広域処理に向けて
ごみ減量及び資源化の取組を一層推進する必要がある
・新型コロナウイルス感染症の影響により、環境学習や地域活動の実施方法の見直しが求められた。
・脱炭素社会や循環経済(サーキュラーエコノミー)の実現に向けた取組が全国的に求められている。
・高齢化、地域コミュニティの変化、子ども活動の縮小等の変化によりクリーン紫波運動や資源回収活動の担い手不足が進行している。
・プラスチック資源循環促進法の施行に伴い、製品プラスチックの資源循環への対応が求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・盛岡広域で進められているごみ処理広域化を見据え、資源物の分別徹底や資源回収活動等を推進し、一般廃棄物資源化率の向上及び年間1人当たりごみ排出量の削減を図る。
・環境マイスターや関係団体と連携した普及啓発を進め、環境・循環に関わる活動人数の増加につなげる。
・小中学校や高校と連携した環境学習やごみ分別教育を充実させ、次世代の担い手育成と家庭への波及効果による資源循環意識の向上を図る。
・クリーン紫波運動やまちピカ応援隊活動を支援し、地域コミュニティと連携した環境美化活動を推進することで、クリーン紫波運動参加人数及びまちピカ応援隊
登録団体数の維持・拡大を図る。
・ごみポイ捨て監視員等との連携による巡回・啓発活動を継続し、不法投棄苦情件数の減少を目指す。

施策項目別評価シート ＜脱炭素＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第1節	豊かな自然環境が保たれている
	実現したい具体的な状態 第2項	町民一人ひとりが地球温暖化防止について考え生活を送っている

分野別政策	自然・産業
基本施策	環境
施策項目	脱炭素

担当課	地球温暖化対策課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
循環型エコプロジェクト推進事業によるCO2削減量	t	2,593 (H29) 維持	1,700	1,505	1,236	1,256	1,028	1,024			2,000	△
紫波中央駅東駐車場利用台数	台	19,217 (H30) 維持	22,269	25,123	23,853	22,783	指標廃止				20,750	ー
再エネ設備の導入容量	KW	ー (H30) 抑制	未設定				21,249	集計中			30,772	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町は、地球温暖化対策やCO2削減の取組を進めていると感じますか	51.6%	B－	85.7%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和3年度に紫波町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)及び(区域施策編)を策定し、温室効果ガス排出削減量の目標値を設定するとともに、地域脱炭素化に向けた見通しを立てた。
・令和5年4月に環境省の「脱炭素先行地域づくり事業」の採択を受け、温室効果ガス排出削減に向けた取組として、脱炭素先行地域内(水分地区・新山地区)の住民及び事業者における再エネ・省エネ設備の導入を支援する間接補助事業の実施やえこ3センター敷地内におけるメタン発酵バイオガス発電設備の整備を開始した。
・循環型エコプロジェクト推進事業を実施し、住民等の温室効果ガス排出削減に資する活動を支援した。
・紫波型断熱改修新規事業化事業等を通じて、住民や事業者等を対象とした各種セミナーやワークショップ等を開催し、暮らしの中におけるエネルギーに対する理解を深めるとともに、創エネや省エネの有効性について周知啓発を行った。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・循環型エコプロジェクト推進事業により、住民等の環境に配慮する行動が促進され、温室効果ガス排出削減に寄与した。
・再エネ設備の導入について、脱炭素先行地域(水分地区・新山地区)において、令和5年度から令和7年度の間に、太陽光発電設備48件、蓄電池55件、高効率空調設備100件、高効率給湯器43件、高効率照明機器2件の導入及び既存住宅断熱改修5件の実施があり、地域脱炭素化が推進された。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・循環型エコプロジェクト推進事業について、コロナウイルスによる生活様式の変更の影響やこれまで当該事業の活動を行ってきた住民等の高齢化など、様々な要因が重なり、実績が減少傾向にある。
・脱炭素先行地域づくり事業における間接補助事業では、地域における再エネ・省エネ設備の導入に対し一定の効果を上げているが、紫波町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)における温室効果ガス排出削減量の目標値達成に向けて、これまで以上に住民等の理解と行動変容を促す必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・世界的な情勢の変化により、近年、石油をはじめとしたエネルギー源が高騰し、これに伴い、電気料金等のエネルギーコストも上昇傾向にある。
・物価高騰等の影響により、再エネ・省エネ設備にかかる建設費も上昇傾向にあり、設備導入による費用対効果が薄れてきている。
・「温室効果ガス」や「エネルギー」といった、目に見えず分かりにくい分野であるため、様々な機会を通じてリテラシーの向上を図る必要がある。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・脱炭素先行地域づくり事業の取り組みを町内全域に波及させるような制度設計及び財源の確保が必要である。
・循環型エコプロジェクト推進事業のメニューについて検討・開発する。
・地域脱炭素化に対する住民等のリテラシー向上及び行動変容を促す。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自然・産業】分野 農業

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		自然・産業	第2章　豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
基本計画	基本施策		農業	第2節　農業の担い手・安定的な就業の場が確保されている
		施策項目	農業経営	第1項　農家所得が向上し、個々の経営体の経営が安定する
			農畜産物	第2項　循環型農業・農畜産物の安定供給ができている
			地産地消	第3項　町内産の農産物・加工品の消費が拡大されている
			農業生産	第4項　生産者が安心して営農できる農業生産基盤が整う

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
農業経営	第1項　農家所得が向上し、個々の経営体の経営が安定する	4	1	1	0	2	50.0%
農畜産物	第2項　循環型農業・農畜産物の安定供給ができている	6	1	0	3	2	16.7%
地産地消	第3項　町内産の農産物・加工品の消費が拡大されている	4	2	0	1	1	50.0%
農業生産	第4項　生産者が安心して営農できる農業生産基盤が整う	3	2	0	0	1	66.7%
施策内計		17	6	1	4	6	41.2%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
農業経営	町内で農業が安定して営まれ、農産物が安定して供給されていると感じますか	59.2%	B＋	90.4%	AAA＋
農畜産物					
地産地消					
農業生産					

施策項目別評価シート ＜農業経営＞

基本計画		
	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第2節	農業の担い手・安定的な就業の場が確保されている
	実現したい具体的な状態 第1項	農家所得が向上し、個々の経営体の経営が安定する

分野別政策	自然・産業
基本施策	農業
施策項目	農業経営

担当課	農政課、農業委員会

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
認定農業者等の個人経営体数	経営体	199 (H30) 維持	188	177	174	172	164	156			180	×
親元就農者数	経営体	1 (H30) 拡大	3	2	5	3	1	1			5	×
新規就農者数	経営体	3 (H30) 拡大	12	2	6	7	4	6			5	○
集落営農等組織経営体数	経営体	45 (H30) 維持	48	46	47	56	46	46			41	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町内で農業が安定して営まれ、農産物が安定して供給されていると感じますか	59.2%	B＋	90.4%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・盛岡農業改良普及センターやいわて中央農協等と共に現地支援チームを組織し、集落営農組織法人化の推進等を行った。
・国事業を活用した補助金のほか、町独自の「親元就農支援補助金」や「新規就農者経営安定支援事業補助金」等で次世代の農業者の確保と定着を支援した
・新・農業人フェア等のイベントに参加し、新規就農へのPRを行った。
・国や県の補助金や町独自の「産業用マルチローター技術習得事業費補助金」等で機械導入や農業へのICT導入等を支援した
・新規就農者に対する農地斡旋や家族経営協定の締結支援を行うとともに、新規就農者アンケートを実施し課題把握に努めた。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・団体経営体（法人）への農地集積が進展し、地域の農地の受け皿としての基盤が強化された
・親元就農支援や新規就農者への補助金交付により、次世代の農業の担い手確保につながった。
・集落営農組織の法人化により、安定した経営が実行されている（令和2年に1経営体が法人を設立）。
・労働力不足への対応として、デイワークやタイミー等のスポットワークアプリを活用し、農繁期における作業人員を機動的に確保する動きが見られるなど、雇用形態の柔軟化が進んでいる
・家族経営協定の締結により、家族間の役割分担の明確化や労働環境の改善が図られた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・認定農業者の個人経営体数が減少しており、基幹的農業従事者の高齢化も一層進行している
・職の選択肢が広がっていることにより、農業を選択する者が減り、親元就農者数は減少傾向にある。
・法人化できていない集落営農組織は、高齢化や担い手不足により事業の持続性がない。
・高齢化による離農者が続出する一方、それを補う新規就農者が圧倒的に不足しており、農業生産構造の維持が困難になりつつある

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢化により認定農業者を更新する経営体が減少している。
・定年延長及び高齢化により、紫波町の農業従事者数は減少している（R2年：1,729人、R7年：1,282人）。
・コロナ禍や国際紛争に起因する生産コストの急激な上昇が、個々の経営体の安定を脅かす要因や新規参入の初期投資資金が増大する要因となっている
・小規模農家が減少する一方で、10.0ha以上の大規模経営体が増加しており、構造的な変化が加速している
・従来の臨時雇用の確保が困難になる中、デジタル技術を活用したスポットアルバイトアプリによる人材獲得の動きがでてきている

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・認定農業者及び認定新規就農者へ農地を集積し所得を確保すると共に、規模拡大のための支援を行っていく。
・法人化支援により農業の通年雇用を促進すると共に、経営の大規模化を推進していく。
・作業効率の向上に寄与する圃場集約化について、地域の実情に寄り添いながらその手法を検討していく
・人材不足を補い、個々の経営体の負担を軽減するため、ICT化技術等の導入を検討する農業者に対し、経営状況に応じた柔軟な情報提供や導入支援に努めていく
・高齢層のリタイアが加速する情勢を踏まえ、第三者継承や雇用就農を含め、地域農業を次世代へ引き継ぐ環境づくりを検討する

施策項目別評価シート ＜農畜産物＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第2節	農業の担い手・安定的な就業の場が確保されている
	実現したい具体的な状態 第2項	循環型農業・農畜産物の安定供給ができている

分野別政策	自然・産業
基本施策	農業
施策項目	農畜産物

担当課	農政課、環境課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
主な野菜作付面積(きゅうり、トマト、ピーマン)	ha	35 (H30) 維持	29	34	33	33	33	33			35	△
主な果樹栽培面積(りんご、もも、ぶどう、洋なし)	ha	264 (H30) 維持	473	260	260	260	260	260			263	△
家畜(牛)の飼養頭数	頭	1,579 (H30) 維持	1,594	1,501	1,378	1,579	1,423	1,534			1,600	△
家畜(豚)の飼養頭数	頭	3,520 (H30) 維持	3,571	3,795	3,348	3,520	2,587	1,588			3,500	×
町の堆肥供給量	t	1,094 (H30) 維持	805	563	663	423	598	506			800	×
野生鳥獣による被害面積	a	1,718 (H30) 抑制	7,097	4,478	3,502	1,264	1,260	1,046			1,500	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町内で農業が安定して営まれ、農産物が安定して供給されていると感じますか	59.2%	B＋	90.4%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・野菜・果樹・畜産を中心とした農畜産物の生産振興を図るため、各種補助事業を活用し、生産基盤の維持・強化を支援した。
・肥育素牛導入支援事業や畜産クラスター事業等を活用し、畜産経営の安定化や施設整備、生産性向上を推進した。
・循環型農業推進事業により「紫あ波せみらいたい肥」の利用促進や耕畜連携を進めるとともに、有機農業やスマート農業など持続可能な農業を推進した。
・野生鳥獣被害対策として、防護柵の設置や捕獲活動を推進するとともに、狩猟資格取得費用の助成や免許取得の普及活動を実施した。
・新たな土地利用型作物(子実とうもろこし)の導入を支援した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・主な野菜・果樹の作付面積は概ね維持され、地域農業の生産基盤の維持につながった。
・肥育素牛導入支援や畜産クラスター事業等により、畜産経営の継続や生産基盤の維持が図られ、牛の飼養頭数は目標水準まで回復した。
・野生鳥獣による被害面積は、防護柵設置や捕獲強化の効果により大幅に減少し、計画目標を達成した。
・子実とうもろこしやスマート農業など、新たな営農技術の導入が進み、持続可能な農業への取組が推進された。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・生産資材や飼料価格の高騰により、農業・畜産経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いている。
・高齢化や担い手不足により、畜産農家の減少が進み、生産基盤の維持が課題となっている。
・「紫あ波せみらいたい肥」は、散布機械の減少や散布労力の負担などにより供給量が目標に達していない。
・気候変動や鳥獣の生息域拡大への対応など、安定した農業生産を継続するための対策強化が求められている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症や国際情勢の変化を背景に、肥料・飼料・燃油等の価格が高騰し、農業経営への影響が拡大した。
・畜産分野では、子牛価格の下落や生産資材価格の高騰により、経営環境が一層厳しくなった。
・農業従事者の高齢化や担い手不足が進む一方、スマート農業や省力化技術への期待が高まっている。
・気候変動による高温・豪雨の増加など、生産環境の変化への対応が求められている。
・野生鳥獣の生息域の拡大や個体数の増加、狩猟者の高齢化・担い手不足が課題となるとともに、市街地や住宅地でのクマ等の出没が増え、住民の安全確保が重要な課題となっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・「フルーツ王国しわ」の実現に向け、果樹産地の維持・拡大、高品質生産及び担い手育成を推進するとともに、ブランド力向上と販路拡大を図る。
・肥育素牛導入支援や畜産クラスター事業等を継続し、畜産経営の安定化と家畜飼養頭数の維持・拡大を推進する。
・スマート農業や省力化技術の導入を進めるとともに、環境保全型農業や有機農業を推進し、持続可能な農業経営を支援する。
・「紫あ波せみらいたい肥」の利用促進や耕畜連携をさらに推進し、地域資源循環による循環型農業を強化する。
・鳥獣被害対策専門員を中心に、地域ぐるみで防護・捕獲・人材育成を一体的に進めるとともに、農作物被害の軽減と住民の安全確保を図る。

施策項目別評価シート ＜地産地消＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第2節	農業の担い手・安定的な就業の場が確保されている
	実現したい具体的な状態 第3項	町内産の農産物・加工品の消費が拡大されている

分野別政策	自然・産業
基本施策	農業
施策項目	地産地消

担当課	農政課、商工観光課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
町内農産物を購入している人の割合	%	95.0 (H30) 維持	ー	ー	76.2	ー	90.0	96.5			80.0	◎
産直販売額	百万円	947 (H30) 維持	967	930	894	900	943	961			950	◎
6次産業化・地産地消に基づく事業計画の認定者数	団体	6 (H30) 拡大	6	6	6	6	6	6			9	△
農村体験プログラム数	個	1 (H30) 拡大	1	1	2	2	1	1			6	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町内で農業が安定して営まれ、農産物が安定して供給されていると感じますか	59.2%	B＋	90.4%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・学校給食等における地場産農産物の活用を進め、子どもたちが地域の食材に触れる機会を確保した。
・実践実証プロジェクト等を通じて、地域主体による地産地消や食の魅力発信の取組を支援した。
・産直やイベント、SNS等を通じて、町内農産物や加工品の魅力発信に取り組んだ。
・農村体験プログラムへの参画者を増やすために、民泊の基礎知識などを学ぶセミナーを実施。
・姉妹都市である日野市の小学生を受け入れ、農泊体験を実施し、町内の農業やと農産物に触れる機会を作った。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・実践実証プロジェクト等を通じて、地域団体や事業者による主体的な取組が展開され、食育パートナーや地産地消活動に関わる人材・団体の広がりが見られた。
・学校給食や地域イベント等における地場産農産物の活用が継続され、子どもたちや地域住民の地産地消への理解促進が図られた。
・地域食材を活用した商品や取組が町内外で評価され、紫波町の食の魅力発信につながった。
・コロナ禍を経て各種イベントや交流事業が再開され、生産者と消費者、交流人口をつなぐ機会の回復が見られた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・産直や地域活動を支える担い手の高齢化が進んでおり、活動の継続や後継者確保が依然として課題となっている。
・地場産農産物の活用は進んでいるものの、流通や供給体制の課題から地域内消費のさらなる拡大には至っていない
・地産地消の取組や地域産品の魅力について、町民や町外への情報発信が十分とはいえない状況がある。
・グリーンツーリズムやフードツーリズムについては、継続的な展開や誘客につながる仕組みづくりや町民のインバウンドに対する懸念が課題となっている。
・農村体験プログラムに関しては、受入農家はあるものの、体験パッケージをリリースできていない時期が続いたため、休眠状態が続いた。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・食料価格や農業資材価格の高騰により、生産者・消費者双方への影響が拡大している。
・気候変動による高温や異常気象が頻発し、果樹や農産物の生産環境に影響を及ぼしている。
・農業者の高齢化や担い手不足が一層進行し、産地や地域活動の維持が課題となっている。
・農村体験プログラムに関しては、宿泊地となる農家の高齢化問題や、民泊関連法制度の変化が著しいため、受入環境の見直しと改善に努める必要がある。
・新型コロナウイルス感染症による行動制限は収束し、交流人口の回復が見られる一方、消費行動や観光需要の変化も見られる

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域内経済循環の促進のため、学校給食、産直、飲食店等との連携を強化し、地場産農産物の利用拡大を図る。
・地域内経済循環の促進と農産物の高付加価値化を図るため、地域内消費の拡大と地域資源を活かした取組を推進し、食と農が地域の誇りとなるまちづくりにつなげる。
・地産地消活動の持続的な推進のため、地域団体や事業者が主体的に取り組める仕組みを整える。
・町内農産物や加工品の消費拡大と交流人口の拡大のため、紫波町の農畜産物、加工品などの魅力を分かりやすく発信し、認知度向上を図る。
・農村体験プログラムに関しては、地方に接点のない家庭が首都圏で増加傾向にあることから、都市部での農村体験需要が高まると期待できることから、農村体験プログラムの充実と受入体制の強化を進める。

施策項目別評価シート ＜農業生産＞

基本計画		
	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第2節	農業の担い手・安定的な就業の場が確保されている
	実現したい具体的な状態 第4項	生産者が安心して営農できる農業生産基盤が整う

分野別政策	自然・産業
基本施策	農業
施策項目	農業生産

担当課	農政課、農業委員会

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
中心経営体への農地集積率	%	77.1 (H30) 拡大	73.0	68.1	67.9	67.9	指標廃止				80.0	ー
地域の担い手に集積される農地の集積率	%	74.7 (H30) 拡大	未設定				69.1	68.5			80.0	×
多面的及び中山間直接支払事業に包含される農地の割合	%	69.7 (H30) 拡大	75.5	79.4	79.4	79.5	81.3	82.0			80.0	◎
耕作放棄地面積	ha	183 (H30) 抑制	63.9	61.3	55.6	48.0	40.0	43.0			44	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町内で農業が安定して営まれ、農産物が安定して供給されていると感じますか	59.2%	B＋	90.4%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・農地中間管理機構と連携し農地利用集積・集約化の推進に取り組んだ。
・多面的機能交付金事業や中山間地域等支払交付金を活用し、農地の適正な維持管理を支援した。
・地域農業の担い手組織の集落営農・法人化の支援を実施した。
・農地パトロールの実施や非農地判断により、農地の利用状況、適正管理を調査した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・農地中間管理機構との連携による担い手への農地の賃借、売買の促進が図られた。
・地域計画策定により、地域で遊休農地の取扱いを話し合う土台ができた。
・農地の集約化が進み、効率的な営農が可能になった。
・農業用水路などの施設の補修修繕により、作業負担の軽減と生産リスクの低減が図られた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢化により農地管理の継続が困難な地域が増加。集落営農の担い手の確保が難しく、組織の維持に課題がある。
・狭小、排水不良等の条件不利地が存在し、農地集積を進めるうえで課題となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・農業人口の急速な減少と高齢化により、担い手不足が構造的な課題でとなっており、農地保全の仕組みの再構築が必要
・農業を持続させるためには、経済性の確保が必要であり、意欲ある担い手への農地集積・集約を推進する必要がある。
・老朽化した施設の補修・更新について、支援を継続する必要がある。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・農地利用の最適化（農地の集積集約、遊休農地の解消、担い手の育成）に継続して取り組む。
・農業用施設の計画的な更新と維持管理体制の構築が必要である。
・各種事業を活用し、農地の耕作条件の改善を支援する。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自然・産業】分野 森林・林業

1　施策の分類

基本構想	分野別政策	自然・産業	第2章　豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
基本計画	基本施策	森林・林業	第3節　環境の負荷に配慮した低炭素社会が進む
	施策項目	森林保全	第1項　良好な森林環境の保全と森林資源の活用が図られている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
森林保全	第1項　良好な森林環境の保全と森林資源の活用が図られている	3	2	1	0	0	100.0%
施策内計		3	2	1	0	0	100.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
森林保全	森林が保全され、町の森林資源が活用されていると感じますか	39.1%	D	78.1%	AA＋

施策項目別評価シート ＜森林保全＞

基本計画		
	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第3節	環境の負荷に配慮した低炭素社会が進む
	実現したい具体的な状態 第1項	良好な森林環境の保全と森林資源の活用が図られている

分野別政策	自然・産業
基本施策	森林・林業
施策項目	森林保全

担当課	環境課、地球温暖化対策課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
林家意向調査の延べ実施件数	件	ー （－） 拡大	0	0	237	308	384	470			800	○
松くい虫駆除材積	㎥	340 (H30) 抑制	197	132	116	106	100	94			200	◎
木質チップ販売量	t	1,114 (H30) 拡大	1,038	1,236	1,374	975	1,146	1,217			1,200	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
森林が保全され、町の森林資源が活用されていると感じますか	39.1%	D	78.1%	AA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・森林病害虫駆除、再造林から保育までの森林整備、治山対策、林道監視員の配置を行い、森林の監視から保全まで多角的に取り組んだ
・森林経営管理制度による意向調査を進め、手入れの行き届いていない私有人工林整備を行った
・私有人工林整備を推し進めるため、森林環境譲与税を活用した町独自の補助金制度を創設し、森林所有者等を支援した
・町産木材の利用促進のため、木質燃料用チップ製造を行いチップボイラー燃料として供給した
・CO2排出量削減のため、循環型エコプロジェクト推進事業による間伐等促進対策事業や間伐材等集積事業により森林所有者やボランティア団体を支援した

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・間伐や再造林などを通じて森林の手入れが進むことから、二酸化炭素の吸収源の役割を高め、山地や荒廃した森林を土砂災害から守られ、森林保全が図られる
・森林環境譲与税を活用した森林整備が行われることで、森林所有者の負担軽減に繋がり、私有林の手入れが進み、森林に対する所有者意識の向上に繋がる
・町産木材利用を推進することで森林から木材が切り出され、建築資材や燃料に利用される流通が生まれ地域経済の活性化に繋がり、森林の再造林が行われ、環境循環基本計画に位置付ける森林資源循環が進む

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウィルスによる生活様式の変更により、林家意向調査の進捗に遅れが生じ、目標件数を達成できなかった。
・松くい虫駆除は県補助金を活用しているが、先端地域に補助金が重点配分されており、町への配分が減少している。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・政府はR5.5.30閣議決定にてスギ人工林の伐採・植替等の指標を定めた(花粉症に関する関係閣僚会議)
・国(林野庁)は花粉発生源対策推進方針をR6.4.3に改正し、岩手県におけるスギ人工林伐採重点区域を設定　5,743.70ha(うち紫波町569.72ha(志和区域))

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

持続的な森林保全を目指すため
・森林経営管理制度における意向調査を進め 、集約化による森林整備を進める
・町産木材利用を推進し、循環型エコプロジェクト推進事業や木質チップ製造を継続し、森林資源循環を図る

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自然・産業】分野 商工業

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		自然・産業	第2章　豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
基本計画	基本施策		商工業	第4節　今ある価値を高めるような商工業の活動が行われている
		施策項目	商工業振興	第1項　既存の産業及び事業者発展している
			起業支援	第2項　リノベーションまちづくり手法を取り入れた賑わいの再生が進む
			企業誘致	第3項　地域の活性化につながる新たな中小企業の活動が創出されている
			特産品	第4項　伝統産業の技術と文化が振興し販路が拡大している

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
商工業振興	第1項　既存の産業及び事業者発展している	2	1	0	1	0	50.0%
起業支援	第2項　リノベーションまちづくり手法を取り入れた賑わいの再生が進む	3	1	0	2	0	33.3%
企業誘致	第3項　地域の活性化につながる新たな中小企業の活動が創出されている	2	0	0	1	1	0.0%
特産品	第4項　伝統産業の技術と文化が振興し販路が拡大している	3	0	1	0	2	33.3%
施策内計		10	2	1	4	3	30.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
商工業振興	町内の中小企業や商店街に活気があると感じますか	22.5%	D	80.2%	AAA－
起業支援	町内で起業や新しいことにチャレンジしやすい環境があると感じますか	35.8%	D	76.3%	AA＋
企業誘致	企業の進出や産業の活性化が進んでいると感じますか	18.8%	D	80.3%	AAA－
特産品	町の特産品のPRや、ブランド化が進んでいると感じますか	42.9%	C－	80.3%	AAA－

施策項目別評価シート ＜商工業振興＞

基本計画		
	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第4節	今ある価値を高めるような商工業の活動が行われている
	実現したい具体的な状態 第1項	既存の産業及び事業者発展している

分野別政策	自然・産業
基本施策	商工業
施策項目	商工業振興

担当課	商工観光課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
イベント集客者数	人	4,366 (H30) 拡大	2,726	4,669	6,300	3,957	4,500	4,500			5,000	△
中小企業振興資金融資件数	件	27 (H30) 抑制	12	6	25	19	27	37			30	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
町内の中小企業や商店街に活気があると感じますか	22.5%	D	80.2%	AAA－

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和6年度に紫波町中小企業振興条例を制定し、令和7年度以降振興会議や幹事会を開き中小企業支援の施策について検討している。
・物価高騰等により、年々融資件数が増えてきているが、利子補給等対応を行っている。
・日詰商店街の駐車場に隣接するせせらぎトイレの改修を行った。
・コロナウイルスの影響や物価高騰による支援を行った。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・商店街の交流人口に関しては、平井家住宅（平井邸）への来場者の増加に伴い、自然な増加傾向が伺える。
・トイレを改修することで日詰商店街を利用する方の利便性が図られた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・指標となるイベント集客者数に関して、事業予算や明確な担当事業が存在しないため、集計環境含め、対策と改善の要素がなく、自然増を期待するのみである。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・コロナウイルス感染拡大により経済活動が大きく停滞。外出自粛や営業制限で売上が急減し、政府の持続化給付金や実質無利子・無担保融資などの支援策が実施された。
・エネルギー価格・原材料価格が高騰。急速な円安も進み、仕入れコストが増加。
・働き方改革関連法による時間外労働規制（建設・運送業など）が本格適用。
・人手不足が深刻化し、省力化投資やDX・AI活用が拡大。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・商店街に関しては、担当課を明確にする必要がある。（補助金などは商工観光課だが、現在、実務領域では地域づくり課の所管となっている）
・中小企業振興会議にて、中小企業支援策について検討を進めていく。

施策項目別評価シート ＜起業支援＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第4節	今ある価値を高めるような商工業の活動が行われている
	実現したい具体的な状態 第2項	リノベーションまちづくり手法を取り入れた賑わいの再生が進む

分野別政策	自然・産業
基本施策	商工業
施策項目	起業支援

担当課	地域づくり課、商工観光課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
起業相談先リストの作成	件	1 （R元）	―	―	―	0	0	0			1	△
家守事業者による不動産活用	件	2 （R元）	0	0	1	1	0	0			4	△
起業・第2創業相談件数	件	6 （H30）	5	0	2	0	14	18			6	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町内で起業や新しいことにチャレンジしやすい環境があると感じますか	35.8%	D	76.3%	AA+

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・盛岡市、滝沢市、矢巾町、紫波町の4市町で、起業を検討してる方（起業検討者及び準備者）及び起業初期の方に対し、起業のために必要な基礎知識を身に着ける講座を開催した。
・特定創業支援等事業による支援を受け、起業・創業しようとする方へ、証明書の発行を行った。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・起業、創業に興味のある人が気軽に参加しやすく、同じ悩みを持った人で相談しあえる機会ができた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・起業状況は調査しているが、起業後の様子や、起業したけどうまくいかずネックになったものの調査まではできていない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・人口減少や若者流出により、そもそもの県内、町内での起業や創業をしたい人口が減少。
・オンライン講座や相談が増え、創業のハードルが下がった。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・講座を受講して終わるのではなく、その後のフォローアップを充実させ、次に受講をする人たちへ役立つ情報を繋げていく。

施策項目別評価シート ＜企業誘致＞

基本計画		
	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第4節	今ある価値を高めるような商工業の活動が行われている
	実現したい具体的な状態 第3項	地域の活性化につながる新たな中小企業の活動が創出されている

分野別政策	自然・産業
基本施策	商工業
施策項目	企業誘致

担当課	商工観光課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
具体的な誘致交渉件数	件	5 (H30) 維持	2	3	0	0	0	0			5	×
新分野等採択件数	件	0 (H30) 拡大	1	1	0	0	1	0			2	△

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
企業の進出や産業の活性化が進んでいると感じますか	18.8%	D	80.3%	AAA－

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ニチコン㈱及びニチコン岩手㈱に対し、条例に則りR7から企業立地奨励金を出している。
・盛岡広域市町と連携し、首都圏での企業誘致活動をおこなっている。
・盛岡広域(盛岡・滝沢・紫波・矢巾)で連携し、起業を目指す人や起業して間もない人のために起業家塾を開催している。
・県と連携して企業訪問をおこない、情報交換を行った。
・R4に産業技術短期大学校と包括連携協定を結んだ。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・紫波町在住者の雇用の創出につながった。
・紫波町での起業が増加した。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・補助金や優遇措置による財政負担が生じている。
・紹介できる土地が限られているため、企業誘致としての実績はない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・半導体、蓄電池、医療関連など戦略産業への投資が活発化した。
・人口減少・高齢化により、多くの地域で人材不足となっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・人口減少・人材不足への対応が必要である。

施策項目別評価シート ＜特産品＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第4節	今ある価値を高めるような商工業の活動が行われている
	実現したい具体的な状態 第4項	伝統産業の技術と文化が振興し販路が拡大している

分野別政策	自然・産業
基本施策	商工業
施策項目	特産品

担当課	商工観光課、農政課、企画課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
ふるさと納税返礼品納入事業者数	か所	29 (H30) 拡大	56	57	96	112	104	114			116	○
特産品PRイベントへの集客者数	人	16,699 (H30) 拡大	5,148	0	12,837	11,528	5,000	4,000			18,000	×
南部杜氏夏季酒造講習会試験合格者数	人	1 (H30) 拡大	0	0	2	1	0	0			2	×

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町の特産品のPRや、ブランド化が進んでいると感じますか	42.9%	C－	80.3%	AAA－

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・姉妹都市・交流都市の産業まつりなどでのPR活動を実施、既存の特産品に新たな付加価値をつける特産品改善(ワイン開発)に取り組んだ。
・南部杜氏協会の講習会により新規人材が育成された。
・元水分小学校を活用した酒と学校にてはじまりのお酒が完成。
・実践実証プロジェクト等を通じて、地域農産物を活用した商品開発や販路拡大に向けた取組を支援した。
・各酒造メーカーの商品をふるさと納税に登録し、事業者の販路拡大を支援

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域おこし協力隊のサポートにより、新たな商品が開発された(紫波フルーツパークのワイン)
・「黄金だしひっつみ」など地域食材を活用した商品や取組が高い評価を受け、紫波町の食の魅力発信につながった。
・ふるさと納税を通じて地酒の販売機会が増え、新たな顧客の獲得に繋がっている。
・町の認知度向上に寄与。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・特産品PRイベントの集客数に関しては、事業予算の削減に伴い、姉妹都市・交流都市でのイベント参加のみと、参加対象イベント数の減少に伴い集客数も年々減少している。
・地域農産物を活用した商品開発の意欲はあるものの、小ロット加工への対応や製造委託先の確保、販売体制の構築などに課題があり、商品化や事業化まで至らない事例がある。
・全国をみるとブランド力や認知度がまだまだ低いので、継続的な情報発信が必要。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・インバウンド増加と物価高騰により、首都圏での宿泊費が高騰。その為、町内事業者は特産品PRの場となるイベント参加数を減少させる傾向がうかがえる。
・SNSやECサイトの普及により、地域産品の情報発信や販売手法が多様化している。
・消費者ニーズの多様化

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・集客力のあるイベントへの参加できるかが、目標値を達成できるかのポイントとなるため、予算次第となる。イベント出店料、または事業者の交通費補助などの予算の有無により、達成の可能性が大きく左右される。
・地域農産物の付加価値向上のため、地域事業者等と連携しながら地域資源を活用した取組を推進する。
・観光客が酒蔵だけでなく、飲食店、宿泊施設なども利用することで、地域経済への波及効果が期待できることから、地域資源と連携した体験活動が必要である。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自然・産業】分野 観光交流・定住

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		自然・産業	第2章　豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
基本計画	基本施策		観光交流・定住	第5節　町に訪れる人・関わる人・住む人が増えている
		施策項目	観光	第1項　交流人口の増加により町内消費が増加している
			移住・定住	第2項　移住・定住先として町が選ばれている
			地方創生	第3項　町内外の人が町に関わりを持つ機会がある

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
観光	第1項　交流人口の増加により町内消費が増加している	1	0	0	0	1	0.0%
移住・定住	第2項　移住・定住先として町が選ばれている	1	0	0	1	0	0.0%
地方創生	第3項　町内外の人が町に関わりを持つ機会がある	2	0	2	0	0	100.0%
施策内計		4	0	2	1	1	50.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
観光	観光やイベントなどにより、町ににぎわいがあると感じますか	46.6%	C＋	79.5%	AA＋
移住・定住	若い世代の移住・定住先として紫波町が選ばれていると感じますか	56.6%	B＋	86.2%	AAA＋
地方創生	町外から訪れたり、関わったりする人が増えていると感じますか	48.0%	C＋	78.0%	AA＋

施策項目別評価シート ＜観光＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第5節	町に訪れる人・関わる人・住む人が増えている
	実現したい具体的な状態 第1項	交流人口の増加により町内消費が増加している

分野別政策	自然・産業
基本施策	観光交流・定住
施策項目	観光

担当課	商工観光課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
交流人口	人	2,456,136 （H30） 拡大	2,102,496	2,046,130	2,021,481	2,256,324	2,114,636	2,080,506			2,550,000	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
観光やイベントなどにより、町ににぎわいがあると感じますか	46.6%	C+	79.5%	AA+

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・関係団体と連携し、イベント集客数拡大に向けた情報発信の改善につとめた。
・新たなイベントやセミナーなど、交流人口拡大のための新しいコンテンツの造成を試みた。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・情報交流館をはじめとするオガールエリアでの交流人口数はイベント数の増加に伴い、増加傾向にある。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・交流人口数の主軸となる産直への来場者数や中心部外の観光施設への来場者数は年々減少傾向にある。
・コロナ禍による見直し等があり、交流人口の集計対象となるイベントや団体が多数なくなっている。
・関係機関や広域連携団体との連携から交流人口拡大の機会増加を試みたが、宿泊費の高騰や出張を補助する予算がないため、広域連携団体からの成果と成長が期待できない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域イベントの運営（主催）団体で世代交代が始まっている。ピーク時には及ばないものの、運営の若返りによるイベントの開催数や集客数での成長による交流人口の拡大が期待できる。
・首都圏や町外での交流人口拡大を試みたが、宿泊費高等により、参加できる事業者がいない。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・目標値達成のためには交流人口を集計できる施設や行事の見直しと、目標値を再設定しない限り達成の見込みはない。第4次総合計画に向けて、対象団体やイベントの再選定と目標値の再設定を進める。
・源泉及び温泉保養公園施設の老朽化が進行しているため、リニューアル等について検討を進めている。

施策項目別評価シート ＜移住・定住＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第5節	町に訪れる人・関わる人・住む人が増えている
	実現したい具体的な状態 第2項	移住・定住先として町が選ばれている

分野別政策	自然・産業
基本施策	観光交流・定住
施策項目	移住・定住

担当課	企画課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
全人口に占める25～39歳人口の比率	%	14.5 (H30) 維持	未設定				14.0	13.9			14.0	△

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
若い世代の移住・定住先として紫波町が選ばれていると感じますか	56.6%	B＋	86.2%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・移住・定住希望者へ必要な情報が届くように、「移住・定住ポータルサイト」の整備・運営を行った。
・コロナ禍ではオンラインで移住相談を行い、R7からは東京現地にて岩手県主催の移住相談会に出展し、対面での移住相談に努めた。
・東京圏からの移住者へのサポートとして、移住支援金の制度を整え、紫波町商工会を通して町内企業に周知し、町HPでも周知に尽力した。
・R8からは、39歳以下で県外からの移住者へのサポートとして若者向けの移住支援金も整備を図り、制度活用に向け推進した。
・結婚を希望する若者向けに、令和7年度から婚活イベントを実施した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・県内他市町村と比較し、転出超過数をゆるやかに抑えることができた。
・「移住・定住ポータルサイト」の整備・運営を行い、紫波町への移住・定住の窓口の役割機能を果たした。
・コロナ禍以降、R7は対面での移住相談を行い、東京圏で紫波町への移住・定住を検討している方に対し、直接アプローチすることができた。
・結婚を希望する若者の出会いの機会を創出することができた。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・移住に対する支援が、移住希望時から移住直後の一定期間に限られており、移住後の地域への定着や継続的な暮らしを支える取組につながっていない。
・婚活イベントにより出会いの機会を創出した一方、イベント参加後の交際や結婚など、その後の成果につながる継続的な支援については十分な取組に至っていない。
・移住・定住ポータルサイトや移住相談会等により情報発信・相談対応を行ってきたものの、相談から実際の移住・定住につながるまでの状況を十分に把握・分析できていない。
・移住支援金等の制度を整備してきた一方、制度の対象となる移住者が限られることから、支援制度だけでは幅広い移住・定住の促進につながりにくい状況となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・全国の自治体で人口減少が進む中で、どの自治体も移住者・定住者向けの施策が多く見られ、紫波町として他市町村との移住・定住施策の差異化を図るところが難航である。
・新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、テレワークや地方での暮らしへの関心が高まり、移住の形態や地方との関わり方が多様化した一方、感染症の収束後は対面での相談・交流機会も再び重要となっている。
・人口減少や少子化が進行する中、移住者の確保だけでなく、若者の町外流出の抑制や、結婚・子育てを含めた定住につながる環境づくりが重要となっている。
・移住希望者のニーズが、単に「移住すること」だけでなく、仕事、住まい、子育て、地域とのつながりなど、移住後の暮らし全体を重視する傾向にあり、移住前後を通じた情報提供や支援の重要性が高まっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・引き続き、移住・定住ポータルサイトの拡充や、オンライン・対面での移住相談会への参加を通じ、移住相談を充実させていく。
・移住支援金等の支援制度を引き続き実施するとともに、町公式SNS等を活用し、制度の周知と利用促進を図る。
・移住後も安心して地域で暮らし続けられるよう、地域とのつながりづくりなど、継続的なサポートの充実を検討する。
・令和9年度から開始する「ふるさと住民登録制度」を活用し、町との継続的な関わりを持つ人を増やすとともに、移住・定住施策と連携し、将来的な移住・定住につなげていく。

施策項目別評価シート ＜地方創生＞

基本計画	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第5節	町に訪れる人・関わる人・住む人が増えている
	実現したい具体的な状態 第3項	町内外の人が町に関わりを持つ機会がある

分野別政策	自然・産業
基本施策	観光交流・定住
施策項目	地方創生

担当課	企画課、全課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
町外での情報発信イベントの参加回数	件	4 (H30) 拡大	0	0	2	4	指標廃止				5	－
地方創生関連SNSフォロワー数	人	1,679 (H30) 拡大	2,841	2,870	2,014	2,010	2,015	2,133			2,400	○
紫波町に愛着を持っている人の割合	%	－ (H30) 拡大	－	－	－	39.0	－	－			42	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗がみられる・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町外から訪れたり、関わったりする人が増えていると感じますか	48.0%	C＋	78.0%	AA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・国の地方創生交付金を活用し、「バレーボールを活用した地域振興事業」、「学校跡地活用まちづくり推進プロジェクト」、「酒のまち紫波ブランディング推進事業」、「温泉保養公園を核としたあづまねエリアブランディング推進事業」、「Re:公民連携事業」などの様々な地方創生施策を展開した。
・「バレーボールを活用した地域振興事業」については、町の地域資源である「バレーボール」を活用して、令和3年度より「バレーボールでつながるまちプロジェクト」を展開しており、SVリーグや東北バレーボールリーグの開催、人材育成事業や地域間交流を実施したほか、令和5年度からは海外代表を毎年誘致し国際親善試合を開催した。
・地域おこし協力隊制度を活用し、地域の活性化に向け、隊員がさまざまなテーマや分野から取組を進めた。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域資源である「バレーボール」をはじめ、酒、温泉、学校跡地等の地域資源を活用した様々な地方創生事業を展開することで、地域の魅力や特色を活かした取組が進んだ。
・令和5年度から実施しているバレー国際親善試合は、県内外の観戦者が多く紫波町に訪れ、関係人口・交流人口の増加につながった。
・地域おこし協力隊の活動や公民連携事業等を通じて、民間事業者や地域人材が地域づくりに関わる機会が生まれ、新たな取組の創出につながった。
・国の地方創生交付金等を活用することで、町単独の財源だけでは実施が難しい新たな事業に取り組むことができた。
・地域資源を活用した取組をSNS等で発信することで、町の取組や魅力を町内外に知ってもらう機会の創出につながった。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域資源を活用した様々な地方創生事業を実施してきたが、事業ごとの取組にとどまり、複数の地域資源を組み合わせた面的な展開には至っていない。
・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域間交流やイベント等の実施機会が制限され、事業の一部で計画どおりの展開ができない期間があった。
・交流人口の創出につながる取組が進んだ一方、来訪を継続的な関係人口や地域づくりへの参画につなげるまでには至っていない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、人流や地域間交流が大きく制限された一方、感染症収束後は交流・イベント等の再開が進んだ。
・人口減少が進む中、定住人口の増加だけでなく、地域外から継続的に地域に関わる「関係人口」の創出・拡大が重視されるようになった。
・地域資源を活用した観光・交流等に加え、地域資源の高付加価値化や地域の「稼ぐ力」の向上など、地域経済につなげる地方創生が重視されるようになった。
・単独自治体による取組に加え、民間事業者や近隣自治体等との連携により、地域課題の解決や地方創生を進める動きが広がっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域資源である「バレーボール」をはじめ、酒、温泉等の地域資源を組み合わせ、交流人口・関係人口の創出につながる取組を展開する。
・来訪を一時的な交流にとどめず、継続的な地域との関わりや地域づくりへの参画につなげる取組を進める。
・地域資源の高付加価値化や民間事業者等との連携を進め、地域経済への波及や事業の自立・継続につながる取組を展開する。
・近隣自治体等との連携や地方創生の横展開を進め、単独自治体では得られない交流や事業効果の創出を図る。
・SNS等を活用し、町の魅力や取組を効果的に発信するとともに、町外との継続的なつながりの創出につなげる。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自然・産業】分野 雇用・就労

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		自然・産業	第2章　豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
基本計画	基本施策		雇用・就労	第6節　町内に就労する人が増え、人材不足が解消している
		施策項目	雇用対策	第1項　町内企業の魅力が向上し、かつ町内の雇用が拡大している

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
雇用対策	第1項　町内企業の魅力が向上し、かつ町内の雇用が拡大している	2	0	1	1	0	50.0%
施策内計		2	0	1	1	0	50.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
雇用対策	町内で働く場所や、働きやすい環境は整っていると感じますか	16.4%	D	85.6%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜雇用対策＞

基本計画		
	分野別将来像 第2章	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
	実現したい状態 第6節	町内に就労する人が増え、人材不足が解消している
	実現したい具体的な状態 第1項	町内企業の魅力が向上し、かつ町内の雇用が拡大している

分野別政策	自然・産業
基本施策	雇用・就労
施策項目	雇用対策

担当課	商工観光課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
町内有効求人倍率	倍	0.58 (H30)	0.57	1.03	1.19	0.93	0.85	0.72			1.00	△
職場体験学習・情報提供の実施回数	回	1 (H30) 拡大	0	1	1	1	1	2			3	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
町内で働く場所や、働きやすい環境は整っていると感じますか	16.4%	D	85.6%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・商工会の就職マッチングイベントや、ハローワークの就職相談会を実施した。
・子どもを対象とした職業体験イベントや、高校生に企業訪問を実施した。
・町内企業を紹介するしわ企業ガイドに、若年層・新卒向けの内容を取り入れた。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・商工会を中心に、就職活動をしている大人から、これからの世代となる子ども達まで幅広く町内企業を知るきっかけを作った。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・しわ企業ガイドを改訂・作成しても、町ホームページ掲載だけでは、なかなか見れられる機会が少ない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・コロナ禍による雇用の不安定化、一時的な求人減少、テレワークの普及。
・少子高齢化により、生産年齢人口が減少し、人手不足が進む。
・DXやデジタル化で、業務の効率化を目指す。
・女性、高齢者、障がい者など多様な人材が能力を発揮できる就労環境整備が求められる。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ハローワークの求人情報だけでなく、紫波町内の企業が求人を出しているのか確認したり、紫波町で就職を考えている人がどれくらいいるのか情報を集め、求職者と企業どちらにとっても有益な機会を作れるようにする。

第3章 【安全・快適】

<3－1> 都市計画

<3－2> 道路・河川

<3－3> 上下水道

<3－4> 住宅・公園・公共交通

<3－5> 交通安全

<3－6> 防犯

<3－7> 消防

<3－8> 防災

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 都市計画

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		都市計画	第1節　利便性の高い市街地がつくられている
		施策項目	都市計画	第1項　良好な市街地環境がつくられている
			市街地整備	第2項　都市機能の利便性が高まる

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
都市計画	第1項　良好な市街地環境がつくられている	2	2	0	0	0	100.0%
市街地整備	第2項　都市機能の利便性が高まる	2	0	0	0	2	0.0%
施策内計		4	2	0	0	2	50.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
都市計画 市街地整備	駅周辺や中心市街地は、日常生活において利便性が高いと感じますか	56.2%	B＋	85.9%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜都市計画＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第1節	利便性の高い市街地がつくられている
	実現したい具体的な状態 第1項	良好な市街地環境がつくられている

分野別政策	安全・快適
基本施策	都市計画
施策項目	都市計画

担当課	都市計画課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績								目標値(R9)	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
用途地域内の宅地率	%	47.1 (H28) 拡大	49.0	49.5	50.0	50.6	51.6	51.6			51.0	◎
都市計画道路整備率	%	72.8 (H30) 拡大	73.0	73.0	73.0	73.0	73.0	78.0			74.0	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
駅周辺や中心市街地は、日常生活において利便性が高いと感じますか	56.2%	B＋	85.9%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・紫波町の都市計画に関する基本的な方針である紫波町都市計画マスタープランを改訂した(令和7年3月)
・「コンパクトプラスネットワークのまちづくり」を推進するため、紫波町立地適正化計画を策定した(令和7年3月)
・都市計画道路事業の着手に関する方針等を決定するため、紫波町都市計画道路整備プログラムを策定した(令和8年6月)
・都市計画法、町条例に基づく開発行為について、適切な審査・指導を行っている(通年・随時)
・盛土等による災害等を防ぐため盛土規制法に基づく許可申請は開始され、随時、申請書等の受付・進達を行っている(令和7年より通年・随時)

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・マスタープランの策定を契機に、用途地域や都市計画道路の見直しを行い、社会情勢等に合わせた変更を行った。
・立地適正化計画の策定により国庫補助事業(国土交通省)の補助率が嵩上げされている。また、居住誘導区域への人口増加数を数値化することができている。
・道路整備プログラムによりこれまで随時判断してきた道路の着工順について、明確な根拠のもと判断することが出来ている。
・開発行為の指導により無秩序な宅地開発等の抑止に繋がっている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・上位計画(都市計画マスタープランや立地適正化計画など)に記載のない大規模な農振除外や農地転用等が難しくなった。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町内人口が減少している一方で、居住誘導区域人口が増加している。(都市計画課業務資料)
町内人口　32,717人(R5)→32,503人(R6)→32,312(R7)
居住誘導区域人口　17,058人(R5)→17,091人(R6)→17,184(R7)
・宅地造成等の開発行為件数が落ち着き傾向にある
(R2)4件　15,959㎡ → (R3)5件　39,073㎡ → (R4)10件　37,288㎡ → (R5)12件　49,046㎡ → (R6)9件　112,572㎡ → (R7)4件　51,339㎡

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・都市計画道路整備プログラムに基づく着実な道路整備
・都市計画法、町条例に基づく開発行為について、引き続き適切な審査・指導(通年・随時)

施策項目別評価シート ＜市街地整備＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第1節	利便性の高い市街地がつくられている
	実現したい具体的な状態 第2項	都市機能の利便性が高まる

分野別政策	安全・快適
基本施策	都市計画
施策項目	市街地整備

担当課	都市計画課、企画課、情報交流館

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
古館駅前地区の流入居住人数	人	620 (H29) 拡大	320	422	585	703	指標廃止				635	―
紫波中央駅乗降客数	人	2,896 (R元) 拡大	2,468	2,287	2,275	2,590	指標廃止				3,000	―
紫波中央駅乗客数	人	1,508 (R元) 維持	未設定				―	1,147			1,500	×
紫波中央駅東駐車場利用台数	台	23,853 (R4) 拡大	22,269	25,123	23,853	22,783	23,239	21,877			25,550	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成(目標値を超えている)　○：概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている)　△：停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×：後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
駅周辺や中心市街地は、日常生活において利便性が高いと感じますか	56.2%	B＋	85.9%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・古館駅前広場を整備した。(R6)
・紫波中央駅東口については、令和8年度からの整備に向け、令和7年度までに関係機関との協議を整えるとともに、整備計画を作成した。
・紫波中央駅前駐車場及び東駐車場精算機について、新貨幣及び新紙幣対応のものへ改修を行った。(R4・R6)
・紫波中央駅構内のバリアフリー化としてエレベーターなどを整備した。(R5)
・オガールのシンボルである広場の景観を維持するために、日常的な管理に加え樹勢回復に取り組んだ。また、オガール祭り等広場を活用した大規模なイベントやフリーマーケット利用などエリアの賑わい創出につながるよう配慮した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・古館駅前広場を整備し、駅利用者の利便性向上を図った。(R6)
・紫波中央駅前駐車場について毎年、売り上げが伸びている。
・紫波中央駅東口の整備により、紫波中央駅の利便性が高まるほか、日詰商店街への回遊性の向上が期待される。
・紫波中央駅構内のバリアフリー化整備により、移動円滑化経路が確保された。(R5)

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・日詰駅前広場駐輪場及び古館駅前広場駐輪場の清掃を地域に委託しており、地域の負担になっている。
・紫波中央駅前・東駐車場について、精算機等の機器の老朽化が進んでいる。
・駐車場について現金のみの取扱であり精算方法の多様化が求められている。
・紫波中央駅東駐車場について利用者が固定化されており、利用者、売上が減少傾向にある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・日詰駅前駐輪場及び古館駅東口駐輪場の清掃等について、委託先団体の高齢化等により負担になっている。
・駐車場についてキャッシュレス決済が浸透し、現金以外の精算方法が求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・紫波中央駅東口通路、広場及びその周辺道路の整備を着実に進める
・紫波町営駐車場について、料金改定や施設更新を含めて今後の運営方法を検討する。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 道路・河川

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		道路・河川	第2節　道路や河川が整備・維持され、安全が保たれている
		施策項目	道路	第1項　道路の安全性・利便性が確保される
			河川	第2項　治水・雨水対策により災害リスクが低減する
			雨水管理	第3項　都市下水路を起因とする内水氾濫の被害が減少する

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
道路	第1項　道路の安全性・利便性が確保される	3	3	0	0	0	100.0%
河川	第2項　治水・雨水対策により災害リスクが低減する	2	2	0	0	0	100.0%
雨水管理	第3項　都市下水路を起因とする内水氾濫の被害が減少する	2	2	0	0	0	100.0%
施策内計		7	7	0	0	0	100.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
道路	安全で利用しやすい道路が整備されていると感じますか	52.9%	B－	87.0%	AAA＋
河川	河川や水路が整備され、水害を防ぐための対策が行われていると感じますか	56.8%	B＋	88.5%	AAA＋
雨水管理					

施策項目別評価シート ＜道路＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第2節	道路や河川が整備・維持され、安全が保たれている
	実現したい具体的な状態 第1項	道路の安全性・利便性が確保される

分野別政策	安全・快適
基本施策	道路・河川
施策項目	道路

担当課	土木課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
道路施設の老朽化に起因する事故件数	件	1 (H30) 抑制	0	1	0	0	0	0			0	◎
道路の改良延長	km	585.1 (H28) 拡大	587.1	587.5	587.9	588.5	591.6	592.5			588.7	◎
道路の舗装延長	km	384.2 (H30) 拡大	386.8	387.7	387.9	388.7	390.6	391.7			391.4	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
安全で利用しやすい道路が整備されていると感じますか	52.9%	B－	87.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・長寿強化計画に基づき、点検結果に基づき修繕（舗装・橋梁・道路付属施設・トンネル）を実施した。
・請願採択された道路改良事業について、2路線について工事を着手した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・道路の安全性・利便性を確保するための改良工事が行われている。
・地域と協働する道づくり事業が行われ、道路の安全性・利便性が向上している。
・経年劣化等による損傷箇所の舗装及び施設修繕が行われている。
・橋梁の法定定期点検に基づき、健全度評価に応じた橋梁耐震補修設計、維持補修が行われている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・交付金の採択状況より整備事業の進捗が遅くなることがある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・道路延長が947kmこのうち舗装済み延長が392km、橋梁数は311橋で、このうち定期点検の対象となる橋長2m以上の橋梁が309橋となっている。
・インフラについては、老朽化が進んでおり長寿命化計画に基づき予防保全型の維持管理への移行を目指しているが、物価高騰や人件費の上昇により補修費が上がり、予防保全に移行できていない状況となっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・施設の必要性や利用状況を検証しながら、長寿命化と集約化や廃止も含め、持続可能なマネジメントを行っていく。

施策項目別評価シート ＜河川＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第2節	道路や河川が整備・維持され、安全が保たれている
	実現したい具体的な状態 第2項	治水・雨水対策により災害リスクが低減する

分野別政策	安全・快適
基本施策	道路・河川
施策項目	河川

担当課	土木課、都市計画課、下水道課、農政課、消防防災課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
河川パトロール回数	回	10 （R1） 維持	12	12	11	7	指標廃止				10	ー
町全域における浸水被害件数	件	517 （H25） 抑制	0	0	0	0	0	0			0	◎
河川施設の損壊等に起因する事故件数	件	0 （R4） 抑制	未設定				0	0			0	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
河川や水路が整備され、水害を防ぐための対策が行われていると感じますか	56.8%	B＋	88.5%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・週1回（4月～7月）の河川パトロールを実施し、河川施設等の巡視を行い異常の早期発見に努めた。
・災害復旧対応（R4　災害5件　小災害8件、R6　災害4件）を実施し、早期に河川機能の回復を行うともに、河川の浚渫を行うことで水深を確保し、流下能力を向上させた。
・開発行為に対する雨水流出抑制を必須項目として、土地利用調整委員会等の意見を集約し開発者へ指導した。
・事故発生時に社会的影響が大きい大規模管路である大坪川1号幹線の点検を実施した。（大規模管路：管径2m以上かつ平成6年度以前に整備した区間）
・地域の環境保全団体による農業用水路の草刈り等の維持管理を実施した。田んぼダムの洪水防止機能の検証を実施した。（検証継続中）

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ドローンを活用したパトロールのほか地域からの情報も利用し、効率的な補修等計画につながっている。
・浸水被害を軽減するための対策工事が行われたほか、町管理河川の施設修繕、浚渫により災害リスクが軽減されている。
・開発行為に伴う雨水流出が抑制された。
・大坪川1号幹線の点検を行い、道路陥没に繋がる腐食などの不具合がないことを確認し、結果をホームページで公開した。
・地域の環境保全団体による農業用水路の草刈りや、施設の補修修繕などの活動により適切な維持管理が行われている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域の高齢化や担い手不足により、農業用水路の草刈りや施設の補修修繕の維持管理体制の継続が課題となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・近年の集中豪雨や、土地利用の変化による保水力の低下などによって急激な河川水位の上昇が頻発し、農地への冠水リスクも高まっている。
・鳥獣被害対策など、河川環境の維持の重要性が向上している。
・農業用水路の管理や災害時の見回りなど、地域の担い手が減少している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・浚渫により河川能力の確保を図る。
・異常気象に対する情報収集の拡大を図る。
・多面的機能交付金事業や中山間地域等支払交付金の活用による地域の水路等の維持管理に対する支援を推進する。
・用排水施設の長寿命化を推進する。

施策項目別評価シート ＜雨水管理＞

基本計画	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第2節	道路や河川が整備・維持され、安全が保たれている
	実現したい具体的な状態 第3項	都市下水路を起因とする内水氾濫の被害が減少する

分野別政策	安全・快適
基本施策	道路・河川
施策項目	雨水管理

担当課	下水道課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
大坪川排水区における浸水被害件数	件	34 (H14) 抑制	0	0	0	0	0	0			0	◎
町全域における浸水被害件数 ※再掲	件	517 (H25) 抑制	0	0	0	0	0	0			0	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
河川や水路が整備され、水害を防ぐための対策が行われていると感じますか	56.8%	B＋	88.5%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・公共下水道雨水管理総合計画を策定し、浸水対策の早期解消や軽減に向けて対策内容と対策時期を明確化し、公共下水道雨水管渠日詰3号幹線改修工事に着手した。
・事故発生時に社会的影響が大きい大規模管路である大坪川幹線の点検を実施した。(大規模管路:管径2m以上かつ平成6年度以前に整備した区間)

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・浸水対策を実施し、浸水被害の発生を抑えた。
・大坪川1号幹線の点検を行い、道路陥没に繋がる腐食などの不具合がないことを確認し、結果をホームページで公開した。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・目標を達成してはいるが、浸水対策を必要としている箇所があるため、引き続き事業を進める必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

全国的に、集中豪雨の発生頻度が増えており、雨水対策の重要性が高まっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・浸水対策が急がれる箇所の対応を行う。
・ゴミなどによって、浸水が発生する可能性が増すことを住民へ周知する。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 上下水道

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		上下水道	第3節　上下水道が安定して供給されている
		施策項目	上水道	第1項　安心・安全な良質の水道水が安定して供給されるようになる
			下水道	第2項　豊かな環境や快適な暮らしを支える下水道が整っている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
上水道	第1項　安心・安全な良質の水道水が安定して供給されるようになる	1	0	0	1	0	0.0%
下水道	第2項　豊かな環境や快適な暮らしを支える下水道が整っている	3	1	2	0	0	100.0%
施策内計		4	1	2	1	0	75.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
道路維持 雨水管理	水道・下水道を安心して利用することができていますか	89.2%	AAA＋	91.1%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜上水道＞

基本計画	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第3節	上下水道が安定して供給されている
	実現したい具体的な状態 第1項	安心・安全な良質の水道水が安定して供給されるようになる

分野別政策	安全・快適
基本施策	道路・河川
施策項目	上水道

担当課	下水道課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
岩手中部水道企業団へ移管された簡易給水施設等の数	か所	0 (R元)	0	0	0	0	0	0			5	△

拡大

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
水道・下水道を安心して利用することができていますか	89.2%	AAA＋	91.1%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和2年度に岩手中部水道企業団へ統合に関する要望書を提出
・令和4年度に事業統合基本計画策定業務委託の発注(費用は岩手中部水道企業団と折半)
・基本計画を踏まえて、財政収支計画協議開始

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和3年度に統合について岩手中部水道企業団より「正式に協議を進める」との回答を受理
・委託し、策定した事業統合基本計画について、紫波町と岩手中部水道企業団の双方にて内容を確認
・基本計画及び財政収支協議により、事業全体の概算費用が共有された。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・施設の老朽化により、漏水など問題が度々発生している。
・人口減少により使用料収入は、緩やかに減少している一方で維持管理費用は増加傾向にあり、今後もこの傾向は続くと見込まれる。
・費用負担の方向性、会計処理についての協議に時間を要しており、統合実現には至っていない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・近年の気候変動(特にも温暖化)等により、水源水質や水源水量がより不安定である
・昭和後期に整備された施設の老朽化

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・岩手中部水道企業団との覚書締結に向けて、費用負担や収支計画の協議を進める。

施策項目別評価シート ＜下水道＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第3節	上下水道が安定して供給されている
	実現したい具体的な状態 第2項	豊かな環境や快適な暮らしを支える下水道が整っている

分野別政策	安全・快適
基本施策	道路・河川
施策項目	下水道

担当課	下水道課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
汚水処理人口普及率	%	91.9 (H30) 拡大	92.9	94	94.3	94.6	94.8	94.6			95.9	○
水洗化人口普及率	%	87.2 (H30) 拡大	88.9	89.4	90.4	90.9	91.3	91.5			91.9	○
経費回収率	%	81.3 (H30) 拡大	97.6	94.2	92.4	87.4	88.3	96.8			94.4	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
水道・下水道を安心して利用することができていますか	89.2%	AAA＋	91.1%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・処理施設や管路施設について計画的な改築・更新を行った。
・施設等の維持管理について、民間と連携しながら行った。
・令和3年度に使用料改定(使用料体系の見直し)を行い、令和4年度から適用。
・令和7年度に第2期紫波町下水道事業経営戦略を策定(計画期間令和8年度～令和17年度)。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・施設機能の保全や適正な運転管理を行うことができ、安定的な下水道サービスの供給につなげることができた。
・民間企業のノウハウを生かし、経済的かつ効率的な運営を行うことができた。
・使用料改定により使用料体系の見直しを行ったことで、使用料収入は増加傾向となった。
・新たな経営戦略の策定により、計画期間(令和8年度～令和17年度)に取り組むべき方向性を明確化できた。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・普及、水洗化について目標値は達成しているものの、増加率は年々緩やかになっているため、残る未接続世帯への接続促進への取り組みが課題となった。
・経費回収率は、維持管理費の増減により未達成の年度もあった。維持管理費の波を極力抑え、どれだけ効率的・計画的に施設を維持管理できるかが課題となった。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和7年に埼玉県八潮市で発生した下水道管路破損に起因する道路陥没事故に代表される下水道施設老朽化への懸念。
・人口減少による使用料収入の減少(特に農業集落排水区域で顕著)。
・物価高騰による工事費・維持管理費の増加。
・人口減少・高齢化により農業集落排水施設の地域組織による管理が困難になってきている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・下水道施設の老朽化に対応するため、ストックマネジメント計画に基づいた施設の計画的な更新を行う。
・使用料収入で汚水処理費を賄えていない状況であるため、引き続き適切な使用料水準を検討する。
・水の官民連携(下水道の運営を、民間の技術や経営力を入れて、長期間まとめてまかせる仕組み)を含めた官民連携の検討を行う。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 住宅・公園・公共交通

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		住宅・公園・公共交通	第4節　居住環境が快適である
		施策項目	住宅	第1項　良好な住宅に住める人が増える
			公園	第2項　公園や緑地の環境が整っている
			公共交通	第3項　利用しやすい公共交通が整っている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
住宅	第1項　良好な住宅に住める人が増える	2	0	1	1	0	50.0%
公園	第2項　公園や緑地の環境が整っている	1	1	0	0	0	100.0%
公共交通	第3項　利用しやすい公共交通が整っている	2	0	1	0	1	50.0%
施策内計		5	1	2	1	1	60.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
住宅	地域の住環境は整備されていると感じますか	30.5%	D	85.4%	AAA＋
公園	公園は安全・安心に利用することができていますか	57.6%	B＋	77.6%	AA＋
公共交通	公共交通は利用しやすいと感じますか	34.6%	D	85.8%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜住宅＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第4節	居住環境が快適である
	実現したい具体的な状態 第1項	良好な住宅に住める人が増える

分野別政策	安全・快適
基本施策	住宅・公園・公共交通
施策項目	住宅

担当課	都市計画課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
管理が適切に行われていない空き家数	件	52 (H30) 縮小	43	52	51	49	49	46			43	○
木造住宅耐震改修件数	件	10 (R元) 拡大	10	10	10	10	10	10			12	△

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
地域の住環境は整備されていると感じますか	30.5%	D	85.4%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・耐用年数を経過した町営住宅の建替え整備に向け、「紫波町町営住宅建替整備基本方針」を策定した。
・「紫波町町営住宅長寿命化計画」を改訂し、予防保全的な管理や改善の計画的な推進及びライフサイクルコストの縮減等に取り組んだ。
・「第2期紫波町空家等対策計画」を策定し、空き家の予防と適正管理を促すとともに、空き家の有効活用に取り組んだ。
・空き家の流通及び解体を促進するため、それぞれ民間事業者と連携協定を締結した。
・木造住宅の耐震診断・耐震改修に係る補助事業を実施し、耐震化率の向上に取り組むとともに、改修補助制度の案内送付や戸別訪問などにより補助制度の周知に努めた。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・朝日ヶ丘北住宅4号棟について外壁塗装工事を実施し長寿命化が図られた。
・管理が適切に行われていない空き家(C、Dランク)の数が減少した。
・連携協定を締結した民間事業者による空き家の買取実績が12件(R7末時点)に上り、空き家の解消につながった。
・木造住宅の耐震診断の実施(21件(R2～R7末時点))により耐震性の有無を確認し、所有者に対し耐震改修の実施を促した。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町営住宅における排水管や給湯器の改修が計画通りに実施されていない。
・町が把握している空き家の総数が増加している。(R1:388件 → R7:429件)
・補助制度を活用した木造住宅の耐震改修の実績がない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・建築費が高騰(平成27年比139.3%※1)している。 ※1 建設物価 建築費指数((一財)建設物価調査会)[令和7年/住宅/木造/仙台/工事原価]
・65歳以上の一人暮らしの者が増加※2傾向にある。 ※2 令和7年版高齢社会白書(内閣府)p.11

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・住宅に困窮する世帯に対し良好な住環境を提供するため、「紫波町町営住宅建替整備基本方針」に基づき町営住宅の建替え事業を進める。
・「紫波町町営住宅長寿命化計画」に記載した計画修繕・改善事業を可能な限り実施するとともに、設備改修等の改修方法について検討を進める。
・民間事業者との連携を継続・強化し空き家の利活用を推進するほか、出前講座や相談会等の実施により所有者の意識啓発に取り組む。
・広報やSNS等、あらゆる媒体を介して、木造住宅の耐震化への意識醸成を図る。

施策項目別評価シート ＜公園＞

基本計画	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第4節	居住環境が快適である
	実現したい具体的な状態 第2項	公園や緑地の環境が整っている

分野別政策	安全・快適
基本施策	住宅・公園・公共交通
施策項目	公園

担当課	土木課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
地元団体への公園管理委託数	公園	71 (H30) 拡大	76	78	82	82	指標廃止				79	ー
公園遊具の老朽化に起因する事故件数	件	0 (H30) 維持	0	0	0	0	0	0			0	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
公園は安全・安心に利用することができていますか	57.6%	B＋	77.6%	AA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地元団体への一部の公園管理委託（R8：83公園）を行った。
・安全に利用できるように遊具点検を実施した。（直営年2回、委託年1回）

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・公園施設の定期点検により、緊急性に応じた修繕が行われている。
・公園施設の清掃・除草作業が地域と協働で行われている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・点検後すぐに全ての修繕出来ないため、利用停止となる遊具がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢化や少子化により協働管理できない公園が増えてきている。
・公園内での熊の出没により、利用制限が行われることが増えている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域と協働で公園の維持管理が維持できる体制づくりを行っていく。
・公園の点検を実施し、良好な状態を保ち利用者の安全を図る。

施策項目別評価シート ＜公共交通＞

基本計画	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第4節	居住環境が快適である
	実現したい具体的な状態 第3項	利用しやすい公共交通が整っている

分野別政策	安全・快適
基本施策	住宅・公園・公共交通
施策項目	公共交通

担当課	企画課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
デマンド型乗合バスの年間利用者数	人	23,000 (H30) 拡大	16,127	21,150	24,269	27,181	28,203	27,864			30,000	○
JR3駅の乗降者数	人	5,000 (H30) 維持	4,181	3,997	4,025	ー	指標廃止				5,000	ー
JR3駅の乗客者数	人	2,786 (H30) 維持	未設定				ー	2,136			2,700	×
自家用車がなくても町内の移動に不便はないと思う人の割合	%	ー (ー) 拡大	ー	ー	ー	36.1	指標廃止				30.0	ー
利用しやすい公共交通が整っていると思う人の割合	%	34.4 (H30) 拡大	未設定				ー	ー			50.0	ー

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
公共交通は利用しやすいと感じますか	34.6%	D	85.8%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和2年度よりデマンド型乗合バス「しわまる号」を運行し、平日4台、土曜3台、日・祝2台の体制で町内の移動手段を確保した。
・夜間の交通空白への対応として、R6に「ウィークエンドしわまる号」、R7に「公共ライドシェア」の実証実験を実施し、R8から「公共ライドシェア」の本格運行を開始した。
・令和7年10月に、しわまる号の運賃及び運行時間の見直しを行った。
・路線バスについて、県及び事業者と連携して令和8年度に利便増進実施計画を策定し、路線の維持・確保に取り組んだ。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・しわまる号は、令和2年度の運行開始当初と比較して利用者数が約1.7倍に増加し、町の公共交通として定着するとともに、利用が広がった。令和7年度も27,864人が利用しており、日常の身近な移動手段として多くの住民に利用されている。
・公共ライドシェアの実証実験を通じて、夜間における移動需要を把握するとともに、令和8年度から本格運行につなげることができた。
・しわまる号、路線バス、タクシー、公共ライドシェアなど、複数の交通手段により、住民の移動手段の確保が図られている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・しわまる号は利用者数が増加する一方、待ち時間が長くなる場面も生じており、需要の高まりに対して運行体制が追いついていない状況がみられた。
・燃料費や人件費等の高騰により運行経費が増加しており、利用者数の増加だけでは運行経費の増加を補うことが難しい状況となっている。
・バス路線では、犬渕線が廃止となるなど、従来の路線網を維持することが難しくなっている。
・タクシー事業者の減少により、特に夜間を中心に交通空白が生じており、既存の公共交通だけでは移動需要に対応できない地域・時間帯が生じている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・人口減少や自家用車の普及等を背景として、路線バスをはじめとする公共交通の利用者が減少している一方、高齢者など自家用車を利用できない住民にとって、公共交通の重要性は高まっている。
・燃料費や人件費等の上昇により、公共交通事業者の運行コストが増加し、県内全域で路線の見直しや廃止が進んでいる。
・町内では、令和6年3月にタクシー事業者が3社から2社に減少したほか、令和7年度末に路線バス「犬渕線」が廃止されるなど、交通を担う事業者・路線の縮小が進んでいる。
・令和8年10月からは、路線バス「日詰線」「長岡線」の運行経路が変更される予定であり、地域の移動ニーズに応じた公共交通ネットワークの見直しが進んでいる。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・しわまる号について、利用状況や待ち時間等の実態を踏まえ、運行事業者と協議しながら、利便性と効率性の両立を図り、持続可能な運行体制を構築する。
・路線バスについて、運行経路変更後の利用状況を検証するとともに、大規模病院への接続など利便性を周知し、利用者の確保・拡大を図る。
・しわまる号、路線バス、タクシー、公共ライドシェア等の各交通手段の役割を整理し、地域ごとの需要や利用実態に応じた交通手段の組合せによる公共交通ネットワークを構築する。
・夜間をはじめとする交通空白について、公共ライドシェアの利用実態等を検証し、将来的な移動需要を踏まえた持続可能な交通手段の確保を検討する。
・限られた人材・財源を有効に活用し、地域の実情に応じた効率的かつ持続可能な公共交通の確保を進める。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 交通安全

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		交通安全	第5節　交通安全が維持されている
		施策項目	交通安全対策	第1項　交通事故から町民が守られる
			交通安全施設	第2項　道路の安全性・利便性が確保される

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
交通安全対策	第1項　交通事故から町民が守られる	3	0	0	2	1	0.0%
交通安全施設	第2項　道路の安全性・利便性が確保される	1	1	0	0	0	100.0%
施策内計		4	1	0	2	1	25.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
交通安全対策	交通事故を防ぐ取組が行われていると感じますか	65.8%	A＋	90.2%	AAA＋
交通安全施設					

施策項目別評価シート ＜交通安全対策＞

基本計画	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第5節	交通安全が維持されている
	実現したい具体的な状態 第1項	交通事故から町民が守られる

分野別政策	安全・快適
基本施策	交通安全
施策項目	交通安全対策

担当課	消防防災課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
交通人身事故件数	件	46 (H30) 抑制	50	32	32	40	32	41			23	△
飲酒運転検挙者数	人	7 (H30) 抑制	6	7	7	4	5	7			0	△
交通災害共済加入者数	人	4,084 (H30) 拡大	3,996	3,710	3,311	3,096	2,958	2,796			4,467	×

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
交通事故を防ぐ取組が行われていると感じますか	65.8%	A+	90.2%	AAA+

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・交通指導員による通学時間帯の街頭指導、交通安全指導車による町内巡回広報、地域行事等における交通整理を継続して実施した。
・児童施設、小・中学校及び地域を対象とした交通安全教室を開催し、歩行時や自転車利用時の交通ルール、道路横断時の安全確認等について、実践的な交通安全教育を行った。
・春、夏、秋及び冬の交通安全運動に合わせ、警察、交通安全協会、地区交通安全協会等と連携し、街頭啓発、広報活動及び交通安全用品の配布等を実施した。
・地区交通安全協会等から寄せられた交通安全施設に関する要望について、警察、道路管理者等と現地確認や協議を行い、危険箇所の情報共有や注意喚起に取り組んだ。
・交通安全フェスティバルの開催、交通安全関係団体への支援及び交通災害共済への加入促進を通じ、交通安全意識の普及と交通事故被害者への支援に取り組んだ。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・交通指導員、警察、学校、交通安全関係団体及び地域住民が連携し、計画期間を通じて地域に密着した交通安全活動を継続することができた。
・通学時間帯の街頭指導や地域行事における交通整理により、子どもや高齢者をはじめとする歩行者の安全確保と、運転者への注意喚起につながった。
・児童生徒を対象とした交通安全教室を継続することにより、道路横断時の安全確認、自転車の安全な利用、飛び出し防止等の交通ルールを学ぶ機会を確保した。
・交通安全運動や交通安全フェスティバルを通じ、子どもから高齢者まで幅広い世代に対し、交通事故防止について考える機会を提供することができた。
・各地区交通安全協会等の地域組織による活動を支援したことで、地域ごとの交通事情や危険箇所を踏まえた、きめ細かな啓発活動を継続することができた。
・町内の人身交通事故発生件数は年による増減があるものの、基準念と比較すると減少しており、継続的な街頭指導、交通安全教育及び啓発活動が、地域の交通安全意識の維持に一定の役割を果たしたものと考えられる。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・交通指導員の人数が減少しており、通学時の街頭指導、交通安全教室、町内巡回、地域行事等の多様な活動を、限られた人員で担っている状況にある。
・交通指導員や地域の交通安全を担う人材の高齢化が進んでおり、活動を継続するためには、新たな担い手の確保と参加しやすい活動体制の整備が必要である。
・町内の交通事故発生件数は年による増減があり、減少傾向が定着していないことから、事故の発生場所、時間帯及び当事者の年代等を踏まえた対策が必要である。
・地域から寄せられる交通安全施設の要望について、限られた予算の中で全てに対応することは難しく、危険性や緊急性を踏まえた優先順位の設定が必要となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢化の進行に伴い、高齢運転者による事故だけでなく、高齢歩行者が被害に遭う交通事故も防止する取組の重要性が高まっている。
・自転車利用者のヘルメット着用の努力義務化や、自転車利用者に交通反則通告制度の適用など、自転車の交通ルールを取り巻く環境が大きく変化している。
・生活道路の歩行者や自転車利用者の安全確保が重視され、速度規制と道路構造上の対策を組み合わせた、車の速度の抑制対策が求められている。
・人口減少や地域活動の担い手不足が進む一方で、通学路の見守り、高齢者の事故防止、自転車利用者への指導など、地域に求められる交通安全活動は多様化している。
・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた時期と比較して、人の移動や地域行事が回復したことにより、交通量や交通安全指導の機会も変化している。
・交通災害共済については、本町においても加入者数が減少傾向にあるが、全国的にも民間保険等の補償ニーズの多様化等を背景として加入者が減少し、制度を廃止する地域もみられる。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・交通指導員による街頭指導、交通安全教室及び町内巡回広報を引き続き実施し、子ども、高齢者及び自転車利用者を重点とした交通安全対策を推進する。
・交通指導員の活動内容や地域における役割を分かりやすく発信し、働く世代や子育て世代を含む幅広い年代を対象とした募集活動を進める。
・学校等と連携し、歩行、自転車及び道路横断に関する交通安全教育を継続するとともに、自転車の交通反則通告制度など、新たな交通ルールの周知を強化する。
・高齢運転者に対しては、身体機能の変化を確認する機会、安全運転支援装置に関する情報及び免許返納後の移動手段を一体的に案内し、安全運転の継続と運転卒業の双方を支援する。
・警察、道路管理者、学校及び地域住民と事故情報や危険箇所情報を共有し、通学路や生活道路における安全対策を、危険性や緊急性に応じて計画的に実施する。

施策項目別評価シート ＜交通安全施設＞

基本計画	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第5節	交通安全が維持されている
	実現したい具体的な状態 第2項	道路の安全性・利便性が確保される

分野別政策	安全・快適
基本施策	交通安全
施策項目	交通安全施設

担当課	土木課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
通学路交通安全プログラム要対策箇所の進捗率	%	78.0 (H30) 拡大	91.3	91.3	91.3	95.7	95.7	100			100	◎
街路灯のLED灯への更新数	灯	469 (H30) 拡大	641	724	862	981	1,100	1,277			919	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
交通事故を防ぐ取組が行われていると感じますか	65.8%	A+	90.2%	AAA+

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・通学路緊急点検による要対策箇所について、整備完了となった。
・交通安全施設について合同点検を行い、必要箇所について対策を行った。
・一斉更新可能な施設や路線において街路灯のLED化を実施した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・通学路における交通安全対策が実施され、歩行者の安全性が向上している。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・交付金の採択状況より整備事業の進捗が遅くなることがある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・学校統合により、スクールバスの運用が始まり、登下校の状況が変化した。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・道路管理者、公安委員会、学校関係者、交通安全団体と連携し、道路の安全性の向上を行う。
・交通安全施設の維持管理を実施し、良好な状態を持続させる。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 防犯

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		防犯	第6節　防犯体制が整っている
		施策項目	防犯	第1項　犯罪や事件から町民が守られる

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
防犯	第1項　犯罪や事件から町民が守られる	2	0	0	1	1	0.0%
施策内計		2	0	0	1	1	0.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
防犯	犯罪を防ぐ取組が行われていると感じますか	42.3%	C－	90.2%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜防犯＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第6節	防犯体制が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	犯罪や事件から町民が守られる

分野別政策	安全・快適
基本施策	防犯
施策項目	防犯

担当課	消防防災課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
犯罪発生率（人口1千人当たりの発生件数）	件	2.84 (H30) 抑制	1.84	1.68	1.68	1.91	2.93	3.15			1.10	×
補導者数	人	22 (H30) 抑制	20	15	15	18	42	17			9	△

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
犯罪を防ぐ取組が行われていると感じますか	42.3%	C－	90.2%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・紫波中央駅に設置している防犯カメラの継続的な運用及び保守点検を行い、駅待合施設や自転車置場における犯罪の抑止と、安全な利用環境の確保に取り組んだ。
・公用車、防犯協会員及び防犯隊員の車両に青色回転灯を装着し、地域の実情に応じた防犯パトロールを実施した。
・防犯隊については、週末の夜間を中心とした巡回活動を実施し、少年補導委員については、児童生徒が活動する夕刻を中心に街頭補導活動を行った。
・春、秋及び年末年始の地域安全運動、自転車盗難防止活動、見守りあいさつ運動など、警察や関係機関・団体と連携した啓発活動を実施した。
・青少年の非行防止と健全育成、「社会を明るくする運動」、犯罪被害者等支援に関する啓発活動に取り組み、犯罪の未然防止から被害者支援、更生保護までを含む総合的な地域安全対策を推進した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・防犯隊による巡回活動や少年補導委員による街頭補導活動を通じ、年間を通じた継続的な巡回・見守り体制を維持することができた。
・夜間や週末、児童生徒が活動する夕刻など、地域住民が不安を感じやすい時間帯に活動することで、犯罪の未然防止と地域住民の安心感の確保につながった。
・紫波中央駅の防犯カメラ運用と自転車盗難防止活動を組み合わせることにより、犯罪が起こりにくい環境づくりと、駅利用者の防犯意識の向上を図ることができた。
・防犯パトロール、街頭活動、防犯カメラの運用及び各種啓発活動を継続したことにより、町の取組は地域の安全確保に一定の役割を果たしたものと考えられる。
・防犯協会、地域安全推進協議会、警察、学校、更生保護関係団体等との連携を継続し、地域全体で防犯対策や青少年の健全育成に取り組む体制の維持・強化につながった。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・防犯隊及び少年補導委員は、限られた人員で年間を通じた巡回、街頭活動、各種行事への参加等を担っており、隊員や委員の負担が大きくなることが懸念される。
・隊員や委員の高齢化及び担い手不足が進む中、安定した活動を継続するため、新たな人材の確保、活動内容の効率化及び参加しやすい体制づくりが必要である。
・活動日数や参加人数等の実績は把握しているものの、それぞれの活動が犯罪認知件数の減少や住民の安心感にどの程度結び付いたかを、客観的に評価することが難しい状況にある。
・犯罪認知件数が増加傾向にあることから、これまでの取組を一律に継続するだけでなく、犯罪の種類、発生場所、時間帯等を踏まえ、対策を重点化する必要がある。
・防犯カメラについては、機器の経年劣化や将来的な更新費用を見据え、設置場所の妥当性や運用効果を定期的に検証しながら、計画的に維持管理する必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・従来の空き巣、自転車盗、少年非行等の身近な犯罪に加え、電話、SNS及びインターネットを利用した非対面型の犯罪が増加し、その手口も複雑化・巧妙化している。
・岩手県内では、令和7年中の特殊詐欺の認知件数が154件、被害額が約8億円となり、認知件数が大きく増加するなど、深刻な被害が発生している。
・警察官をかたって現金等をだまし取る「ニセ警察詐欺」や、SNS、暗号資産等を利用した詐欺が増加し、高齢者だけでなく、20歳代から40歳代を含む幅広い年代が被害に遭う状況となっている。
・従来の巡回活動や街頭啓発に加え、スマートフォンやSNSを日常的に利用する世代に向けた迅速な情報発信と、具体的な被害防止行動の周知が求められている。
・人口減少や高齢化、地域活動の担い手不足が進んでおり、これまでと同様の人員や活動方法だけで、地域の防犯体制を維持することが難しくなることが見込まれる。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・青色防犯パトロール、防犯隊等による巡回・見守り活動を継続し、地域における基本的な防犯体制を確保していく。
・警察から提供される犯罪情報を活用し、犯罪の種類、発生場所、時間帯及び手口等を分析した上で、必要性の高い地域や時間帯に活動を重点化する。
・特殊詐欺等に対応するため、町ホームページ・LINE、学校、福祉関係機関等を通じ、対象となる年代や生活状況に応じた、分かりやすく具体的な情報発信を進めていく。
・防犯隊等の新たな担い手の確保に取り組むとともに、地域住民、事業者、学校、警察及び関係団体が、無理なく防犯活動に参加できる連携体制の構築を図る。
・防犯カメラについては、機器の状態や犯罪発生状況を踏まえ、計画的な保守、更新及び効果的な運用を進めていく。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 消防

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		消防	第7節　消防体制が整っている
		施策項目	消防体制	第1項　火災から町民が守られる

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
消防体制	第1項　火災から町民が守られる	3	0	2	1	0	66.7%
施策内計		3	0	2	1	0	66.7%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
消防体制	火災や自然災害に対する備えが整っていると感じますか	68.4%	A＋	90.1%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜消防体制＞

基本計画		
	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第7節	消防体制が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	火災から町民が守られる

分野別政策	安全・快適
基本施策	消防
施策項目	消防体制

担当課	消防防災課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
火災発生件数	件	6 (H30) 抑制	7	10	10	5	5	3			0	○
救命講習修了者数	人	239 (H30) 拡大	83	17	17	608	502	499			654	○
消防団協力事業所数	事業所	1 (H30) 拡大	1	1	1	1	1	1			9	△

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
火災や自然災害に対する備えが整っていると感じますか	68.4%	A＋	90.1%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・消防団員の確保・育成を図るため、消防学校への入校や各種教育訓練、消防演習及び各種訓練を継続して実施した。
・消防団車両や消防屯所、防火水槽等の消防施設・設備について、更新及び維持管理を計画的に実施し、消防力の維持・向上を図った。
・消防署と連携し、救命講習や応急手当普及啓発、防火広報及び火災予防運動を実施し、町民の防火・防災意識の向上に取り組んだ。
・消防団協力事業所制度の周知や消防団活動への理解促進を図り、地域ぐるみで消防団を支える環境づくりに取り組んだ。
・火災・災害発生時に迅速な対応ができるよう、消防団、消防署及び関係機関との連携強化を図った。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・救命講習修了者数は目標を上回る実績で推移し、応急手当を実施できる町民の育成が進んだ。
・火災発生件数は目標達成には至らなかったものの、火災予防啓発や消防活動により発生件数は減少傾向となり、一定の成果が認められた。
・消防車両や消防屯所等の計画的な整備・修繕により、消防活動に必要な機能を維持し、安全かつ迅速な消防活動体制を確保した。
・消防署、消防団及び関係機関との連携体制を維持し、災害対応能力の向上につながった。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・消防団員数の減少や高齢化が進み、地域消防力の維持・確保が大きな課題となっている。
・消防団協力事業所数は計画期間を通じて大きな増加が見られず、地域や事業所を巻き込んだ消防団支援体制の強化が必要である。
・火災発生件数は目標である「0件」を達成できず、住宅火災や林野火災等への予防対策を継続する必要がある。
・消防施設や消防車両の老朽化が進んでおり、計画的な更新及び維持管理に必要な財源の確保が課題となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・少子高齢化及び人口減少の進行により、消防団員の確保が全国的な課題となっており、本町においても団員数の減少や高齢化が進んでいる。
・激甚化・頻発化する自然災害への対応が求められ、消防団には火災対応に加え、水防活動や大規模災害時の地域防災活動など、より幅広い役割が期待されている。
・地域コミュニティの希薄化や就業形態の変化により、消防団活動への参加環境が変化しており、活動しやすい環境整備や事業所の理解促進が一層重要となっている。
・消防施設や消防車両の更新時期が集中することから、限られた財源の中で計画的な施設更新を進める必要がある。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・消防団員の確保・育成を最重要課題として位置付け、若年層や女性の入団促進、消防団協力事業所制度の普及拡大など、多様な主体と連携した取組を推進する。
・消防車両、消防屯所及び消防水利施設について、更新計画に基づく計画的な整備・長寿命化を進め、持続可能な消防体制を構築する。
・消防署との連携による救命講習、防火広報及び火災予防運動を継続し、町民の防火・防災意識の向上を図る。
・地域自主防災組織や関係機関との連携を強化し、地域全体で災害対応力を高めることで、安全・安心な地域づくりを推進する。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【安全・快適】分野 防災

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		安全・快適	第3章　自然と調和した安全で快適なまち
基本計画	基本施策		防災	第8節　防災体制が整っている
		施策項目	防災体制	第1項　自然災害から町民が守られる

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
防災体制	第1項　自然災害から町民が守られる	2	0	1	1	0	50.0%
施策内計		2	0	1	1	0	50.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
防災体制	火災や自然災害に対する備えが整っていると感じますか	68.4%	A＋	90.1%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜防災体制＞

基本計画	分野別将来像 第3章	自然と調和した安全で快適なまち
	実現したい状態 第8節	防災体制が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	自然災害から町民が守られる

分野別政策	安全・快適
基本施策	防災
施策項目	防災体制

担当課	消防防災課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
自主防災組織率	%	84.0 (H30) 拡大	84	84	84	84.73	85.5	87.8			100	○
地区防災計画作成率	%	0 (H30) 拡大	0	0	0	0	0	0			40	△

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
火災や自然災害に対する備えが整っていると感じますか	68.4%	A＋	90.1%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・消防団、自主防災組織及び関係機関と連携し、防災訓練や防災講話等を実施した。
・自主防災組織の活動を支援し、地域防災力の向上を推進した。
・防災情報配信サービス及び「あんしんライト」等による情報伝達体制の充実に取り組んだ。
・災害時における初動対応力の強化を推進した。
・防災マップの更新準備及び避難情報の見直しを実施した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・自主防災組織率を一定の水準で維持し、地域における防災活動の継続につなげた。
・防災訓練や防災講話等を通じて、町民の防災意識の醸成及び防災知識の向上を図った。
・消防団、消防署及び関係機関との連携体制を維持・強化し、災害対応力の向上につなげた。
・防災情報の提供体制を維持・充実し、迅速な情報伝達体制の確保を図った。
・地域と行政の連携を継続し、自助・共助を基本とした地域防災力の向上を図った。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・自主防災組織率及び地区防災計画作成率が目標値に達していない。
・人口減少や少子高齢化に伴い、地域防災活動の担い手が不足している。
・自主防災組織の活動継続及び活性化が課題となっている。
・避難行動要支援者への支援体制の充実が必要である。
・防災リーダーの育成及び地区防災計画の策定など、地域における共助の取組を推進する必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・豪雨災害や大規模地震など自然災害の激甚化・頻発化により、地域防災力の重要性が高まっている。
・人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの希薄化により、防災活動の担い手確保が課題となっている。
・避難行動要支援者の増加などを踏まえ、地域における避難支援体制の充実が求められている。
・洪水浸水想定区域の見直しなど、防災を取り巻く環境が変化している。
・新たな災害リスクに対応した防災マップの更新や地区防災計画の策定など、地域の実情に応じた防災対策が求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・自主防災組織への継続的な活動支援を推進する。
・防災士等の地域防災リーダーの育成及び地区防災計画の策定を推進する。
・防災マップの更新及び防災情報の充実を図る。
・防災訓練や防災啓発を通じて町民の防災意識の向上を図る。
・消防団、消防署及び関係機関との連携を強化し、自助・共助・公助が連携した実効性の高い地域防災体制を構築する。

第4章 【子ども・教育・文化】

＜4－1＞ 保育・教育
＜4－2＞ 子育て支援
＜4－3＞ 生涯学習

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【子ども・教育・文化】分野 保育・教育

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		子ども・教育・文化	第4章　郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
基本計画	基本施策		保育・教育	第1節　子どもが心豊かに育つ環境が整っている
		施策項目	幼児教育	第1項　子どもの生涯にわたるより豊かな人格形成の基礎が育まれている
			学校教育	第2項　子どもの資質・能力が持続的に形成されている
			教育振興	第3項　豊かな人間性・社会性と健やかな体が形成されている
			教育支援	第4項　誰一人取り残されない学びが保障されている
			教育環境	第5項　より良い学校教育環境が確保されている
			児童福祉	第6項　支援の必要な子どもが心身共に育つ環境が保障されている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
幼児教育	第1項　子どもの生涯にわたるより豊かな人格形成の基礎が育まれている	3	3	0	0	0	100.0%
学校教育	第2項　子どもの資質・能力が持続的に形成されている	3	1	1	0	1	66.7%
教育振興	第3項　豊かな人間性・社会性と健やかな体が形成されている	2	0	0	2	0	0.0%
教育支援	第4項　誰一人取り残されない学びが保障されている	1	0	0	0	1	0.0%
教育環境	第5項　より良い学校教育環境が確保されている	2	1	1	0	0	100.0%
児童福祉	第6項　支援の必要な子どもが心身共に育つ環境が保障されている	4	2	1	0	1	75.0%
施策内計		15	7	3	2	3	66.7%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
幼児教育	幼稚園や保育所で子どもの成長や発達に応じた支援が行われていると感じますか	75.0%	AA－	94.0%	AAA＋
学校教育	小・中学校の授業は、将来、社会で役立つ力が育まれていると感じますか	67.1%	A＋	93.6%	AAA＋
教育振興	子どもが心豊かに成長できるよう、学校での取組が工夫されていると感じますか	62.8%	A－	92.7%	AAA＋
教育支援	子どもや保護者が気軽に相談できる体制が整っていると感じますか	44.2%	C－	92.0%	AAA＋
教育環境	小・中学校の教育環境が充実していると感じますか	55.5%	B＋	92.0%	AAA＋
児童福祉	支援が必要な子どもに、適切な対応が行われていると感じますか	45.5%	C＋	92.6%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜幼児教育＞

基本計画		
	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第1節	子どもが心豊かに育つ環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	子どもの生涯にわたるより豊かな人格形成の基礎が育まれている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	保育・教育
施策項目	幼児教育

担当課	こども課、学校教育課、教育総務課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
就学前児童施設において、子どもの育ちを十分理解し、保育・教育に取り組んでいる割合	%	ー （ー） 拡大	72.0	70.0	73.1	73.6	指標廃止				80.0	ー
子育ち・子育て応援サイト閲覧数	件	8,800 （R1） 拡大	6,600	5,900	6,000	2,454	指標廃止				9,800	ー
保育所保育方針、幼保小連携型こども園教育・保育要領を十分理解し、保育・教育に取り組んでいる割合	%	ー （ー） 拡大	未設定				83.1	88.4			80.0	◎
保護者や地域に幼児教育や子どもの発達の理解促進に取り組んでいる割合	%	35.0 （R5） 拡大	未設定				63.2	57.5			50.0	◎
幼保小の連携について学びが深まった割合	%	37.5 （R元） 拡大	100	100	100	100	95.0	84.2			75.0	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
幼稚園や保育所で子どもの成長や発達に応じた支援が行われていると感じますか	75.0%	AA－	94.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町の幼児教育の質の向上を目的とし、町内保育施設が実施する施設内研修に対して講師を派遣することにより、研修の充実を図った

・就学前の全ての子どもたちのより良い育ちを実現していくため、町内保育施設間で公開保育、研修を実施した

・町内の就学前施設と小学校の架け橋期の指針とする「幼保小の架け橋期のカリキュラム」を作成した

・就学前施設から小学校へと「子どもの育ちをつなぐ」という目的のもと、共通言語である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と双方の営みの理解を深める幼保小連携推進研修会、及び幼保小地区合同研修会を実施した
また、共通のねらい「育ってほしい子どもの姿」を持って、幼保小の児童交流活動を実施した

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・保育施設が実施する施設内研修に対して講師派遣したことにより、専門的な視点からの助言や評価をもらえたこと、外部研修とは違い、施設内で職員全員で受講することにより、全職員で共有できることが職員の意識向上を高め、チームワークにもつながっている

・就学前施設と小学校の職員、児童の交流から、お互いの文化の理解が深まっているとともに、幼保小の接続期の重要性を実感する機会にもなっている

・「幼保小架け橋期のカリキュラム」を授業(保育)のねらいに組み入れるなど活用されており、現場の意識の高まりが感じられた

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・幼保小の職員間で子どもの育ちの理解をさらに深め、架け橋期の接続を円滑にしていくためには、架け橋期に関わる担当職員のみならず、施設・小学校全体での取組にしていく必要がある

・「架け橋期のカリキュラム」が日々の保育・教育の中でさらに活用され、幼保小職員の共通意識として発展させていく必要がある

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町立保育施設の閉所(R2.4：5カ所 → R8.4：1カ所)

・私立保育施設の開設(R2.4：7カ所 → R8.4：13カ所)

・コロナ感染症のパンデミック後、社会全体の「人との関わり」の希薄化が進み、人生の土台である幼児期において、人との関わりの中で育んでいく力(非認知能力：好奇心や発想力、粘り強さ、協調性、感情をうまくコントロールする力等)が弱くなった

・ICT活用

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・これからの社会を生きていく子どもたちが社会の変化を受け止め、柔軟にたくましく生きていく力を身につけていく必要がある

・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領がR10年度に改訂される。指針等の理解を深めて、子どもの生きる力を育む幼児教育を推進する

・小学校を中心に、地域の就学前施設とともに、接続期の子どもの育ちの理解を深める

施策項目別評価シート ＜学校教育＞

基本計画		
	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第1節	子どもが心豊かに育つ環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第2項	子どもの資質・能力が持続的に形成されている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	保育・教育
施策項目	学校教育

担当課	学校教育課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
自ら計画を立てて勉強している生徒の割合	%	53.3 （R元） 拡大	小学:84.8 中学:67.6	74.7	76.9	62.5	58.4	ー			80.0	×
英語の授業が分かる生徒の割合	%	71.9 （R元） 拡大	70.0	70.7	73.4	67.6	68.0	77.6			80.0	○
全国学調等の結果を積極的に活用し授業改善を図っている学校の割合	%	36.4 （R元） 拡大	0	100	100	87.5	100	100			100.0	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
小・中学校の授業は、将来、社会で役立つ力が育まれていると感じますか	67.1%	A＋	93.6%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・指導主事が諸調査(全国学調、県学調等)結果の分析を実施した。
・外国語指導助手(ALT)を各小・中学校へ配置するとともに、中学生海外派遣事業や英語塾を実施し、英語教育及び国際理解教育の充実を図った。
・各学校の校内研究会へ指導主事を派遣し、助言を行った。
・ICT活用研修会、プログラミング教室を実施した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、その結果に基づく授業改善や小中連携による課題分析が進められ、学力面で着実な成果が見られる。
・ALT配置や海外派遣事業により、児童生徒が実践的な英語や異文化に触れる機会が充実し、英語学習への意欲や国際理解の向上につながった。
・小学校については、岩手県学力調査質問紙結果において肯定的な回答の割合が県平均を大きく上回っている。分かりやすい授業づくりや英語学習への興味・関心や学習意欲の向上つながっていることが推察される。
・ICTを活用した学習が着実に広がっており、学習意欲の向上や授業改善が進んでいる。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・「自ら計画を立てて勉強している生徒の割合」は目標値に達しておらず、主体的に学ぶ力の育成が引き続き課題となっている。
・一部の生徒において英語力の伸びに課題が見られる。
・世界的な物価上昇や円安、燃料価格の高騰などの影響により、海外派遣事業参加者の経済的負担が年々増加している。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・生成AIをはじめとするデジタル技術の進展により、情報活用能力や情報モラル教育の充実が必要となっている。
・世界的な物価上昇や円安、燃料価格の高騰などの影響により、海外渡航に係る費用が増加している。
・不登校や特別な支援を必要とする児童生徒の増加など、児童生徒を取り巻く課題が多様化・複雑化している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ICTや生成AI等を効果的に活用しながら、児童生徒一人ひとりに応じた個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。
・ALT配置や国際交流事業を継続・充実または見直しを図り、英語による実践的なコミュニケーション能力と国際理解の向上を図る。
・児童生徒一人ひとりの習熟度や学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を充実させるとともに、それぞれの能力や可能性を最大限に引き出すための指導方法や学習支援の工夫を図る。
・児童生徒一人ひとりの興味・関心や学習状況に応じた指導を充実させ、学ぶことの楽しさや達成感を実感できる授業づくりを通して、主体的に学習に取り組む意欲の向上を図る。
・多様化・複雑化する教育課題に対応するため、教育相談体制及び関係機関との連携体制の充実を図る。

施策項目別評価シート ＜教育振興＞

基本計画		
	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第1節	子どもが心豊かに育つ環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第3項	豊かな人間性・社会性と健やかな体が形成されている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	保育・教育
施策項目	教育振興

担当課	教育総務課、学校教育課、学校給食センター

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
集団心理検査における学校生活満足群が70%以上を占めている割合	%	78.0 （R元） 拡大	77.8	72.5	77.8	44.4	55.6	75.0			80.0	△
児童生徒の応急手当講習（AED等）を行っている学校の割合	%	28.6 （R元） 拡大	14.3	28.6	42.9	37.5	12.5	25.0			100	△

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
子どもが心豊かに成長できるよう、学校での取組が工夫されていると感じますか	62.8%	A－	92.7%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・各校に学校司書（会計年度任用職員3名、複数校兼務）を配置
・学校図書館図書の購入、学校図書館図書の適切な分類整理、児童・生徒及び教職員に対するレファレンス、図書の購入における助言等
・通学時における児童生徒の安全確保（スクールガードリーダー・スクールガードボランティアの配置、スクールバスの運行など）
・県の「60（ﾛｸﾏﾙ）プラスプロジェクト」に係る取組の推進、全国体力・運動能力調査の分析
・良質な給食食材と衛生環境の確保、食に関する指導の実施、地場産食材の積極的な活用、新たな生産者の確保など

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・学校司書を中心に、学校図書館担当教諭協力のもと、館内のレイアウトや分類表示の改善に努め、より利用しやすい学校図書館環境づくりを推進している。
・児童生徒の体力・運動能力に関する取組が継続的に行われており、先進的な取組に対する評価も見られた。
・調理等業務委託業者との連携や施設維持管理により安全安心な給食を滞りなく提供できた。
・地元産食材の使用率向上に向け、新たな生産農家や生産組合の確保ができた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・中学生の図書館貸出冊数及び読書冊数は県全体で減少傾向にあり、読書活動の量的な充実が課題となっている。
・食習慣や運動習慣に起因する健康上の課題が継続して見られ、家庭や地域と連携した生活習慣の改善に向けた支援の必要性が高まっている。
・給食センターの老朽化対策を今後も徹底する必要がある。
・引き続き未納給食費の圧縮に努める必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・近年、熊の出没件数が増加傾向にあり、児童生徒の通学時における安全確保がこれまで以上に重要な課題となっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・図書標準の充足を図るとともに、蔵書の質の向上や児童生徒のニーズに応じた選書による図書整備を進め、読書意欲の向上につながる学校図書館づくりに努める。
・スクールバスの運行については、地域住民からの要望や熊の出没状況等を踏まえながら、運行経路の見直しや停留所の新設・配置変更など、安全で利便性の高い運行体制の確保に引き続き努める。

・新学校給食センターへの移行に当たっては、移転準備や調理体制の習熟を十分に行い、児童生徒への給食提供に支障を生じさせることなく、円滑な運営開始を目指す。

施策項目別評価シート ＜教育支援＞

基本計画	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第1節	子どもが心豊かに育つ環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第4項	誰一人取り残されない学びが保障されている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	保育・教育
施策項目	教育支援

担当課	学校教育課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
不登校から復帰した生徒の割合	%	52.7 （R元） 維持	小学：50.0 中学：51.6	30.0	26.7	21.8	26.7	20.3			50.0	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
子どもや保護者が気軽に相談できる体制が整っていると感じますか	44.2%	C－	92.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・学校及び学校教育課における教育相談（電話、窓口）への対応。
・中学校への教育相談支援員の任用配置により生徒、学校を支援。
・教育支援教室「はばたき」を開設し、学校不登校児童生徒を対応。（教育相談支援員2名配置）
・hyper-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）を実施。
・就学ガイダンスの実施。（令和6年度から年長児保護者対象、令和8年度から5歳児健診（こども家庭センター主催　発達上の特性や支援ニーズを早期把握が主旨）で開始。）

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・教育相談において、保護者や児童生徒が早期に相談できる環境が整い、不登校や学校生活への不安に対する継続的な支援につながった。
・教育相談支援員を中学校へ配置したことにより、児童生徒一人ひとりに寄り添った支援が行われ、学校と家庭、関係機関との連携強化が図られた。
・教育支援教室「はばたき」において、個々の状況に応じた学習や体験活動を実施し、学校復帰や社会的自立に向けた支援を継続した結果、毎年度学校復帰につながる児童生徒が見られた。
・hyper-QUの分析結果を活用することで、学級集団の状況や児童生徒一人ひとりの心理面を把握し、課題の早期発見や学級経営の改善につなげた。
・就学ガイダンスの導入により、就学に関する早期の相談支援を充実させるとともに、保護者の不安軽減を図り、円滑な就学支援につながっている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・不登校児童生徒数は全国的な増加傾向と同様に町内でも増加しており、学校復帰率は目標値に達していない。
・教育支援教室「はばたき」やフリースクール等の多様な学びの場の活用は進んでいるものの、全ての不登校児童生徒に十分な支援や学びの機会が行き届いていない。
・特別な支援を必要とする児童生徒や医療的ケアを必要とする児童の増加など、支援ニーズが多様化・複雑化しているが、支援員について十分な人員を確保できていない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・全国的に不登校児童生徒数は増加を続けており、町においても同様の傾向が見られる。
・国においては、不登校児童生徒への支援として「学びの保障」や「誰一人取り残されない教育」の推進が示され、学校以外の学びの場や個別最適な支援の重要性が高まっている。
・児童生徒が抱える課題は、不登校に加え、発達特性、家庭環境、心身の健康など複雑・多様化しており、一人ひとりに応じた支援体制の更なる充実が求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・教育相談支援員等の専門人材を効果的に配置し、不登校の未然防止、早期発見・早期対応及び学校復帰・社会的自立に向けた支援を推進する。
・学校復帰のみを成果指標とするのではなく、児童生徒の社会的自立や学びの継続を重視した支援へと発展させ、「誰一人取り残されない学び」の実現を目指す。
・個々のニーズに応じた学びの場の確保と継続的な支援の充実を図る。

施策項目別評価シート ＜教育環境＞

基本計画		
	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第1節	子どもが心豊かに育つ環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第5項	より良い学校教育環境が確保されている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	保育・教育
施策項目	教育環境

担当課	教育総務課、学校教育課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
小中学校間で教育課程に関する共通の取組を行った割合	%	9.1 （R元） 拡大	0	66.7	87.5	37.5	87.5	87.5			100	○
コミュニティ・スクール導入率	%	9.1 （R元） 拡大	0	16.7	100	100	指標廃止				100	ー
週1回以上ICT機器を利用した授業を受けた児童生徒の割合	%	40.6 （R元） 拡大	17.6	27.8	68.1	83.5	88.4	90.1			75.0	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
小・中学校の教育環境が充実していると感じますか	55.5%	B＋	92.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和5年度にコミュニティ・スクール導入率100%を達成した。
・児童生徒が学習用タブレット端末を活用できるよう整備し、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の充実に取り組んだ。
・赤石小学校の校舎増築が完了した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域課題や学習活動をテーマとした熟議を重ねることで学校と地域の連携が一層深まった。
・小中一貫教育のもとで授業改善が進み、ICT活用や落ち着いた学習態度が定着した。地域参観を通して学びの質が共有され、学校への信頼が高まった。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域協働の広がりにばらつきがあり、人口減少地区では活動継続や情報共有の仕組みづくりが課題となっている。
・家庭での情報モラル指導や生活習慣づくりに温度差があり、親子で話し合う環境づくりが十分でない。
・教員や学校によって、タブレット端末の活用状況に差が見られる。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・広報の充実に比べて地域住民の反応や参画の広がりは限定的であること。
・コロナ禍によるオンライン学習の必要性、社会全体のデジタル化、生成AIの普及など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化した。こうした社会では、単に知識を覚えるだけでなく、情報を活用し、判断し、他者と協働する力が求められる。タブレット端末を活用した授業は、そのような力を育てるための重要な学習環境であり、これからの社会を生きる子どもたちにとって欠かせないものとなっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・学校施設の維持管理やICT環境、学校備品の充実については、限られた予算の中で計画的に実施していく。
・社会のデジタル化や生成AIの普及が進む中、すべての児童生徒に必要な情報活用能力を育成するため、タブレット端末を日常的な学習ツールとして活用していく必要がある。そのため、教員の創意工夫による活用の自由度は確保しつつ、児童生徒が身に付けるべき力や学習機会については全ての学校で共通化し、学びの質を保障していく。

施策項目別評価シート ＜児童福祉＞

基本計画	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第1節	子どもが心豊かに育つ環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第6項	支援の必要な子どもが心身共に育つ環境が保障されている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	保育・教育
施策項目	児童福祉

担当課	健康福祉課、こども課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
保護者への児童虐待防止啓発活動数	件	25 （R元） 拡大	28	26	26	26	22	26			30	○
児童虐待通告、相談のケースに応じて必要な対応を行った割合	%	100 （R元） 維持	100	100	100	100	100	100			100	◎
配慮が必要な児童とその保護者について、同意を得て個々に応じた適切な支援につながったケース	%	70.0 （R元） 拡大	97.6	95	96.5	100	100	100			100	◎
幼児ことばの教室指導により改善が図られた児童の割合	%	48.0 （H30） 拡大	48	67	53.8	26.3	53.8	43.8			58.0	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
支援が必要な子どもに、適切な対応が行われていると感じますか	45.5%	C＋	92.6%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和7年度健康福祉課内にこども家庭センターを設置し、妊娠期から子育て家庭へ一体的な総合相談支援を実施している。
・要保護児童対策地域協議会（代表者会議、窓口連携会議、個別ケース検討会議）及び児童福祉相談窓口連携会議を開催・運営している。
・子どもの育ちの相談室（毎月1回）を実施し、保護者の抱える養育の困り感に寄り添い、関係機関につなぐとともに、育児の自信回復につなげている。
・施設巡回訪問・個別発達相談（毎月1回）とペアレント・トレーニング（4回コース）を実施するとともに、事業の啓発に努めている。
・幼児ことばの教室の実施により、就学前の早い段階で、ことばの発達の特性により困難を抱える子どもの発達課題の改善を図る。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・こども家庭センターが設置され、児童虐待への対応方法や相談窓口の周知により、より早く関係機関につながり、児童虐待の未然防止が図れている。
・定期的又は必要な都度関係機関が集まり、要支援児童と保護者等の情報が関係機関に共有されるとともに、役割分担も明確になり、効率よく支援が実施される。
・発達相談を行うことで、子どもの特性の正しい理解による二次障害の予防と、保護者の孤立及び不安が解消される。また、早期の相談で発達支援へスムーズに繋げられる。
・ペアトレにより子どもの問題行動の減少や社会性の向上のほか、保護者自身の育児ストレスの軽減や養育に対する自信回復など、親子双方に大きな効果が認められている。
・関係機関との連携により、幼児ことばの教室事業を勧奨してもらうことで、個々の成長に適したタイミングで支援に繋がっている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・解決が困難（貧困・障害・性格・知的等）なケースが多く対処的な対応となり、根本的な問題解決にならない。
・相談支援は相手の話を傾聴することが基本であり、対応に長い時間を要する。職員は、相手の立場に寄り添って対応する必要があり、心理的な負担が蓄積しやすい。
・関係機関間の認識のずれや行き違いなどにより、本人と支援者に温度差が生じ、支援への拒否感が生じる場合がある。
・利用者が費用などの負担を生じる支援に対し、本人や家族から同意を得られない場合がある。
・より効果的にことばの発達を促すため、関係者に対して適正時期及び言葉の教室事業の理解促進を図り、対象児童の利用勧奨を進めていく必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・核家族やひとり親の増加、共働き世帯の一般化、近所付き合いの希薄化による、家庭内や地域の見守りの力が低下している。
・子どもの貧困問題が深刻化し、こども同士の格差が生まれている。
・SNSの普及によるリスクが深刻化され、リアルな人間関係の構築に困難をかかえる少年・少女が増加している。
・就学前の児童及び在籍児童において行動特性など困り感を抱えている事例が増えている。また小中高校生の不登校の増加は、こどもの精神的な危機を表している。
・ことばの発達について保護者の関心が年々高まり、相談需要が増えている。様々な症例に対する、指導者の幅広い知識と深い理解が求められる。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・妊産婦、子育て世帯、子供自身を対象とした包括的な総合相談支援窓口の周知を図っていく。
・要保護児童対策地域協議会、児童福祉相談窓口連携会議の開催と運営を継続して実施するとともに、職員は資質・対応能力向上を図る研修を受講する。
・こどもの育ち・発達相談・ペアレントトレーニングを計画的に、継続実施する。
・緊急時に対応するため関係機関との連携を引き続き密にするとともに、職員への研修を実施していく。
・ことばの発達で気になる児童を更に適したタイミングでつなげられるよう、5歳児健診にてパンフレットを全家庭に配布し周知していく。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【子ども・教育・文化】分野 子育て支援

1　施策の分類

基本構想	分野別政策	子ども・教育・文化	第4章　郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
基本計画	基本施策	子育て支援	第2節　安心して子育てができる環境が整っている
	施策項目	子育て支援	第1項　保護者は安心して子育てしながら、子育て・教育を含め自分の思い描いたことを行動して実現している

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
子育て支援	第1項　保護者は安心して子育てしながら、子育て・教育を含め自分の思い描いたことを行動して実現している	4	1	2	0	1	75.0%
施策内計		4	1	2	0	1	75.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
子育て支援	子育てがしやすい環境が整っていると感じますか	57.9%	B＋	92.8%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜子育て支援＞

基本計画		
	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第2節	安心して子育てができる環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	保護者は安心して子育てしながら、子育て・教育を含め自分の思い描いたことを行動して実現している

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	子育て支援
施策項目	子育て支援

担当課	こども課、教育総務課生涯学習課、町民課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
待機児童数	人	42 (R元) 抑制	9	1	2	2	8	1	0		0	○
ファミリー・サポート・センター援助会員数	人	36 (R元) 拡大	62	69	77	105	110	115			80	◎
きめ細かな子育て支援環境が整っていると思う町民の割合	%	70.7 (R元) 拡大	―	―	―	63.9	―	―			75.0	×
放課後子ども教室の満足度	%	80.0 (H30) 拡大	90.8	（R3～事業廃止）			指標廃止				85.0	―
子育ち・子育て支援活動補助金交付団体数	件	4 (R元) 拡大	5	5	5	4	5	4			5	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
子育てがしやすい環境が整っていると感じますか	57.9%	B＋	92.8%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・公立保育所及びこどもの家の整備、整備補助、及び施設・設備の修繕により保育環境を整えた

・子育て支援拠点によるひろばの開放により、子育て家庭、妊婦の交流の場を提供した

・子育て・子育ち支援ひろば開催団体への運営費補助を実施した

・保育料の第二子以降無償化、児童手当支給、在宅育児支援金の適切な支給、ファミリー・サポート・センター事業実施委託、病児保育事業実施委託、児童扶養手当及び特別児童手当業務、母子父子寡婦福祉資金貸付等の申請支援を実施した

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・子育て世帯を支える子どもの居場所や環境づくりを行った

・子育てについての相談、情報の提供、助言を行い妊婦とその家族、パートナーなどを多方面からサポートした

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・施設の老朽化が著しいため、施設の状況に応じて優先度を定め、長寿命化を進める必要がある

・支援を必要としている家庭(ひとり親、外国籍家庭、経済的困難を抱える家庭など)へのアプローチが難しい状況である

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・核家族化や共働き世帯の増加により、子育ての仕方や乳幼児との関わり方、遊び方について不安を抱えている保護者が増えている

・宅地開発の進展に伴い、若い子育て世帯の転入が増加していることや、子育てを取り巻く環境の変化で、保育や学童保育に対するニーズが高まっている

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町全体の教育・保育施設の量の見込量を算出し適切に対応する

・様々な不安や悩みを抱える保護者の支援ニーズに対応するため、職員のスキルアップを図り、関係機関との緊密な連携をさらに強化する

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【子ども・教育・文化】分野 生涯学習

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		子ども・教育・文化	第4章　郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
基本計画	基本施策		生涯学習	第3節　町民が文化やスポーツに親しみ健康で活力ある暮らしができている
		施策項目	生涯学習	第1項　町民それぞれが教養を高め心豊かに暮らす人が増えている
			芸術・歴史・文化	第2項　歴史や文化遺産が守られ、魅力ある地域がつくられている
			スポーツ	第3項　町民がスポーツに親しむ機会がある
			社会参加	第4項　子どもが地域で生き生きした生活を送っている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
生涯学習	第1項　町民それぞれが教養を高め心豊かに暮らす人が増えている	2	1	0	1	0	50.0%
芸術・歴史・文化	第2項　歴史や文化遺産が守られ、魅力ある地域がつくられている	2	1	1	0	0	100.0%
スポーツ	第3項　町民がスポーツに親しむ機会がある	2	1	1	0	0	100.0%
社会参加	第4項　子どもが地域で生き生きした生活を送っている	1	1	0	0	0	100.0%
施策内計		7	4	2	1	0	85.7%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
生涯学習	生涯にわたって学び続ける環境が整っていると感じますか	55.7%	B＋	75.3%	AA＋
芸術・歴史・文化	地域の文化財や郷土芸能は継承されていると感じますか	57.1%	B＋	70.8%	AA－
スポーツ	地域でスポーツに親しむ機会が身近にあると感じますか	51.3%	B－	63.9%	A－
社会参加	中高生が地域の行事や活動に参加できていると感じますか	46.9%	C＋	70.4%	AA－

施策項目別評価シート ＜生涯学習＞

基本計画	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第3節	町民が文化やスポーツに親しみ健康で活力ある暮らしができている
	実現したい具体的な状態 第1項	町民それぞれが教養を高め心豊かに暮らす人が増えている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	生涯学習
施策項目	生涯学習

担当課	生涯学習課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
町民1人当たりの公民館利用回数	回	3.6 （H30） 維持	2	2.5	2.6	3.6	3	3.2			3.6	△
公民館講座の満足度	%	ー （ー） 拡大	90.5	88.2	90.1	91.6	91.0	91.0			91.0	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
生涯にわたって学び続ける環境が整っていると感じますか	55.7%	B＋	75.3%	AA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域課題やニーズに応じた学習機会の提供（家庭、青少年、女性、成人、高齢者それぞれに対応した魅力ある教室や講座等の開催）
・安全で快適な学習施設の提供（ブライインド、空調設備、照明設備、消防設備等施設の修繕や工事の実施）
・公民館管理運営事業の実施（警備保障、自家用電気工作物保安、自動ドア保守点検、火災監視、消防設備点検、一般廃棄物収集等管理業務の委託）
・発表の機会の提供と芸術団体の支援（芸術祭や公民館まつり等、公民館での公演会の開催）
・芸術文化事業の実施（展示部門、小中学生作品展、合唱合奏部門、吹奏楽部門、舞台部門の開催）

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・公民館の各種講座などの受講者の9割が満足していると回答している。
・公民館を快適に利用できるようにトイレ改修やエアコン設置などを行っている。
・芸術文化団体の発表機会として芸術祭が開催されている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・様々な地域課題や学習ニーズに応えるため、講座や事業の見直しが必要となっている。
・公民館の利用者が固定化しており、若年層の利用者も少ない状況である。新規利用者の増加への取組が必要となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・社会変化が一層加速する現代において、地域が直面する課題を捉え、対応するため新たな知識や教養を深める生涯学習の重要性が高まっている。
・一人一人が生涯学び続けられるように、学習環境の整備や学習機会の提供が求められている。
・コロナ禍により令和2年度の公民館利用者数が激減した。その後、公民館利用者数は増加傾向にあるが、以前の水準まで戻っていない。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域の学習機会を活用し、自己啓発、地域を支える力の向上に取り組む町民が増えるよう、公民館で魅力ある講座が開催される。
・住民同士の交流により芸術文化活動が活発になる。
・社会活動団体の活動が支援され、社会活動団体の活動が自立的かつ継続的に行われる。
・芸術祭に参加する住民が増加し、芸術文化活動の成果を発表する住民の視野が広まる。
・公民館が適正に管理され住民に幅広く活用され、公民館が文化芸術や地域活動の拠点となる。

施策項目別評価シート ＜芸術・歴史・文化＞

基本計画		
	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第3節	町民が文化やスポーツに親しみ健康で活力ある暮らしができている
	実現したい具体的な状態 第2項	歴史や文化遺産が守られ、魅力ある地域がつくられている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	生涯学習
施策項目	芸術・歴史・文化

担当課	生涯学習課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
町芸能保存会加盟団体の平均公演回数	回	5.1 (H30) 拡大	1.7	1.9	3.2	5.1	5.8	6.7			5.5	◎
あらえびすコレクションデジタルアーカイブ件数	件	3,000 (H30) 拡大	3,764	3,764	4,980	5,604	6,204	6,739			7,000	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
地域の文化財や郷土芸能は継承されていると感じますか	57.1%	B＋	70.8%	AA－

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・文化財保護の周知、啓発のため、文化財マップの改訂や御城印（高水寺城・片寄城）の頒布、指定文化財説明板や標柱の更新・作製（5件）を行った
・埋蔵文化財の保護のため、開発等に対応した有無確認調査（試掘調査）・記録保存調査（14遺跡、23次）を進め、発掘調査報告書や金鉱山遺跡分布調査報告書を刊行した
・野村胡堂・あらえびす記念館資料の活用を目的委、野村胡堂の収集したSPレコードコレクションのデジタル化を進めた
・町史編さんに向けた取組として、町史編さん委員会を組織し、編さん方針を決定。令和11年度刊行に向けて事業を進めた
・保存団体支援事業のため、町主催民俗芸能上演事業（郷土芸能鑑賞会、赤沢神楽・星山神楽共演会等）、助成金等の申請支援を行った

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・民俗芸能の上演機会の確保と文化財の理解促進のための町郷土芸能祭を継続して開催できるよう、町と町芸能保存会が検討し運営体制などを見直した。
・学校教育と連携したプログラムや新規事業の創設などの事業展開により、野村胡堂・あらえびす記念館の収蔵資料の有効活用と町民の触れる機会が増加している。
・町史編さんに向けて、令和4年度に町史編さん委員を委嘱し、返済事業を開始している。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・芸能団体の上演機会が少なくなっている。また、構成員の高齢化が顕著であり後継者の育成や支援が急務となっている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・発掘や研究により新たな文化財の価値が明らかになる一方、既存の文化財においては、人口の減少や生活様式の変化により担い手が減少し、保存や継承が困難になってきている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・埋蔵文化財を適切に保存し、史跡や調査成果の情報が活用される
・貴重な文化財が保護され、継承される
・郷土芸能等無形の文化財が地域住民によって次世代に継承される
・町の発展を支えた先人の偉業や事績が記録され、広く伝えられる
・歴史や文化遺産が守られ魅力ある地域が創造される

施策項目別評価シート ＜スポーツ＞

基本計画		
	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第3節	町民が文化やスポーツに親しみ健康で活力ある暮らしができている
	実現したい具体的な状態 第3項	町民がスポーツに親しむ機会がある

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	生涯学習
施策項目	スポーツ

担当課	生涯学習課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
町民1人当たりの町内スポーツ施設利用回数	回	6.2 （H30） 維持	3.1	3	3.7	3.9	4.1	7.2			5.0	◎
町内スポーツ合宿等誘致件数	件	8 （H30） 拡大	33	45	46	35	24	26			50	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
地域でスポーツに親しむ機会が身近にあると感じますか	51.3%	B－	63.9%	A－

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・スポーツ活動の支援（スポーツ基本法に基づくスポーツ推進委員の委嘱及びその活動の支援）
・町民のニーズに合わせたスポーツメニューの構築（スポーツ教室、レクリエーション事業、出前スポーツ事業等の実施）
・次世代スポーツ選手、指導者の育成と支援（スポーツ少年団育成支援、体力向上事業、選手、指導者講習会等の開催）
・安全で快適なスポーツ施設の提供（環境調査、自家用電気工作物保安、清掃、自動ドア保守点検、消防設備点検等業務の委託と空調設備工事、施設修繕）
・スポーツツーリズムの推進（オリンピック・パラリンピックに係る取組、盛岡広域スポーツコミッションへの参画によるスポーツ交流の促進）

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・閉校した学校施設を暫定的にスポーツ活動などに開放しており、スポーツ少年団を中心に多くの町民に利用されている。
・町内で開催される全国規模の大会やプロの試合を通じて、町民がスポーツの楽しさを知る機会やスポーツに関わる機会が増えている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・スポーツ施設の老朽化が顕著であり、安全・快適にスポーツを楽しめる環境整備が必要となっている。
・ライフスタイルの多様化により、スポーツ競技人口が減少傾向にある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・個々にあったスポーツの選択、健康で文化的な生活の実践が期待される。
・閉校した学校施設の民間による活用が進んでいる。
・スポーツ交流施設（ワイズマンスポーツベース紫波）を整備し、新たなスポーツの場を提供している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・スポーツ指導者が充実し、気軽にスポーツに参加できる教室やイベントなどが増えることにより、誰でもスポーツにふれる機会を持てる。
・運動施設が安全に供用し、学校施設等の運動環境を町民に開放し活用されるよう、安全で快適なスポーツ環境を整える。
・スポーツ交流人口が増え、競技の観戦や見学を通じてスポーツを身近に感じる機会が増える。

施策項目別評価シート ＜社会参加＞

基本計画	分野別将来像 第4章	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
	実現したい状態 第3節	町民が文化やスポーツに親しみ健康で活力ある暮らしができている
	実現したい具体的な状態 第4項	子どもが地域で生き生きした生活を送っている

分野別政策	子ども・教育・文化
基本施策	生涯学習
施策項目	社会参加

担当課	生涯学習課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
中学生社会参加活動参加率	%	ー （ー）拡大	未設定				83.5	76.8			70.0	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
中高生が地域の行事や活動に参加できていると感じますか	46.9%	C＋	70.4%	AA－

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・社会参加活動の推進（自分たちでできることや地域のためになることを考え、目的をもって地域の一員として活動）
・社会参加活動推進事業の実施（望ましい人間形成を図るため、在学青少年の社会参加活動を各地域で展開、中学生による実践班活動）

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域との関わりが希薄になっているといわれる中で、近年の調査において、町内中学生が「地域の行事に参加している」「どちらかと言えば参加している」と回答した割合が約8割で、国や県の平均を大きく上回っている。
・「誰かの役に立ちたい」と思っている中学生は9割を超えており、地域の一員としての自覚や自己有用感を感じている。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・中学生社会参加活動における実践班の違いにより活動内容に差が生じている。
・青少年健全育成のため、大人が手本となって社会規範を示し、社会総がかりで子どもたちを育むことが必要である。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・社会構造や就労形態の変化に伴い、こどもを取り巻く環境において、地域との繋がりが希薄になってきている。
・心豊かなこどもが育つためには、学校教育だけで無く身近な地域社会の中でさまざまな人と関わり、社会に参画する機会を広げていくことが求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・学校運営協議会の活動を推進し、こどもが地域との関わりの中で心豊かに育つ地域になる。
・地域の社会参加活動に積極的に参加する中学生が多くなり、地域の教育課題が地域の多様な人々の協働によって解決される。

第5章 【自治・参加】

＜5－1＞　協働
＜5－2＞　コミュニティ
＜5－3＞　共生社会
＜5－4＞　情報

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自治・参加】分野 協働

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		自治・参加	第5章　多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
基本計画	基本施策		協働	第1節　まちづくりを主体的に考え行動できる環境が整っている
		施策項目	協働	第1項　市民と町の信頼関係が構築され協働のまちづくりが進められている
			市民参加	第2項　市民の意見がまちづくりに反映されている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
協働	第1項　市民と町の信頼関係が構築され協働のまちづくりが進められている	1	1	0	0	0	100.0%
市民参加	第2項　市民の意見がまちづくりに反映されている	2	1	1	0	0	100.0%
施策内計		3	2	1	0	0	100.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
協働 市民参加	行政と町民が一緒になってまちづくりに取り組んでいると感じますか	47.9%	C＋	80.3%	AAA－

施策項目別評価シート ＜協働＞

基本計画		
	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第1節	まちづくりを主体的に考え行動できる環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第1項	市民と町の信頼関係が構築され協働のまちづくりが進められている

分野別政策	自治・参加
基本施策	協働
施策項目	協働

担当課	地域づくり課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
人材育成講座修了者数(累計)	人	85 (R元) 拡大	85	98	107	107	118	126			125	◎
市民参加が進み主体的にまちづくりに関わる人が増えていると思う人の割合	%	44.0 (H29) 拡大	42.1	42.1	42.1	42.1	―	―			55.0	―

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
行政と町民が一緒になってまちづくりに取り組んでいると感じますか	47.9%	C＋	80.3%	AAA－

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・協働のまちづくりを円滑に進めていくために必要な人材として、住民を対象としたファシリテーターの養成等に取り組んだ。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ファシリテーター養成講座において、話し合いの場づくりに必要なプロセスデザインを学び、話し合いの意義を理解することができた。
・地域に目を向け、自分事として捉え、行動する市民が増えた。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・講座修了者が継続的に活動できるような支援の仕組みを構築できていない。
・多様化する地域のニーズや活動をコーディネートする人材の発掘・育成が引き続き必要とされている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・コロナ禍で市民・地域活動が停滞した。
・コロナ禍の行動規制を経て、不要な活動は淘汰されたが、話し合いの機会が減り、つながりが弱まってしまった。
・不安定な国際情勢や物価高騰が地域活動にも影響している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・講座や勉強会を通じて、協働で地域づくりに取り組む主体に対して的確なアドバイスや調整などを行う人材の育成に努める。
・講座修了者やまちづくりに関心を持ち主体的に行動する人が、自身の活動を発展させ、コーディネーターとしても活躍できる環境を整える。

施策項目別評価シート ＜市民参加＞

基本計画		
	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第1節	まちづくりを主体的に考え行動できる環境が整っている
	実現したい具体的な状態 第2項	市民の意見がまちづくりに反映されている

分野別政策	自治・参加
基本施策	協働
施策項目	市民参加

担当課	地域づくり課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
市民参加の実施率	%	100 (H30) 維持	100	100	100	100	100	100			100	◎
市民参加モニターの登録者数	人	ー (ー) 拡大	0	8	7	7	指標廃止				50	ー
市民参加情報発信サポーター登録者数	人	ー (ー) 拡大	未設定				7	7			20	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
行政と町民が一緒になってまちづくりに取り組んでいると感じますか	47.9%	C+	80.3%	AAA−

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・市民がまちづくりに関わり、協働によるまちづくりを推進していくため、市民参加推進会議を実施した。
・若い世代や子育て世代などにも町政に関心をもってもらい市民参加を促進するため、市民参加情報発信サポーター制度をスタートした(R6～)。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・意見交換会やパブコメなどで市民の率直な意見や反応を確認できた。
・市民参加対象外の案件についても積極的に市民参加を行う課が増えてきた。
・市民参加情報発信サポーターのSNS発信により市民参加推進会議やパブコメなどの周知を広く行うことができた。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・市民参加がまちづくりに主体的に関わる手段の一つであることの理解が進んでいない。
・大人に比べ子どもの意見を広く聴く機会が少ない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・多様化する地域課題の解決に主体的に取り組む機運の醸成が必要である。
・まちづくりに感心を持つ住民が増えている。
・R5.4月に「こども基本法」が施行され、国や自治体においてこども・若者の意見を聴き、反映させることが求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・まちづくりへの住民の関心をさらに高めていくため、市民参加の理解促進に取り組んでいく。
・子どもが参加しやすい仕組みづくりや機会づくりに取り組んでいく。
・市民の意見を市民が共有できる機会や場面を増やしていく。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自治・参加】分野 コミュニティ

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		自治・参加	第5章　多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
基本計画	基本施策		コミュニティ	第2節　地域の実情に合ったコミュニティがある
		施策項目	市民活動支援	第1項　市民が主体的に活動に取り組める環境が整っている
			地区コミュニティ支援	第2項　町と町民の協働により地域課題の解決が進む

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
市民活動支援	第1項　市民が主体的に活動に取り組める環境が整っている	2	1	1	0	0	100.0%
地区コミュニティ支援	第2項　町と町民の協働により地域課題の解決が進む	2	1	0	1	0	50.0%
施策内計		4	2	1	1	0	75.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
市民活動支援 地区コミュニティ支援	地域で支え合う活動や集まりは活発だと感じますか	43.3%	C－	69.1%	A＋

施策項目別評価シート ＜市民活動支援＞

基本計画		
	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第2節	地域の実情に合ったコミュニティがある
	実現したい具体的な状態 第1項	市民が主体的に活動に取り組める環境が整っている

分野別政策	自治・参加
基本施策	コミュニティ
施策項目	市民活動支援

担当課	地域づくり課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
中間支援業務体制の構築状況	件	ー （－） 拡大	ー	ー	ー	ー	1	1			1	◎
地域づくり活動補助金活用団体延べ団体数	件	67 （R元） 拡大	67	71	74	77	79	83			99	○
まちづくりへの想いを行動に移す活動が活発に行われていると思う人の割合	%	45.0 （H30） 拡大	46.6	46.6	46.6	36.1	ー	ー			55.0	ー

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
地域で支え合う活動や集まりは活発だと感じますか	43.3%	C－	69.1%	A＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域活性化企業人制度を活用して民間人材を受け入れ、地域コミュニティ形成を支援した。
・地域づくり活動補助金の交付により市民活動を支援した。
・市民活動保険の加入により安心して市民活動に取り組めるよう環境を整えた。
・市民活動安全管理支援事業により市民活動を行ううえでの安全対策やリスク管理を学ぶ機会を提供した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・社会における困りごとを自分事として捉え、解決に向けて活動を始める団体が出てきた。
・補助金の事業提案審査の一連のプロセスを経験することで、自らの思いを活動へと形作る主体性を育むことができている。
・リスク管理しながら安心安全に活動に取り組むことができている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の流行により、対面を前提とする市民・地域活動が停滞しただけでなく、収束後の市民の意識にも影響を与え、再開しない活動なども散見された。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の流行により、市民・地域活動が停滞しただけでなく、収束後の市民の意識やライフスタイルにも影響が及んでいる。
・コロナ禍で行動が規制されたことにより、対面中心だった活動方法にオンラインという新たな活動方法が加わった。
・不安定な国際情勢や物価高騰が地域活動にも影響している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・引き続き、市民が主体性をもって地域課題の解決に取り組んでいける環境づくりに努める。
・地域課題の解決を目指す地域運営組織などの活動を支援し、多世代が参加し取組が持続可能なものになるように努める。

施策項目別評価シート ＜地区コミュニティ支援＞

基本計画	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第2節	地域の実情に合ったコミュニティがある
	実現したい具体的な状態 第2項	町と町民の協働により地域課題の解決が進む

分野別政策	自治・参加
基本施策	コミュニティ
施策項目	地区コミュニティ支援

担当課	地域づくり課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値(基準年)	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	達成状況
地域で支え合う地域自治活動が活発に行われていると思う人の割合	%	53.0 (R元) 拡大	53.1	53.1	53.1	52.2	ー	ー			65.0	△
ワークショップアドバイザー・ファシリテーター派遣延べ人数	人	25 (R元) 拡大	28	32	65	66	68	80			65	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
地域で支え合う活動や集まりは活発だと感じますか	43.3%	C－	69.1%	A＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域づくり取り組み発表会を開催し、地域で行われている多様な支え合い活動を町民と共有した。
・まちづくりの意見交換会や勉強会などにアドバイザー、ファシリテーターを派遣した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・地域づくり取り組み発表会を開催することで、地域課題の解決に向けて活動している団体・個人の活動を知り、学び合う機会を創出している。
・地域の課題に関心を持ち、自ら活動しようとする人が増えている。
・地域を考える上で話し合いの場作りの大切さに気付き、ファシリテーターを入れる機会が増えている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の流行により、対面を前提とする市民・地域活動が停滞しただけでなく、収束後の市民の意識にも影響を与え、再開しない活動なども散見された。
・多様化する地域のニーズや活動をコーディネートする人材の発掘・育成が引き続き必要とされている。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルス感染症の流行により、市民・地域活動が停滞しただけでなく、収束後の市民の意識やライフスタイルにも影響が及んでいる。
・コロナ禍で行動が規制されたことにより、対面中心だった活動方法にオンラインという新たな活動方法が加わった。
・不安定な国際情勢や物価高騰が地域活動にも影響している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・引き続き、地域づくり取り組み発表会等を通じて、地域の現状や活動している団体の取り組みを学び合う機会を創出し、主体的に地域づくりを考える機運を醸成する。
・講座や勉強会等を通じて、対話や話し合いの場づくりの重要性を共有していく。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自治・参加】分野 共生社会

1　施策の分類

基本構想	分野別政策	自治・参加	第5章　多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
基本計画	基本施策	共生社会	第3節　国籍や性別に関わらず、共生できる社会になっている
	施策項目	男女共同参画	第1項　違いを認め合い、多様な価値観を尊重する人が多い町になる
		国際交流	第2項　国際交流や姉妹都市交流が活発に行われている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
男女共同参画	第1項　違いを認め合い、多様な価値観を尊重する人が多い町になる	2	0	2	0	0	100.0%
国際交流	第2項　国際交流や姉妹都市交流が活発に行われている	1	0	0	1	0	0.0%
施策内計		3	0	2	1	0	66.7%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
男女共同参画	地域活動などで、性別による役割分担が解消されてきていると感じますか	32.1%	D	65.9%	A＋
国際交流	国際交流や姉妹都市交流が活発に行われていると感じますか	27.9%	D	59.3%	B＋

施策項目別評価シート ＜男女共同参画＞

基本計画		
	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第3節	国籍や性別に関わらず、共生できる社会になっている
	実現したい具体的な状態 第1項	違いを認め合い、多様な価値観を尊重する人が多い町になる

分野別政策	自治・参加
基本施策	共生社会
施策項目	男女共同参画

担当課	企画課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
性別に関わりなく社会参加ができる町だと思う人の割合	%	38.4 (H29) 拡大	ー	37.8	32.1	32.1	指標廃止				52.0	ー
社会や生活の中で、男女の地位（立場）が平等と思う人の割合	%	13.3 (H29) 拡大	未設定				14.3	14.3			50.0	○
男女共同参画サポーター認定者数	件	46 (H29) 拡大	51	52	51	51	48	56			60	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
地域活動などで、性別による役割分担が解消されてきていると感じますか	32.1%	D	65.9%	A＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・男女共同参画に関する意識啓発事業として、セミナーやワークショップを実施した。
・男女共同参画サポーターの増加を図るため、養成講座の周知や参加促進を行った。
・男女共同参画に関する理解促進のため、県等が主催するセミナーや講座の周知を行った。
・令和6年度より、パートナーシップ・ファミリーシップ制度を導入した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・セミナーやワークショップの実施により、男女共同参画に関する理解促進や意識啓発につながった。
・他団体が主催するセミナーや講座の周知により、男女共同参画に関する学習機会や情報に触れる機会の拡充につながった。
・パートナーシップ・ファミリーシップ制度の導入により、多様な性の在り方に対する理解促進や制度的支援の充実につながった。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・男女共同参画に関する理解促進に向けた効果的な取組の検討及び実施が課題である。
・男女共同参画サポーターとの連携、活用が課題である。
・パートナーシップ・ファミリーシップ制度の認知度向上及び利用促進が課題である。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・性別にかかわらず多様な生き方や働き方を尊重する意識が高まっている。
・多様な性に対する理解促進や配慮が求められている。
・共働き世帯の増加などに伴い、若い世代を中心に固定的な性別役割分担意識の解消への意識が高まっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・男女共同参画に関する理解促進に向け、効果的な啓発手法を検討し、継続的な取組を実施していく。
・男女共同参画サポーターの効果的な活用を図り、地域における男女共同参画の推進につなげていく。
・パートナーシップ制度の認知度向上及び利用促進に向け、周知・啓発を実施していく。

施策項目別評価シート ＜国際交流＞

基本計画	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第3節	国籍や性別に関わらず、共生できる社会になっている
	実現したい具体的な状態 第2項	国際交流や姉妹都市交流が活発に行われている

分野別政策	自治・参加
基本施策	共生社会
施策項目	国際交流

担当課	総務課、学校教育課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
国際交流・文化交流事業に関わる町民数	人	56 (H30) 拡大	63	61	54	52	指標廃止				67	ー
国際交流事業に関わる町民数	人	56 (H30) 拡大	未設定				54	54			67	△

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
国際交流や姉妹都市交流が活発に行われていると感じますか	27.9%	D	59.3%	B＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・紫波町国際交流協会への助成金の交付
・外国語指導助手（ALT）による各小中学校での、外国語活動及び英語授業の補助
・外国語指導助手が、地区公民館主催の国際文化理解に係る事業へ参加
・中学生海外派遣事業の実施（姉妹都市のあるオーストラリアへ中学生を派遣、ホームステイ、地元の学校体験、文化施設見学等）

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・国際交流、多文化共生に精通した団体への助成金の交付により、最小経費で町の国際交流に関する事業の充実が図られた。
・中学生海外派遣事業参加生徒について、ホームステイや現地校での交流を通じて、実践的な英語によるコミュニケーション能力の向上が図られた。
　現地での経験を学校での報告会等を通じて共有することで、参加生徒だけでなく、在校生の国際交流や英語学習への関心・意欲の向上にもつながった。
・外国語活動及び英語科授業における指導・支援の充実が図られた。
・地域住民との交流を通じた国際理解の推進が図られた。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・指標である国際交流・文化交流事業に関わる町民数が伸び悩んでいる。
・世界的な物価上昇や円安、燃料価格の高騰などの影響により、海外派遣事業参加者の経済的負担が年々増加している。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・一層のグローバル化の進展により、町内に在住する外国人住民との共生を前提とした社会の仕組みづくりが必要となっている。
・世界的な物価上昇や円安、燃料価格の高騰などの影響により、海外渡航に係る費用が増加している。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

互いの文化の違いを知り、認め合い、支え合える共生社会を進展させるために、今後も国際・姉妹都市交流事業を実施していく必要がある。
外国語指導助手配置や国際交流事業を継続・充実または見直しを図り、英語による実践的なコミュニケーション能力と国際理解の向上を図る。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【自治・参加】分野 情報

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		自治・参加	第5章　多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
基本計画	基本施策		情報	第4節　町民の暮らしに情報が活用されている
		施策項目	地域デジタル	第1項　デジタルを活用した取組が進み、暮らしが便利で豊かになる
			情報交流館	第2項　情報と人々が繋がる拠点として情報交流館（図書館）を活用したいと思う人が増加する
			広聴・広報	第3項　町民の声が行政に届き、行政からの情報が町民にしっかりと届いている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
地域デジタル	第1項　デジタルを活用した取組が進み、暮らしが便利で豊かになる	2	1	1	0	0	100.0%
情報交流館	第2項　情報と人々が繋がる拠点として情報交流館（図書館）を活用したいと思う人が増加する	3	1	0	0	2	33.3%
広聴・広報	第3項　町民の声が行政に届き、行政からの情報が町民にしっかりと届いている	3	1	2	0	0	100.0%
施策内計		8	3	3	0	2	75.0%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
地域デジタル	デジタル活用が効果的に機能していると感じますか	72.2%	AA－	84.9%	AAA－
情報交流館	情報交流館は、町民の学習・交流の場として機能していると感じますか	61.5%	A－	73.5%	AA－
広聴・広報	町民の声が行政に届き、行政からの情報が町民に届いていると感じますか	52.6%	B－	84.5%	AAA－

施策項目別評価シート ＜地域デジタル＞

基本計画	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第4節	町民の暮らしに情報が活用されている
	実現したい具体的な状態 第1項	デジタルを活用した取組が進み、暮らしが便利で豊かになる

分野別政策	自治・参加
基本施策	情報
施策項目	地域デジタル

担当課	企画課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
メール配信サービス登録者（15歳以上）の割合	%	1.5 （R元） 拡大	12.5	12.5	14.3	15.3	55.3	48.0			50.0	○
ITサポートセンター利用者数	人	553 （H30） 拡大	455	539	597	622	520	660			650	◎

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
デジタル活用が効果的に機能していると感じますか	72.2%	AA－	84.9%	AAA－

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ITサポートセンターを週2回開設し、IT機器の初歩的な使い方、不調に対する相談等へのアドバイスに対応したほか、デジタルデバイド対策を題材としたワークショップを不定期開催した。
・デジタル分野の公民連携事業として、令和3年9月に町公式アプリ「しわなび」、10月にお散歩アプリ「よりみちしわ」をリリースした。
・令和3年11月22日の「エルテス」「PCデポ」との包括連携協定をきっかけとして、移動デジタル相談をスタートした。
・包括連携協定事業者からの寄付金を財源とし、令和4年度からお散歩アプリ「よりみちしわ」を活用した懸賞キャンペーン事業を毎年開催した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ITサポートセンター及び移動デジタル相談の開設により、町民のデジタルに関する疑問や不安を解消することができた。
・お散歩アプリ「よりみちしわ」は令和7年度末時点で1,944件ダウンロードされており、デジタル活用及び健康増進アプリとして活用されている。
・令和6年4月からは町公式LINEアカウントが運用開始され、令和7年度末で登録者数13,936人と、16歳以上の町民の2人に1人（50.2%）が登録しており、デジタルを活用した取組が進んでいる。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町公式アプリ「しわなび」は令和6年度末時点で3,492件ダウンロードされ、一定程度普及していたが、アプリ仕様の都合により、令和7年6月をもって廃止した。
・ITサポートセンターや移動デジタル相談等を実施してきたが、デジタル機器やサービスの利用に不安を感じる町民への支援が引き続き必要な状況にある。
・デジタル技術を活用した行政サービスや業務の効率化について、取組が十分に進んでいない分野がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新型コロナウイルスの発生により、社会のデジタル活用やDX化が加速した。
・スマートフォンやオンラインサービスの普及により、日常生活や行政サービスにおけるデジタル活用が進んでいる。
・生成AI等のデジタル技術が急速に進展し、行政分野でも業務効率化や住民サービスへの活用が期待されている。
・デジタル化が進む一方、年齢や利用経験等によるデジタルデバイド（格差）が課題となっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ITサポートセンターを核とした相談支援や利用支援等を継続し、誰もがデジタル技術を活用できる環境づくりを進める。
・既存のデジタルサービスを有効活用するとともに、ニーズや費用対効果、継続性等を踏まえ、新たなサービスの導入を検討する。
・生成AI等の新たな技術を、情報セキュリティ等に留意しながら、行政サービスの向上や業務効率化に活用する。

施策項目別評価シート ＜情報交流館＞

基本計画	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第4節	町民の暮らしに情報が活用されている
	実現したい具体的な状態 第2項	情報と人々が繋がる拠点として情報交流館（図書館）を活用したいと思う人が増加する

分野別政策	自治・参加
基本施策	情報
施策項目	情報交流館

担当課	情報交流館

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
情報交流館利用者数	人	401,641 (H30) 維持	275,313	273,562	299,204	312,787	327,987	322,544			360,000	×
プログラム参加人数	人	486 (H30) 拡大	284	630	718	787	896	840			534	◎
レファレンスサービス（調査相談回答）件数	件	204 (H30) 拡大	166	168	141	171	164	99			224	×

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
情報交流館は、町民の学習・交流の場として機能していると感じますか	61.5%	A−	73.5%	AA−

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

自主サークル活動、各種講座、教室等文化活動が活発に行われ地域文化の拠点として継続して安定的に活動が行えるよう相談、アドバイスなどにより支援を行った。
あふれる情報から必要な情報を適切に収集・選択し、活用するために必要となる知識や方法について情報発信を行った。
子どもたちの調べる力を養う「調べる学習コンクール」や町の記憶を記録する「聞き書き」等、その時々にあわせて、課題解決に向けた取り組みを行った。
開館から時間が経過し施設・設備の保守改善が必要となったことから優先順位を決めて保守管理を計画的に実施した。

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

地域交流センターの利用状況は年度により増減はあるもののコロナ禍から回復傾向にある。
情報を適切に収集し分析、活用できるよう図書館の企画展示、イベントなど事業の中で情報発信を行い、正しい情報を入手する方法や知識を伝えた。
施設・設備の状況調査とリニューアルプランの検討により最適な内容で改修を進めることができている。
イベントの開催を通じて、図書館と交流館の両機能を活かし、人と人との新たな交流やつながりが生まれる機会を創出している。

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

情報交流館を中心としエリア全体の環境を整え、利用したい施設として選ばれるよう努力が必要である。
図書館が実施するレファレンスサービスが後期伸び悩みをみせているため、必要に応じ周知を図る必要がある。
「聞き書き」等を通じて町の歴史や記憶を聞く機会は増えているが、その記録を地域の資料として活用するための仕組みを整える必要がある。
利用者ニーズの多様化に応え、誰もが必要な情報にアクセスしやすい環境を整えていく必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

コロナ禍により生活様式が変化し人の移動や集まる機会が減少している。会議や研修などもリモートで行われることが増え利用状況にも影響がでている。
情報を入手する方法が多様化し読書の方法も本からタブレットなどへ変化が見られる。また、書店のない町が増加し実際に本を手にとることが難しくなっている。
高齢化が進み今までまちで起きたことについての記憶が消えていくことが危惧されている。
夏休みの宿題等で自由研究や読書感想文が必須でない学校が増加している。
AIの普及等により情報環境が大きく変化し、情報を適切に収集・選択・活用する力が一層求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

自主サークル活動、各種講座、教室等文化活動が活発に行われ地域文化の拠点として継続して安定的に活動が行えるよう環境の整備、支援を行う。
情報環境が大きく変化する中で、情報を適切に収集・選択・活用するための知識や方法を伝える取り組みを行う。
施設改修、設備更新を計画的に実施するとともに、提供するサービスの質を高め、利用したい施設として選ばれるように努力が必要。
町の歴史や記憶を記録として残す取り組みを進めていく。
多様なニーズに合わせた情報提供ができる環境を整え、情報発信を行う。

施策項目別評価シート ＜広聴・広報＞

基本計画	分野別将来像 第5章	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち
	実現したい状態 第4節	町民の暮らしに情報が活用されている
	実現したい具体的な状態 第3項	町民の声が行政に届き、行政からの情報が町民にしっかりと届いている

分野別政策	自治・参加
基本施策	情報
施策項目	広聴・広報

担当課	企画課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
まちづくり座談会参加者数	人	215 (R元) 拡大	ー	195	229	200	588	533			260	◎
ホームページ閲覧数	回/日	700 (H30) 拡大	1,182	5,067	5,044	3,122	3,404	2,979			4,000	○
町民意識調査回答率	%	34.1 (R元) 拡大	ー	ー	ー	34.4	ー	ー	37.4		50.0	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町民の声が行政に届き、行政からの情報が町民に届いていると感じますか	52.6%	B－	84.5%	AAA－

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・「まちづくり座談会」を毎年6月頃に町内9地区で開催しており、令和6年度からは誰もが場所を問わず参加できるようインターネット配信を開始した。
・「町長への手紙」は、幅広い世代がいつでも投稿できるよう、令和7年度からは従来の「紙」に加え、「デジタル」による受付も開始した。
・町の各施策に対する町民の満足度及び重要度を定期的に調査・分析するため、令和5年度と令和8年度に「町民意識調査」を実施した。
・広報紙は、幅広い世代に親しまれる紙面を目指し、視認性やデザイン性を高めるため、令和4年度からタブロイド版にリニューアルした。
・ホームページは、モバイル端末での操作性・閲覧性を高めるため、令和5年度にリニューアルした。また、令和6年度からは町公式LINEアカウントの運用を開始した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・「まちづくり座談会」では、インターネット配信を開始して以降、視聴者を含めた参加者数が約2倍となり、より多くの人にまちづくりへの関心を広げることができた。
・「町長への手紙」では、デジタル受付の件数が紙での受付件数を上回り、様式を自由化したことで印刷費用の削減にもつながった。
・「町民意識調査」では、デジタル回答が令和5年度の247件（861件中）から令和8年度は569件（934件中）へと大幅に増加し、回答率も3ポイント向上した。
・広報紙はタブロイド判になったことで「文字が大きくなり読みやすくなった」といった意見が寄せられており、読みやすさの向上につながった。
・町公式LINEの登録者数は令和7年度末で登録者数13,936人と、16歳以上の町民の2人に1人（50．2%）が登録しており、行政情報の有効な伝達手段となっている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ホームページの閲覧数は年々減少しており、情報取得がLINEなどのSNSで完結するケースの増加も、その一因と考えられる。
・町民意識調査の回答率は令和7年度で37.4%と、目標の50%との間に12.6ポイントの開きがある。
・まちづくり座談会の参加者は高齢者が多く、若い世代の参加が少ない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・国内のスマホ利用率は、令和2年の69.3%から令和7年には80.2%へ、高齢者(65歳以上)の利用率も61.5%から75.6%へと上昇し、幅広い世代に浸透している。
・LINE公式アカウントを活用している自治体は、コロナ禍前(令和元年度)の25.5%から令和7年度には87.4%へと増加した。
・令和6年時点では、広報紙を全戸配布している自治体は約8割で、残り約2割は一部配布や希望者配布などの方法を採用している。
・物価高の影響により、広報紙などの印刷費用が上昇している。
・町の高齢化率は、令和2年の31.37%から令和8年6月末時点で32.99%へと上昇した。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・広報紙、ホームページ、SNS(LINE含む)など各媒体の特性を生かした情報発信を推進し、必要な情報を必要な人へ確実に届ける。
・ホームページは役割を整理し、LINEなどのSNSと連携した情報発信を強化することで、必要な情報へアクセスしやすい環境を整備する。
・町民意識調査や町長への手紙、まちづくり座談会など、デジタルを活用した広聴機能をさらに充実させ、多様な世代が町政に参加しやすい環境を整備する。
・高齢者をはじめデジタル機器の利用に不安がある人にも配慮し、広報紙をはじめとする紙媒体とデジタル媒体を効果的に組み合わせた情報提供を継続する。
・物価高などの社会情勢を踏まえ、媒体や手法を継続的に見直しながら、費用対効果の高い広報・広聴事業を推進する。

【行財政経営】

＜行－１＞　住民サービス

＜行－２＞　行財政

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【行財政経営】分野 住民サービス

1　施策の分類

基本構想	分野別政策	行財政経営	
基本計画	基本施策	住民サービス	第1節　町民が必要な手続や情報などを、いち早くかつ丁寧に提供できる体制がある
	施策項目	職員育成	第1項　専門的な知識や対応力を備え、かつ町民に寄り添ったサービスを行える職員がいる
		行政手続	第2項　窓口やインターネットでの行政手続が簡単・便利になっている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
職員育成	第1項　専門的な知識や対応力を備え、かつ町民に寄り添ったサービスを行える職員がいる	1	0	0	0	1	0.0%
行政手続	第2項　窓口やインターネットでの行政手続が簡単・便利になっている	2	1	1	0	0	100.0%
施策内計		3	1	1	0	1	66.7%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
職員育成	町職員は、町民からの相談に適切に対応できていると感じますか	58.3%	B＋	89.0%	AAA＋
行政手続	行政サービスは利用しやすいと感じますか	60.7%	A－	86.5%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜職員育成＞

基本計画		
	行財政経営	
	実現したい状態 第1節	町民が必要な手続や情報などを、いち早くかつ丁寧に提供できる体制がある
	実現したい具体的な状態 第1項	専門的な知識や対応力を備え、かつ町民に寄り添ったサービスを行える職員がいる

分野別政策	行財政経営
基本施策	住民サービス
施策項目	職員育成

担当課	総務課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
窓口対応の満足度	%	62.5 (H29) 拡大	ー	ー	ー	59	指標廃止				68.0	ー
町の行政サービスへの満足度	%	70.1 (H29) 拡大	未設定				63.1	63.1			75.0	×

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている)　○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている)　△:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない)　×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町職員は、町民からの相談に適切に対応できていると感じますか	58.3%	B＋	89.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新採用職員に対し基本的な接遇研修を行うほか、コミュニケーション能力の向上に特化した研修を実施した。
・年単位で作成する研修計画により職階あるいは業務ごとに必要な研修を実施した。
・省庁や行政関連法人、広域組合など外部に職員を派遣し、幅広い知識の習得や多様な経験を積む機会を作った。
・令和6年度からDXを推進するための「行政改革推進本部」及び「行政改革推進本部幹事会」を発足し、DXを組織横断した形で取り組みを開始した。
・令和6年度から総務省の「地域活性化起業人制度」を活用して、民間事業者からDX専門人材である「最高情報責任者(CIO)補佐官」を委嘱し、DX支援を加速させた。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・採用初期に接遇研修を行うことにより、基本的なマナーを意識した窓口・電話応対ができる職員が育成されている。
・職階・業務ごとに必要な研修を計画的に実施していることで、職員が役割に応じた知識・技能を習得することができた。
・外部機関への職員派遣により、職員が幅広い知識と多様な経験を習得し、業務改善や対外連携の強化、組織の活性化につながった。
・行政改革推進本部幹事会のメンバーが中心となり、書かない窓口システム等の導入などが進められ、DX人材育成が進んでいる。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・業務量の増加や繁忙期の偏在により、研修に十分参加できない職員がいる。
・職階研修で得た知識や気づきを日常業務に実践する機会がない場合、研修効果が持続しにくい。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・住民ニーズの多様化により、相談内容も複雑化し、個別対応にかかる人や時間が増大している。
・デジタル化の影響により、迅速かつ柔軟な対応が求められているとともに情報格差への配慮が必要となっている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・全職員が持続的に能力向上に取り組む環境を整えるため、eラーニングや短時間研修など、業務と両立しやすい研修手法を導入し、学びの機会を拡充する。
・日常業務の中で職員が実践的に能力を高められるよう、OJTの質の向上を図り、指導体制やフィードバックの仕組みを充実させる。

施策項目別評価シート ＜行政手続＞

基本計画	行財政経営	
	実現したい状態 第1節	町民が必要な手続や情報などを、いち早くかつ丁寧に提供できる体制がある
	実現したい具体的な状態 第2項	行政サービスは利用しやすいと感じますか

分野別政策	行財政経営
基本施策	住民サービス
施策項目	行政手続

担当課	町民課、財政課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
マイナンバーカード交付率	%	13.0 (H30) 拡大	26.7	40.5	64.8	77.6	86.4	100.1			96.0	◎
コンビニ交付利用率	%	16.0 (H30) 拡大	15.5	17	22.2	30.7	34.7	38.3			55.0	○

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
行政サービスは利用しやすいと感じますか	60.7%	A－	86.5%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・その場で申請が完了するように庁舎内にマイナンバーカード申請サポートブースを設けた。
・庁舎以外の施設での出張申請を実施した。
・マイナンバーカード交付時に、休日、早朝や夜間でもコンビニ交付が利用できることを案内した。
・コンビニ交付の利用体験ができるように、窓口にコンビニ交付と同様の操作ができる端末を設置した。
・令和7年2月から書かない・迷わない窓口システムの導入を実施した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・高齢者や働く世代のマイナンバーカード申請が増加した。
・コンビニ交付の端末操作に対する不安感を軽減できた。
・マイナンバーカードの交付率が増加したことにより、コンビニ交付の利用率も年々増加した。
・「書かない・迷わない窓口システム」導入後の所要時間検証にて、67%の時間短縮という効果を確認できた。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・マイナンバーカード交付率の増加に伴い、カード未取得者は、必要性を感じていない人、制度に不安を感じている人の割合が多くなっているため、アプローチの仕方に課題がある。
・コンビニ交付サービスを知らない住民や、聞いたことはあるが利用方法が分からないという住民に対する周知の仕方に課題がある。
・マイナンバーカードを取得しても、使い道が分からない住民に対する周知の仕方に課題がある。
・発券機の設置場所が分かりにくいことや、説明が多く理解に時間がかかることなどの課題がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・少子高齢化による高齢者への行政サービスの維持。
・健康保険証利用や各種オンライン手続など、マイナンバーカードの活用場面は年々拡大している一方で、カードは持っているが利用していない住民が多い。
・R8からコンビニ交付では手数料を100円安く取得することができるようになったため、コンビニ交付の利用者のさらなる増加が期待できる。
・新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、行政手続のオンライン化や非対面サービスの必要性が高まり、国においても自治体DXが推進されてきた。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・マイナンバーカードはオンライン申請のための重要な役割を担っているため、カード交付率向上の取組に加え、カードを実際に利用する機会を増やし、その利便性を住民に実感してもらう取組を推進する。
・窓口での証明書交付を中心とした運用から、コンビニ交付など住民が都合の良い時間や場所で取得できるサービスへの利用転換を図る。
・高齢者やデジタル機器の利用に不慣れな住民に配慮し、利用支援や相談体制の充実を図ることで、誰もが行政サービスを利用しやすい環境を整備する。
・「書かない・迷わない窓口システム」に関する課題を解消しつつ、「行かない窓口(オンライン申請)」へのステップアップを検討する。

第三次紫波町総合計画　施策評価（行政評価）シート

基本施策	【行財政経営】分野 行財政

1　施策の分類

基本構想	分野別政策		行財政経営	
基本計画	基本施策		行財政	第2節　持続可能な行政経営が行われている
		施策項目	人事管理	第1項　職員が業務に集中し、最大のパフォーマンスを発揮できる環境がある
			行政運営	第2項　計画的かつ適正な行政運営が行われている
			町有財産	第3項　町有財産の適切な管理と積極的な活用が行われている
			財政運営	第4項　行政ニーズに応えるための財政運営が行われている

2　まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

施策項目	施策目標	指標数	指標の達成状況				達成度
			◎	○	△	×	
人事管理	第1項　職員が業務に集中し、最大のパフォーマンスを発揮できる環境がある	1	0	0	0	1	0.0%
行政運営	第2項　計画的かつ適正な行政運営が行われている	2	0	1	0	1	50.0%
町有財産	第3項　町有財産の適切な管理と積極的な活用が行われている	2	2	0	0	0	100.0%
財政運営	第4項　行政ニーズに応えるための財政運営が行われている	2	0	2	0	0	100.0%
施策内計		7	2	3	0	2	71.4%

【達成状況の凡例】　◎：達成（目標値を超えている）　○：概ね達成（目標値に対して進捗がみられる・維持されている）　△：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない）　×：後退（基準値を下回っている）
【達成度算出方法】　達成度：達成状況が◎○の指標数/全指標数

3　町民意識調査結果（R8）

施策項目	設問内容	満足度		重要度	
		割合	評価	割合	評価
人事管理	町職員は、町民からの相談に適切に対応できていると感じますか	58.3%	B＋	89.0%	AAA＋
行政運営	町のさまざまな取組が、計画的に進められていると感じますか	46.8%	C＋	86.5%	AAA＋
町有財産	町の財産（空き校舎など）が、有効活用されていると感じますか	61.1%	A－	80.2%	AAA－
財政運営	町の財政運営は適切であると感じますか	51.8%	B－	90.3%	AAA＋

施策項目別評価シート ＜人事管理＞

基本計画		
	行財政経営	
	実現したい状態 第2節	持続可能な行政経営が行われている
	実現したい具体的な状態 第1項	職員が業務に集中し、最大のパフォーマンスを発揮できる環境がある

分野別政策	行財政経営
基本施策	行財政
施策項目	人事管理

担当課	総務課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績 R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値（R9）	達成状況
職員に対する満足度	%	60.4 (H29) 拡大	ー	ー	ー	ー	指標廃止				80.0	ー
町の行政サービスへの満足度 ※再掲	%	70.1 (H29) 拡大	未設定				63.1	63.1			75.0	×

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度 割合	満足度 評価	重要度 割合	重要度 評価
町職員は、町民からの相談に適切に対応できていると感じますか	58.3%	B＋	89.0%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和2年度に策定した紫波町人材育成基本方針に基づき、令和3年度から係長制を導入し、早い段階からの管理職候補の育成に取り組んだ。
・即戦力となる能力の高い職員の確保に向けて中途採用試験(10月採用)を毎年実施した。
・採用試験の受験者数の増加を図るため、採用専用サイトの開設を行い年間を通じた情報発信を行うとともに、新卒向け試験日程の早期化等の工夫を行った。
・メンタル不調職員にいち早く気づき対処するため、毎年ストレスチェック及びメンタルヘルス研修を実施したほか、定期的な個別相談の機会を設けた。
・職員がより町民本位の行政サービスを提供できるよう、令和7年1月からコンプライアンス条例を施行し、令和7年度にカスタマーハラスメント対応ガイドラインを策定した。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・係長制の導入により、中間層のマネジメント力が向上し、組織運営の安定化と業務遂行力の強化につながっている。
・計画的な中途採用により、即戦力人材を安定的に確保でき、組織運営の安定化、職場の活性化につながっている。
・専用サイトの開設や新卒向け試験日程の早期化等により、受験者及び採用側双方の利便性が向上するとともに、受験者数が増加した。
・継続的なストレスチェックやメンタルヘルス研修実施により職員全体の理解が深まっているとともに、定期的な個別相談の機会を設けることで早期のメンタル不調や悩みに対応できた。
・コンプライアンス条例の施行やカスタマーハラスメント対応ガイドラインの策定により、過剰な要求等に対する組織内の共通理解が進み、対応の方向性が統一された。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・新卒向け試験日程の早期化により受験者数が増加した一方、他自治体等との併願者も増加し、辞退者が発生している。
・若手から中堅層にかけての離職者が一定数発生しており、経験の蓄積や専門性の継承が進みにくい。
・病休・休職者が0人となった時期もあったが、新たなメンタルヘルス不調者が発生しており、職員のメンタルヘルス支援を継続的に行う必要がある。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・少子高齢化により、地方公務員志望者数が全国的に減少している。
・働き方改革が推進され、長時間労働の是正や柔軟な働き方の導入など、職員のワークライフバランスを重視するようになってきている。
・定年延長制度の導入により、高齢の職員が増加している。
・行政サービスの複雑化や人員不足による業務量の増大等により、自治体職員の精神的負荷が高まり、メンタル不調者が増加している。
・行政サービスの複雑化や情報管理の高度化、情報発信リスクの増大などにより、職員一人ひとりのコンプライアンス意識の徹底が求められている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・優秀な人材確保に向け、採用専用サイトの充実等を図り、志望度の高い受験者を増やすとともに、採用試験手法の工夫を進め、選考の質向上を図る。
・若手から中堅層にかけての離職を防ぐため、職員一人ひとりの能力・適性・経験に応じたキャリア形成を支援し、段階的に成長できる仕組みを整備する。
・定年引上げに伴い役職定年となった職員の知識・経験を組織として活用するため、人事評価において後進育成を明確に位置づけ、計画的な継承を進める。
・既存のメンタルヘルス対策を継続・強化しながら、産業医等との連携や職場復帰支援の仕組みをさらに充実させる。
・コンプライアンスやカスタマーハラスメントに関する研修を計画的に実施し、全職員の理解向上と組織文化としての定着を進める。

施策項目別評価シート ＜行政運営＞

基本計画		
	行財政経営	
	実現したい状態 第2節	持続可能な行政経営が行われている
	実現したい具体的な状態 第2項	計画的かつ適正な行政運営が行われている

分野別政策	行財政経営
基本施策	行財政
施策項目	行政運営

担当課	総務課、企画課、財政課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
町の行政サービスへの満足度 ※再掲	%	70.1 (H29) 拡大	―	―	―	―	63.1	63.1			75.0	×
情報システムの共同化、クラウド化率	%	61.0 (R元) 拡大	65.1	68.3	69.8	70.0	72.0	72.3			75.0	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
町のさまざまな取組が、計画的に進められていると感じますか	46.8%	C＋	86.5%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和6年度に後期基本計画(R6～R9)を策定したほか、毎年度ローリング方式により実施計画を策定している。
・「論理的思考に基づいた政策立案」のため、令和4年度から施策方針書に「ロジック・モデル」の考え方を導入した。
・紫波町内部統制制度の導入(R5年度～)
・紫波町デジタル・トランスフォーメーション推進基本方針の策定(R6年度～)
・紫波町公正な職務の執行の確保に関する条例の制定(令和7年1月施行)

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・後期基本計画及び毎年度の実施計画策定により、社会情勢や行政課題の変化に柔軟に対応しつつ、限られた行政資源の効果的な配分と総合計画の着実な推進が図られた。
・「ロジック・モデル」の導入により、施策の目的と成果の因果関係が明確化され、論理的かつ根拠に基づく政策立案や施策評価の質の向上が図られた。
・財務事務における契約事務、補助金事務などが全庁共通の事務手順と様式に統一され、事務の手違いなどが改善された。
・これまで各課で個々に行っていた業務改革が推進基本方針により行政改革推進本部及び同幹事会によって全庁での取り組みとなり好事例の庁内共有が促進された。
・職員コンプライアンスの総合的ルールが定められるとともに、町と町民等との適切な関係に係るスタンスが条例により明文化された。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・ローリング方式による計画の見直しを継続しているものの、新型コロナウイルス感染症や物価高騰など急激な社会経済情勢の変化に対し、変化に応じた機動的な計画運用や事業の選択と集中を十分に行うことができていない。
・ロジック・モデルを導入したものの、施策立案・評価への活用が十分に定着できておらず、成果を重視した政策形成につなげるためにはさらなる改善が必要である。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・計画期間中は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰など、計画策定時には想定が困難であった社会経済情勢の変化が生じた。また、人口減少・少子高齢化の進行に加え、人手不足、デジタル化の進展、脱炭素社会の実現、災害への対応など、地域課題は一層複雑化・多様化しており、変化に柔軟かつ迅速に対応する行政運営がこれまで以上に求められている。
・新型コロナウイルス感染症を機に非接触・非対面を積極的に取り入れた新たな生活様式への移行が求められ、行政分野においてもデジタル技術活用の動きが加速化した。
・紫波町内の人口におけるマイナンバーカード所有率が80%を超え、マイナンバーカードを用いた行政手続についても対応が必要になっている。
・カスタマーハラスメントが社会問題化し、多くの自治体で必要な対策が講じられている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・社会経済情勢や地域課題の変化を踏まえ、実施計画の見直しによる計画の実効性向上と、ロジック・モデルを活用した政策立案・施策評価のさらなる充実を図る。
・引き続き内部統制に取り組むとともに、持続可能なものとなるよう社会情勢や法令改廃に応じて必要な見直しを行う必要がある。
・紫波町デジタル・トランスフォーメーション推進基本方針は令和8年度が最終年であることから、次年度以降のデジタル・トランスフォーメーションに関する新たな方針等をこれまでの活動をもとに策定する必要がある。
・ハラスメントに関する社会動向に意を払うとともに、職員コンプライアンスの確保に引き続き取り組む。

施策項目別評価シート ＜町有財産＞

基本計画	行財政経営	
	実現したい状態 第2節	持続可能な行政経営が行われている
	実現したい具体的な状態 第3項	町有財産の適切な管理と積極的な活用が行われている

分野別政策	行財政経営
基本施策	行財政
施策項目	町有財産

担当課	財政課、地域づくり課

1 まちづくり指標 達成状況(R2～R9)

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
未利用財産処分の累計件数	件	7 (H30) 拡大	12	20	33	52	63	76			63	◎
未利用普通財産活用件数	件	40 (H30) 拡大	38	53	65	197	96	111			50	◎

【達成状況の凡例】 ◎:達成(目標値を超えている) ○:概ね達成(目標値に対して進捗・維持されている) △:停滞(目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない) ×:後退(基準値を下回っている)

2 町民意識調査結果(R8)

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
町の財産(空き校舎など)が、有効活用されていると感じますか	61.1%	A－	80.2%	AAA－

3 第三次総合計画の成果検証(R2～R9)

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間(R2～R9)に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町の土地売却物件サイトの定期更新作業を行い、常に最新情報を提供できるよう現場写真や位置図を公開し、いつでも誰でも情報にアクセスできる環境を維持した。
・閉館、閉所となった児童福祉施設については、活用提案募集を実施し活用が進んでいる。
・令和3年3月に「紫波町学校跡地活用基本方針」を策定し、学校再編により閉校となった小学校の跡地活用について方針を定めた。
・各小学校ごとに「紫波町町有財産活用事業実施方針」を策定し、活用提案募集を実施。
・旧紫波郡役所を改修し、「紫波町旧紫波郡役所文化交流施設」として活用(民間事業者へ指定管理)。

B. 計画期間中の成果・効果(プラスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・売却や貸付により歳入(一時収入)に貢献できた。それと同時に、今後町がその土地を維持するリスクや維持管理費用を削減することにつながった。
・未利用地を処分・貸し付けたことで、これまで財政課で手配していた草刈りや、景観維持への対応経費等を削減できた。
・閉校となった小学校7校中6校、及び児童福祉施設2施設で活用が開始され、地域の新たな拠点として生まれ変わった
・元水分小学校では「酒の学校」事業がスタートし、酒造免許も取得しクラフトサケを製造。酒産業の振興につながっている
・元長岡小学校では「ノウルプロジェクト」事業がスタートし、民間投資による集合住宅12戸、ショップ、レストラン、ホテルの営業がスタートしている。また、長岡小学校周辺エリアの人口増加、地元生産者の作物、商品がショップやレストランで販売・利用され産業の振興につながっている。

C. 計画期間中の課題(マイナスの視点)

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標(「実現したい具体的な状態(項レベル)」)を比較して、達成できなかった点(目標とのギャップ)を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・民間業者からは「この部分だけ細かく区切って買いたい」「もっと安ければ借りたい」という要望があっても、行政としての売却ルールや適正価格の壁があり、柔軟な交渉が難しい場面がある。
・処分着手しようとしても、隣地との境界が不明確である場合や、残置物がある場合などは、相続手続きや測量、解体費用の算定などに時間を要し、機動的に動けないケースがあった。
・元小学校のうち公共利用(公民館代替地)する方針を立てていた1校について、活用が決まっていない。

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間(R2～R9)に生じた国内外の社会情勢や地域(町内・県内)の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・物価高騰による資材や人件費の値上がりの影響で、民間側が住宅建築に慎重になっており、古い施設の改修、リノベーションのハードルが上がっている。
・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、テレワークによる地方拠点の新設、ワーケーション需要が急増したことで、未利用公有地を民間サテライトオフィスやコワーキングスペースとして利用する例が増えている。
・脱炭素社会の実現を目指し、再生可能エネルギー用地としての需要が高まっている。
・物流2024年問題により、物流拠点を新設する動きが見られている。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画(R10～R17)では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・町が費用負担し測量や残置物処分をしてから売るのではなく、測量や解体は購入者側で行ってもらうが、その分価格を考慮するといった、 現状渡しの公募パターンを増やして事務を効率化を行う。
・普通財産の活用だけでなく、拡充から縮充への発想転換が必要となってくる。
・買い手がつかない物件については、売却を一旦保留し、定期借地などの仕組みを使って、民間や地域が使い始めやすい条件を整え、活用件数を底上げを図る。
・行政と民間事業者による公民連携にとどまらず、様々な関係者との共創の重要性が高まっている。活用が始まった公共施設や賃貸している町有財産の管理や修繕、照明器具のLED化などにも取り組む必要がある。

施策項目別評価シート ＜財政運営＞

基本計画		
	行財政経営	
	実現したい状態 第2節	持続可能な行政経営が行われている
	実現したい具体的な状態 第4項	行政ニーズに応えるための財政運営が行われている

分野別政策	行財政経営
基本施策	行財政
施策項目	財政運営

担当課	財政課、企画課、税務課、会計課

1 まちづくり指標 達成状況（R2～R9）

指標名	単位	基準値（基準年）	実績								目標値（R9）	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
財政調整基金残高	億円	6.7 (H30)	8.9	14.2	17	15.3	15	16.1			9.0	○
町税の収納率	%	98.7 (H30)	99.2	99.2	99.2	99.2	99.1	98.9			99.0	○

【達成状況の凡例】 ◎：達成（目標値を超えている） ○：概ね達成（目標値に対して進捗・維持されている） △：停滞（目標値に対して当初値付近で停滞している・実績が出ていない） ×：後退（基準値を下回っている）

2 町民意識調査結果（R8）

設問内容	満足度		重要度	
	割合	評価	割合	評価
町の財政運営は適切であると感じますか	51.8%	B－	90.3%	AAA＋

3 第三次総合計画の成果検証（R2～R9）

A. 計画期間中の主な取組・事業

対象期間（R2～R9）に実施した主な取組・事業について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・予算の重点的、効果的な配分
・自主財源の確保（ふるさと納税の推進、歳計現金・基金の運用等）
・財政の見える化
・税の公正かつ公平な賦課徴収及び自主納付の推進（納付方法の電子化）
・適正かつ効率的な会計事務

B. 計画期間中の成果・効果（プラスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」の結果、確認できた成果や地域に現れた変化・効果について文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・適正かつ効率的に事務を行った。
・ふるさと納税額、運用による利息収入が増えた。
・税の収納率を高水準で維持できた。（まちづくり指標実績推移のとおり）
・基金残高が増えた。（まちづくり指標実績推移のとおり）

C. 計画期間中の課題（マイナスの視点）

「A. 計画期間中の主な取組・事業」と目標（「実現したい具体的な状態（項レベル）」）を比較して、達成できなかった点（目標とのギャップ）を文章で記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

D. 社会情勢や地域課題の変化

当該施策分野に関連する範囲で、対象期間（R2～R9）に生じた国内外の社会情勢や地域（町内・県内）の状況・課題の変化を文章で記入してください。また、根拠となるデータがある場合は必ず記載してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・令和5年度末にゼロ金利政策が終了し、令和8年6月には政策金利が1%まで引き上げられた。
・大型公共事業が計画期間中に集中しており、小中学校の再編、橋梁耐震補修、ノウルプロジェクト、赤石小学校増築、学校給食センター整備等が実施された。
・ふるさと納税の自治体間競争が激化。ルールの厳格化に加え、自主財源の現状維持のためにどの自治体も力を入れざるを得なくなっている。
・DX推進により、納付方法、支払方法の電子化が推進された。

E. 今後の施策の方向性

上記A、B、C、Dを踏まえて、次期総合計画（R10～R17）では「具体的な施策」及び「取組・事業」をどのような方向性で進めていくべきか、理由と併せて記入してください。【箇条書き／文章記載／最大5つ程度】

・引き続き、適正かつ効率的な事務執行を行う。
・次期総合計画期間においても、「身の丈にあった財政運営」を基本とし、一層の自主財源確保、効果的な支出となるよう取組を進めていく必要がある。
・新たな自主財源の確保・維持の手段として、引き続き、ふるさと納税、基金等の運用は推進していく。
・効果的な予算調整となるほか、対外的に「納得感」が醸成されるようさまざまな手段による「財政の見える化」を進めていく必要がある。
・今総合計画期間に進められたDXを次期総合計画期間においても継続し、事務の効率化を図っていく。